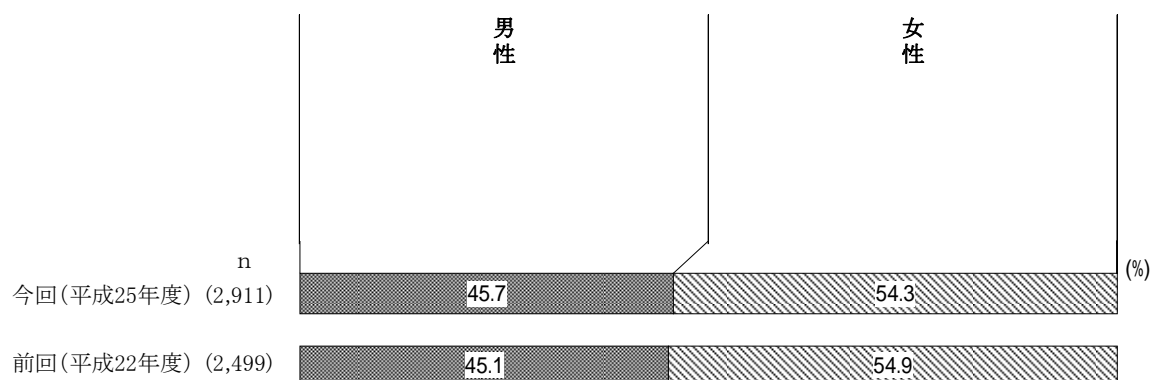


第2章 調査結果の詳細

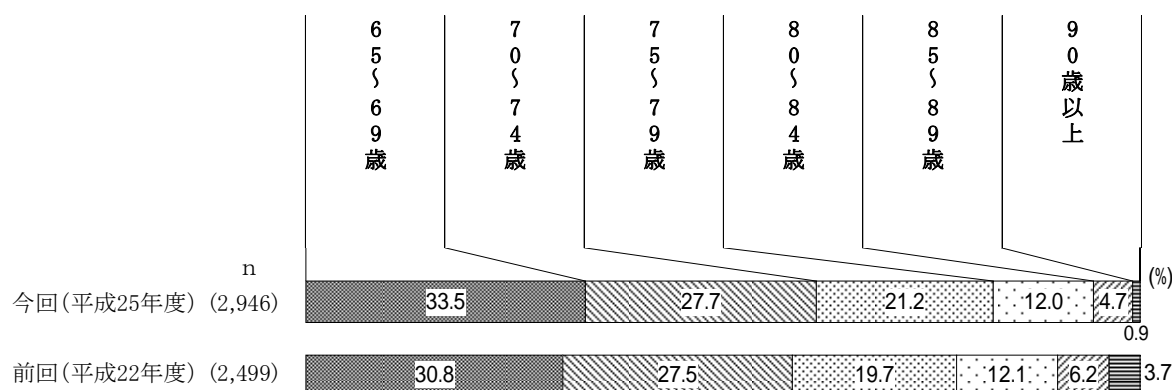
1. 回答者の属性

(1) 回答者の属性

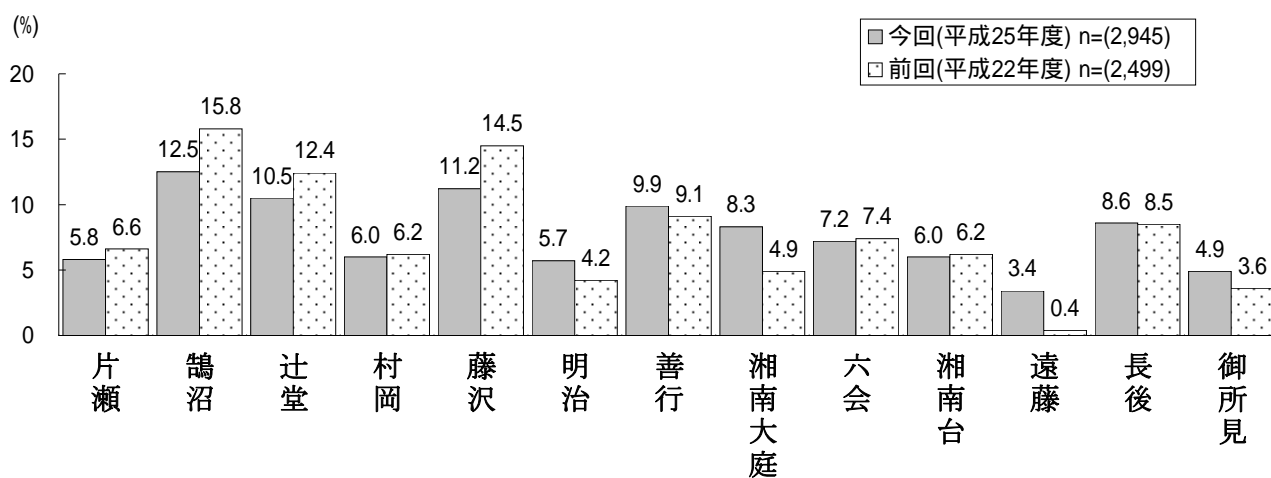
対象者（本人）の性別(問1)



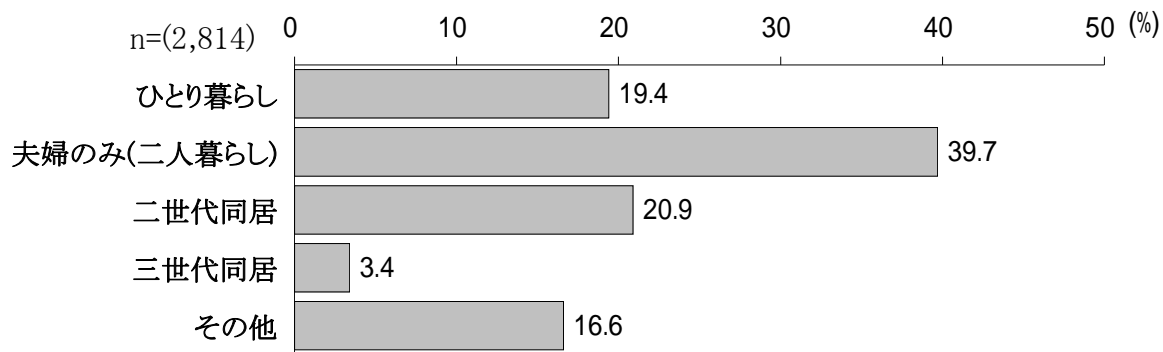
対象者（本人）の年齢(問2)



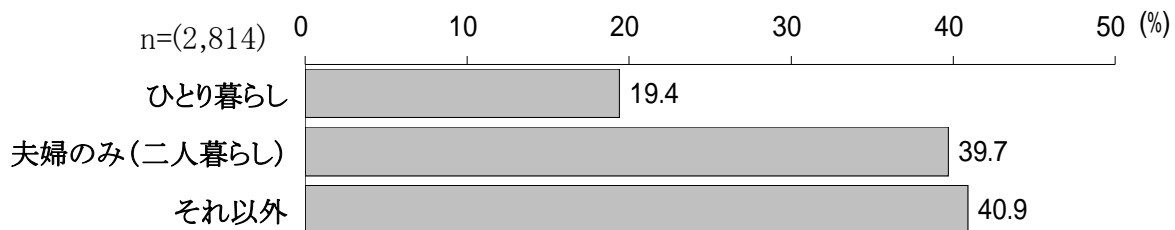
対象者（本人）の居住地域(問3)



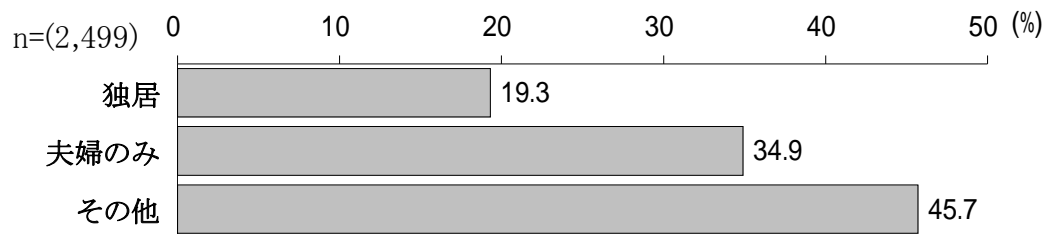
対象者（本人）の家族構成(問4)



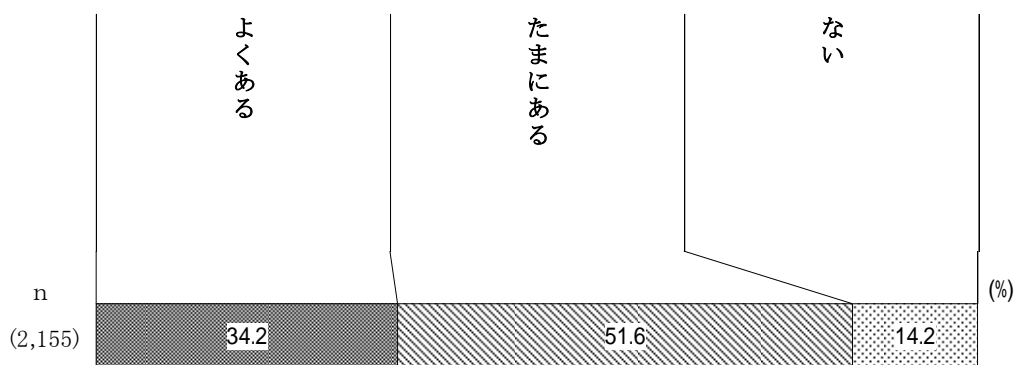
〔家族構成 3区分〕



【参考 前回調査(平成22年度)】



日中の独居状況(問4 - 1)

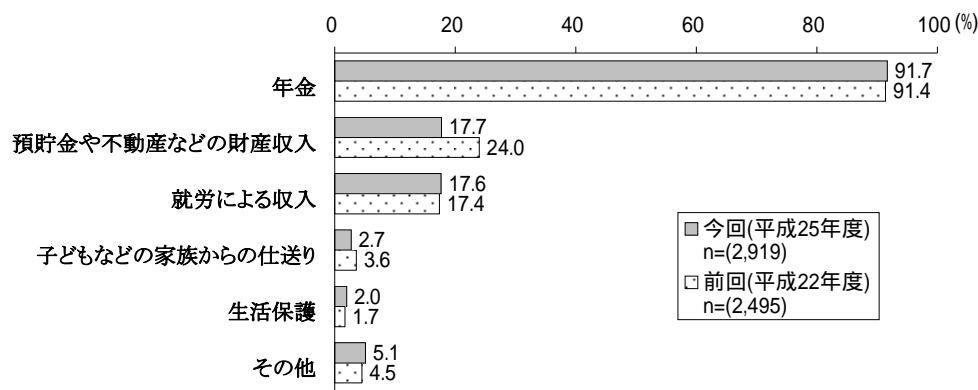


2. 現在の経済状況について

(1) 生計手段(複数回答)

問5 あなた(ご本人)の生計手段はどのようなものですか。(あてはまるものすべてに)

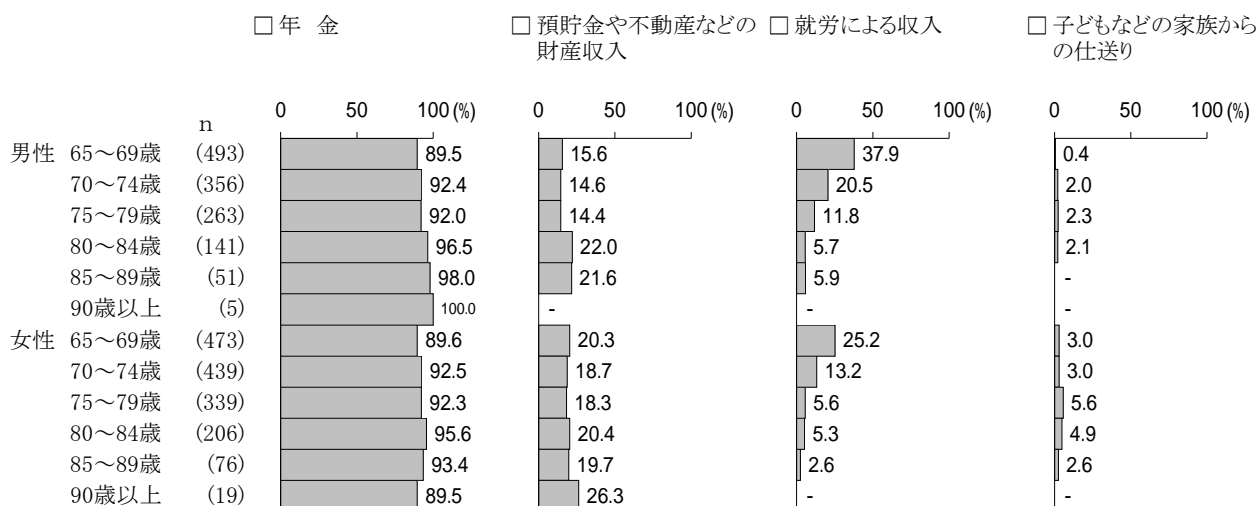
「年金」が9割強と特に多い



生計手段は、「年金」が91.7%と最も多く、以下、「預貯金や不動産などの財産収入」(17.7%)、「就労による収入」(17.6%)と続いている。

性・年齢別にみると、「年金」は男女ともいずれの年齢を問わず、9割前後で圧倒的に多くなっている。次に「預貯金や不動産などの財産収入」は、男性80~90歳、女性65~69歳、女性80~84歳で2割台と多くなっている。「就労による収入」は、男女いずれも65~69歳で多く、男性で37.9%、女性で25.2%となっている。

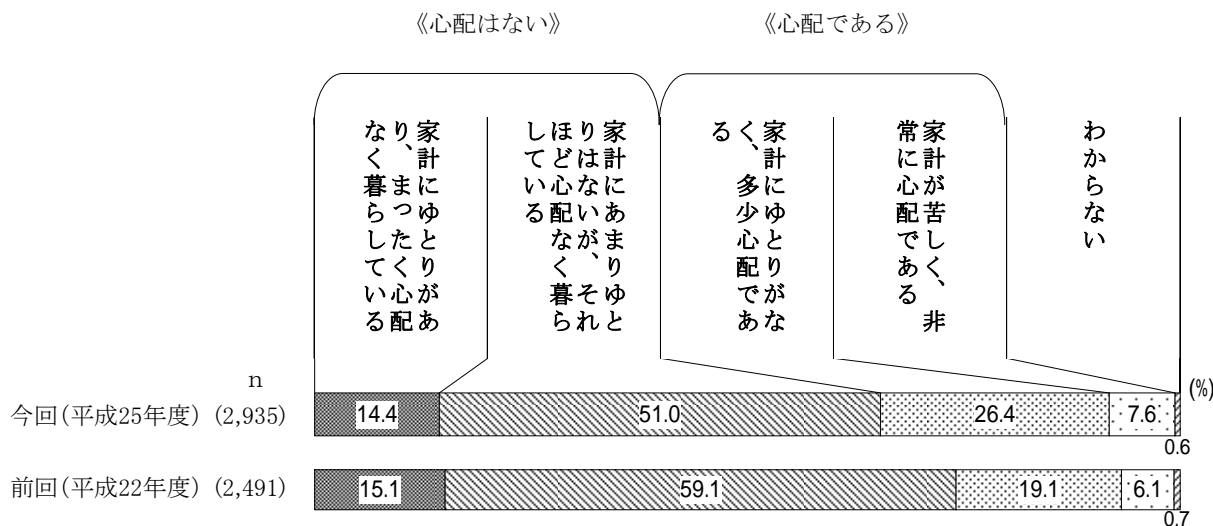
生計手段(性・年齢別(上位4項目))



(2) 現在の経済的な暮らし向き

問6 あなた(ご本人)は、ご自分の現在の経済的な暮らし向きについて、どのようにお考えですか。(1つに)

《心配はない》層が6割台半ば

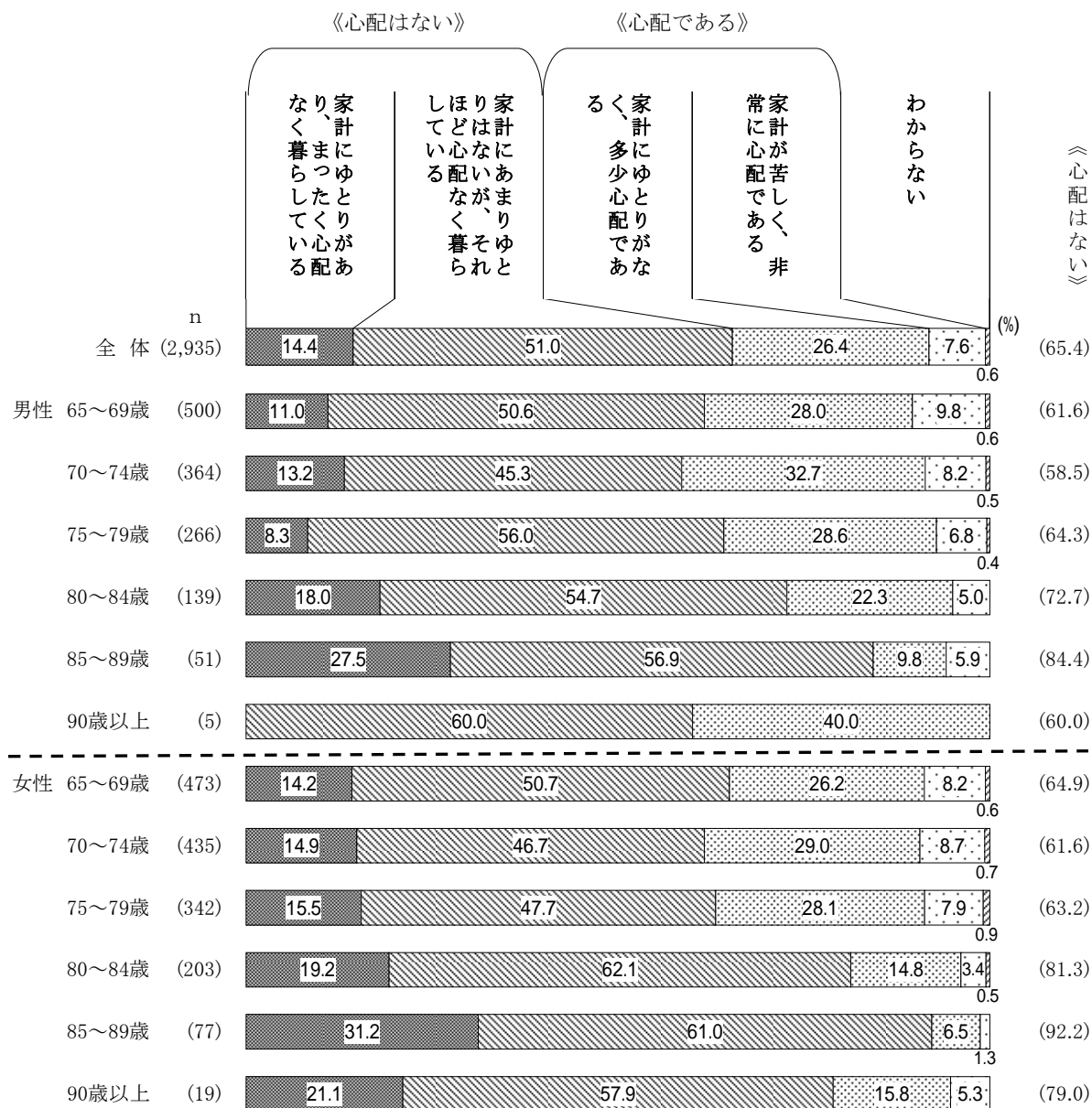


現在の経済的な暮らし向きは、「家計にあまりゆとりはないが、それほど心配なく暮らしている」が51.0%で最も多く、「家計にゆとりがあり、まったく心配なく暮らしている」(14.4%)をあわせると、《心配はない》層が全体の65.4%を占める。一方、《心配である》層(「家計にゆとりがなく、多少心配である」+「家計が苦しく、非常に心配である」)は34.0%であった。

前回調査と比較すると、《心配はない》が8.8ポイント減少した。

性・年齢別にみると、《心配はない》層は男女とも、年齢が高くなるほど、その割合が増加する傾向がみられる。

暮らし向き（性・年齢別）

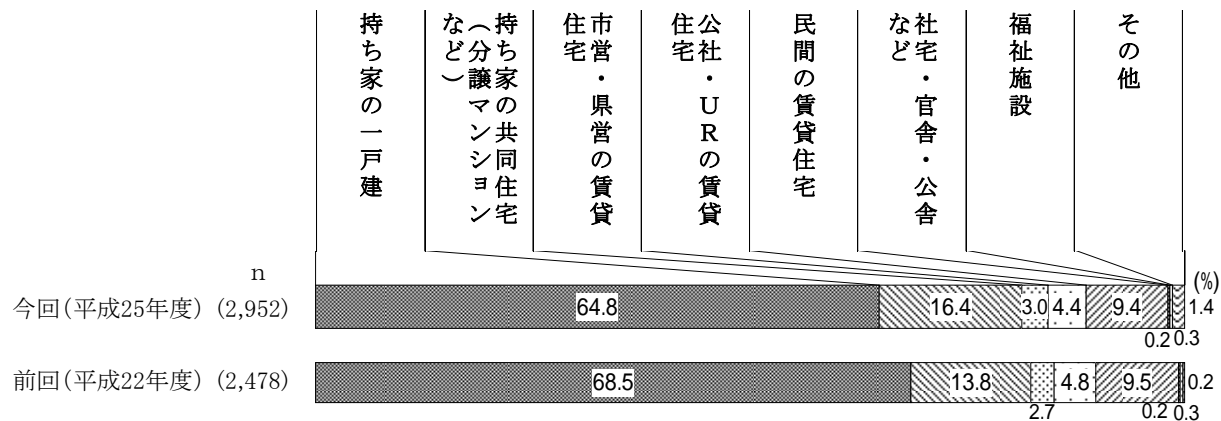


3. 住まいの状況について

(1) 住居形態

問7 あなた(ご本人)は、どのような住宅にお住まいですか。(1つに)

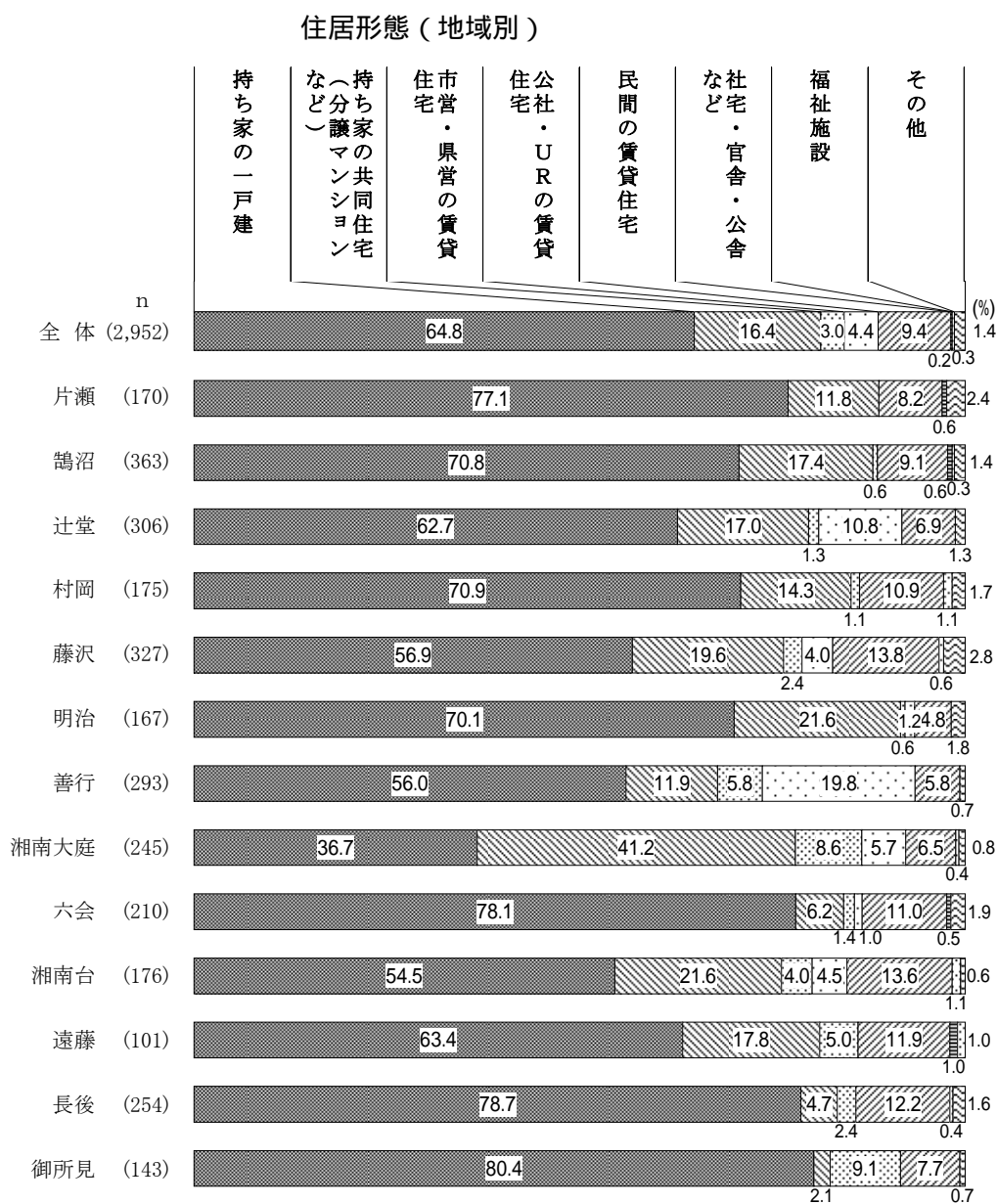
「持ち家の一戸建」が6割台半ば



住居形態は、「持ち家の一戸建」が64.8%で最も多く、「持ち家の共同住宅（分譲マンションなど）」(16.4%)、「民間の賃貸住宅（アパート、借家、賃貸マンションなど）」(9.4%)と続いている。

前回調査と比較すると、「持ち家の一戸建」が3.7ポイント減少し、「持ち家の共同住宅（分譲マンションなど）」が2.6ポイント増加した。

地域別にみると、「持ち家の一戸建」は、御所見で8割強、片瀬、六会、長後で8割弱と多く、また、「持ち家の共同住宅（分譲マンションなど）」は湘南大庭で4割台と多くなっており、住居形態は地域により大きく異なっている。

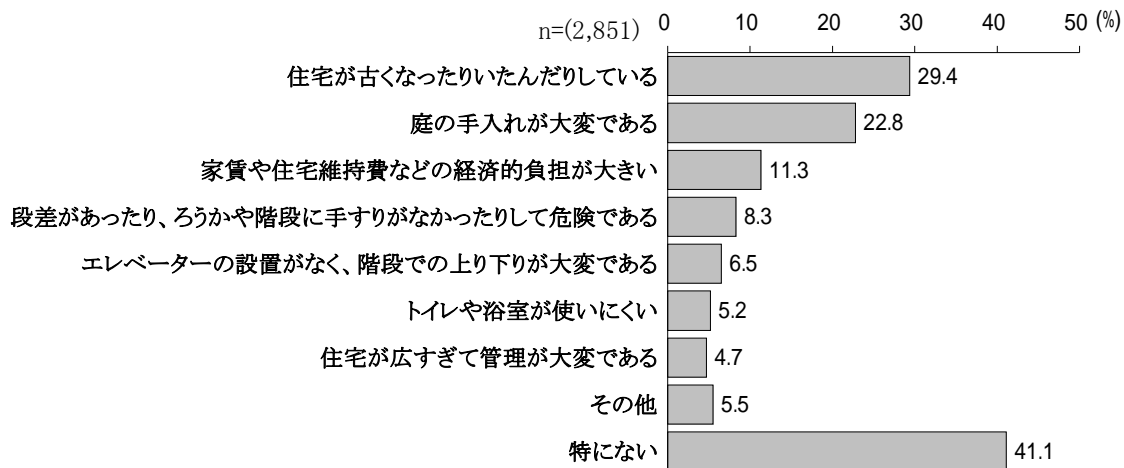


(2) 住まいについて困っていること(複数回答)

問8 現在のお住まいについて、困っていることはありますか。

(あてはまるものすべてに)

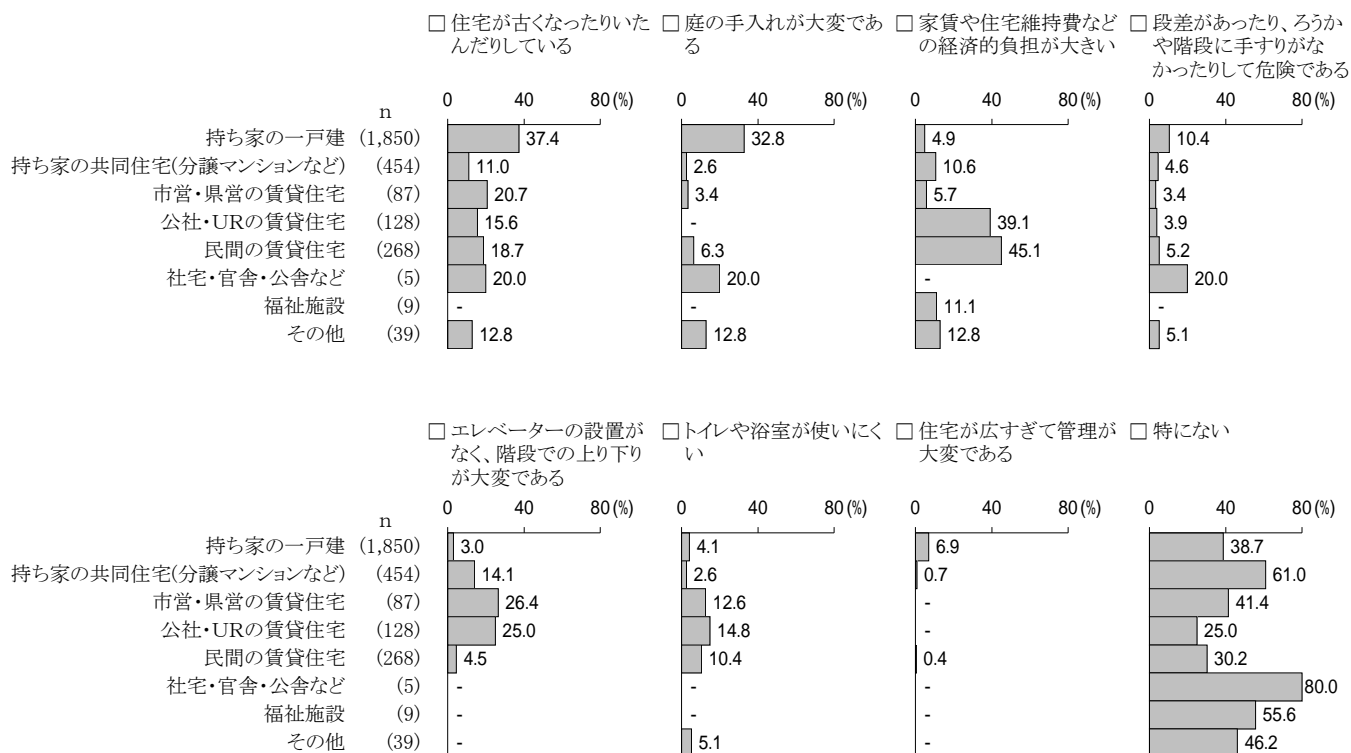
「住宅が古くなったりいたんだりしている」が3割弱



住まいについて困っていることは、「住宅が古くなったりいたんだりしている」が29.4%で最も多く、以下「庭の手入れが大変である」(22.8%)、「家賃や住宅維持費などの経済的負担が大きい」(11.3%)と続いている。一方、「特にない」は41.1%となっている。

住居形態別にみると、「住宅が古くなったりいたんだりしている」「庭の手入れが大変である」ともに持ち家の一戸建てで3割台、「家賃や住宅維持費などの経済的負担が大きい」は民間の賃貸住宅、公社・URの賃貸住宅で4割前後と多くなっている。

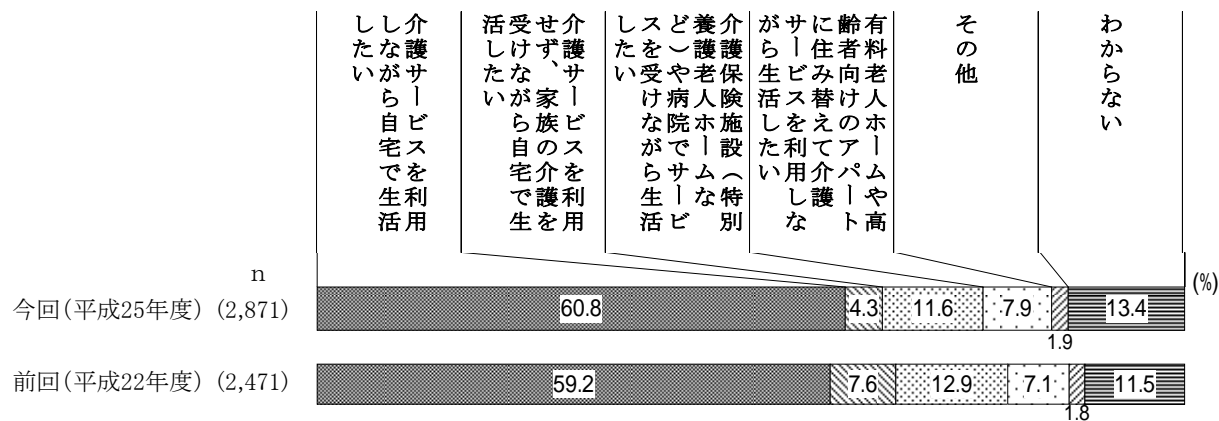
住まいについて困っていること（住居形態別（上位7項目＋「特にない」））



(3) 要介護認定を受けた時の生活についての希望

問9 あなた(ご本人)は、介護保険制度の要介護認定を受けた場合の生活について、どのような希望をお持ちですか。(1つに)

「介護サービスを利用しながら自宅で生活したい」が6割強

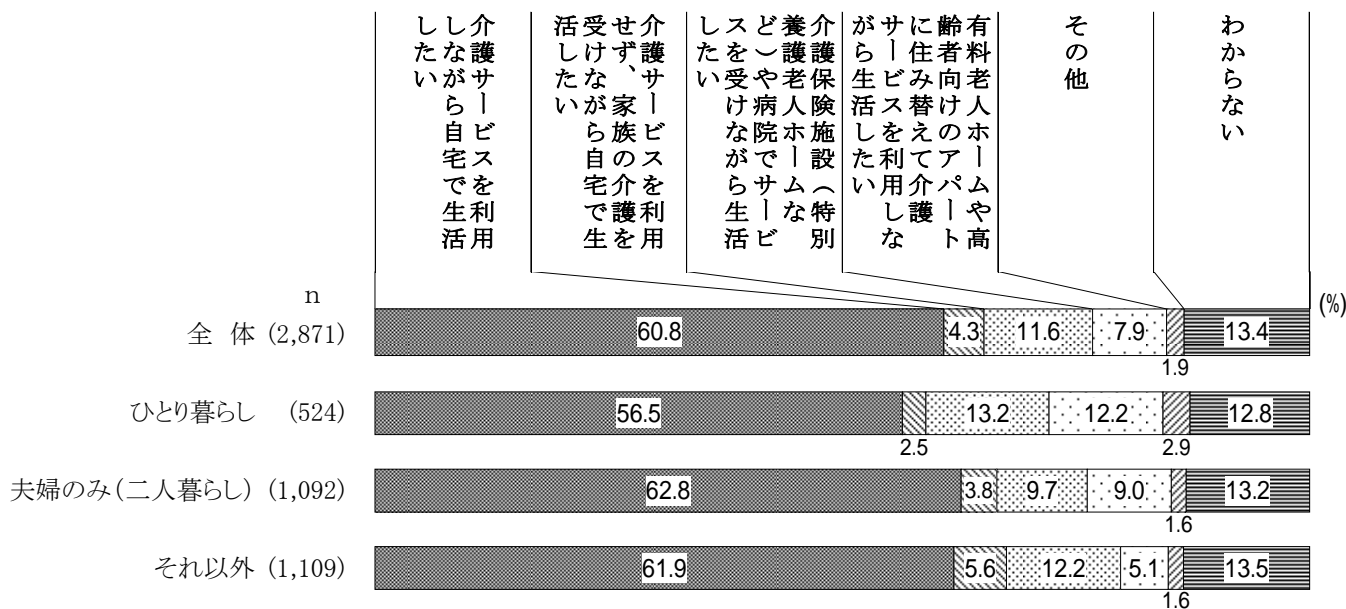


要介護認定を受けた時の生活についての希望は、「介護サービスを利用しながら自宅で生活したい」が60.8%で最も多い。また、「わからない」が13.4%、「介護保険施設や病院でサービスを受けながら生活したい」が11.6%となっている。

前回調査と比較すると、「介護サービスを利用せず、家族の介護を受けながら自宅で生活したい」が3.3ポイント減少した。

家族構成別でみると、「介護サービスを利用しながら自宅で生活したい」はひとり暮らしで56.5%と最も低くなっている。

要介護認定を受けた時の生活についての希望（家族構成別）

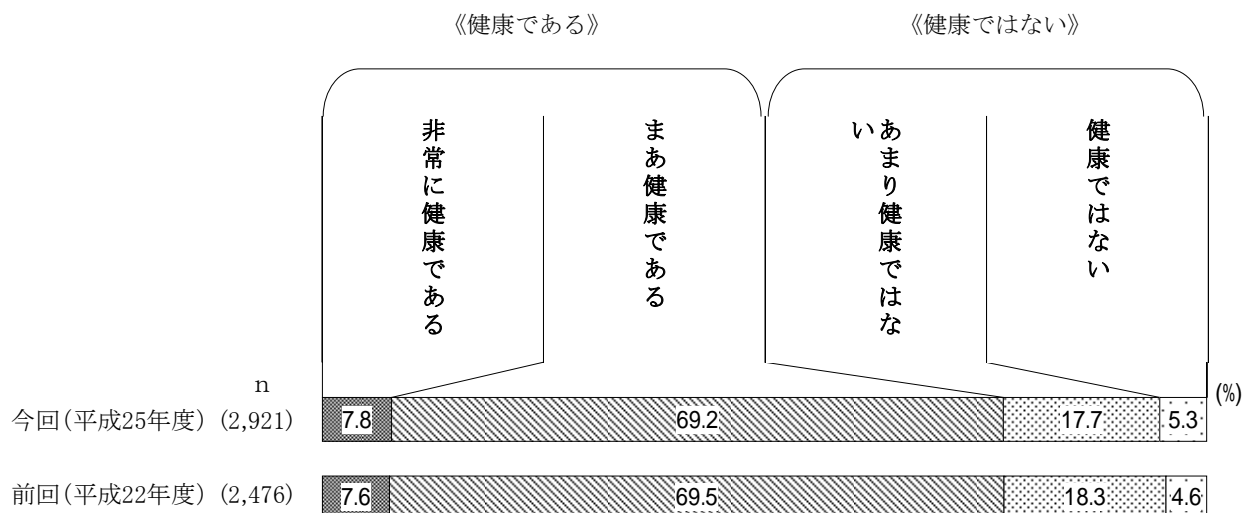


4. 健康状態について

(1) 主体的健康感

問10 あなた(ご本人)は、ご自分の心身の健康状態をどのように感じていますか。(1つに)

主体的健康感は、《健康である》層が8割弱

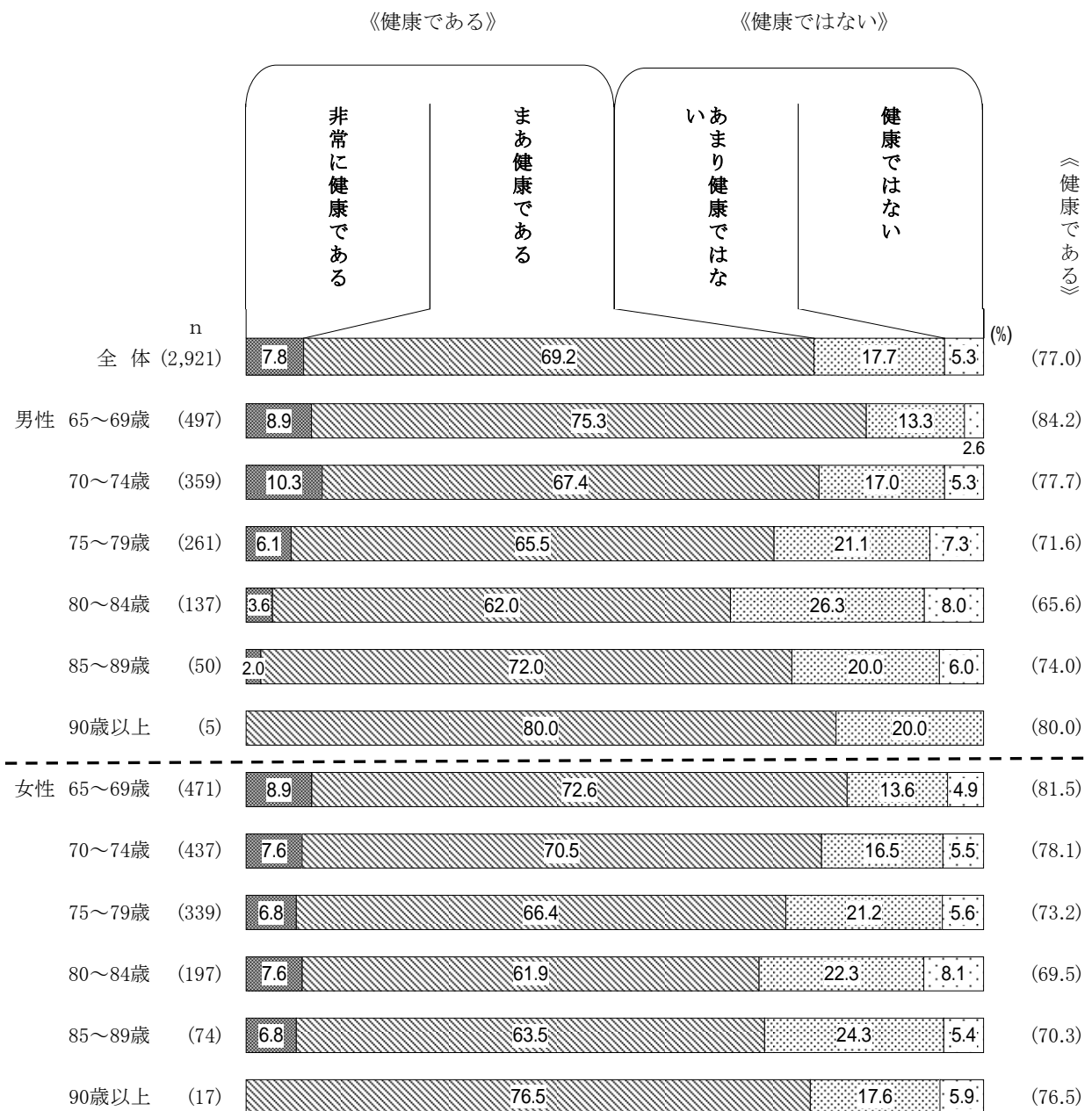


主体的健康感は、「まあ健康である」が69.2%で最も多く、「非常に健康である」(7.8%)をあわせると、《健康である》層が全体の77.0%を占める。一方、《健康ではない》層(「あまり健康ではない」+「健康ではない」)は23.0%であった。

前回調査と比較すると、大きな差は見られない。

性・年齢別にみると、「健康である」層は男女とも、年齢とともにその割合は減少し、80～84歳を底に、再び増加する傾向にある。

主観的健康感（性・年齢別）

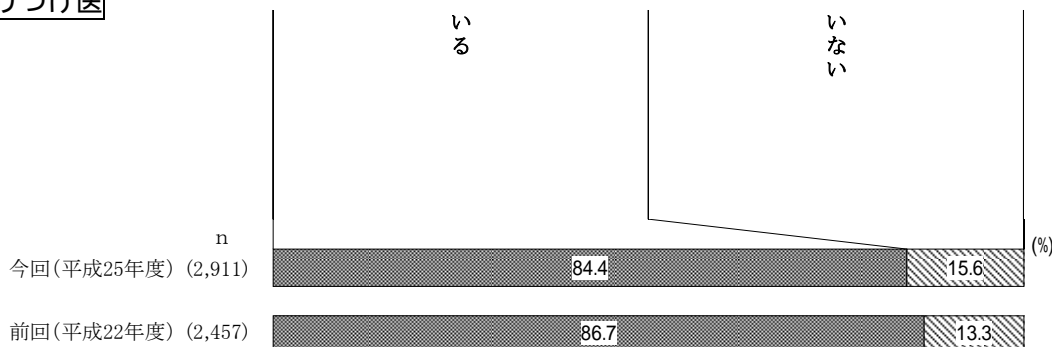


(2) かかりつけの医師等の有無

問11 あなた(ご本人)は、治療や健康について相談する、かかりつけの医師、歯科医師、薬局がありますか。(それぞれは1つずつ)

かかりつけ医がいる割合は8割台半ば、歯科医は8割強、薬局は6割台半ば

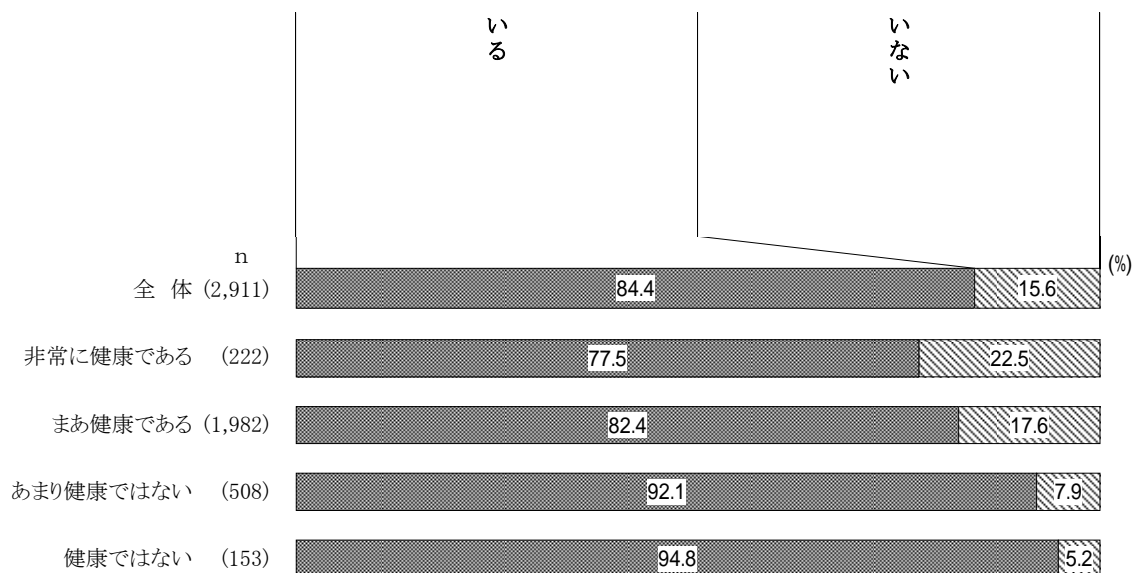
かかりつけ医



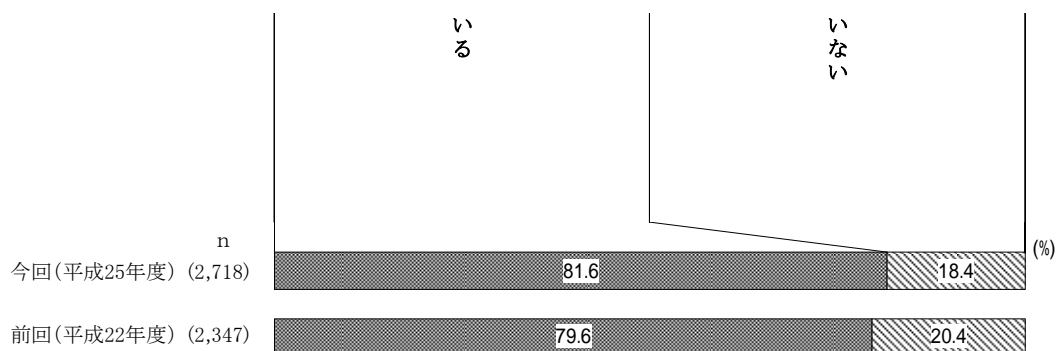
かかりつけ医は「いる」が84.4%、「いない」が15.6%となっている。
 前回調査と比較すると、大きな差は見られない。

主体的健康感別にみると、かかりつけ医の「いる」割合は、「非常に健康である」場合で77.5%となっており、主体的健康感が悪くなるほど、「いる」の割合が多くなる傾向がみられる。

かかりつけ医の有無(主体的健康感別)



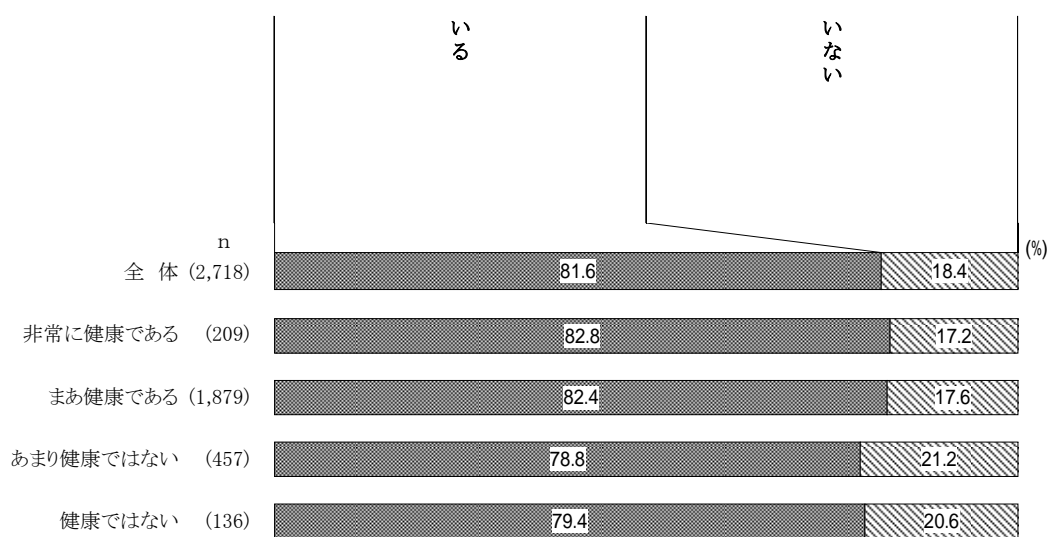
かかりつけ歯科医



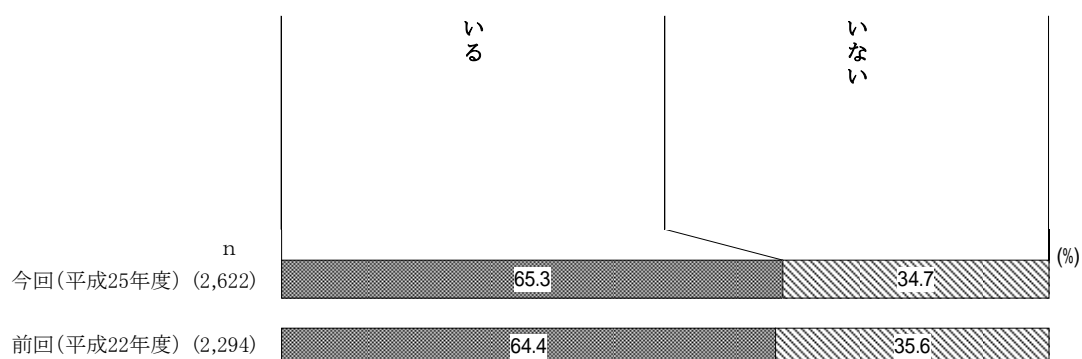
かかりつけ歯科医は「いる」が81.6%、「いない」が18.4%となっている。
 前回調査と比較すると、大きな差は見られない。

主体的健康感別にみると、かかりつけ歯科医の「いる」割合は、「非常に健康である」場合で82.8%となっており、どの主体的健康感とも8割前後となっている。

かかりつけ歯科医の有無（主体的健康感別）



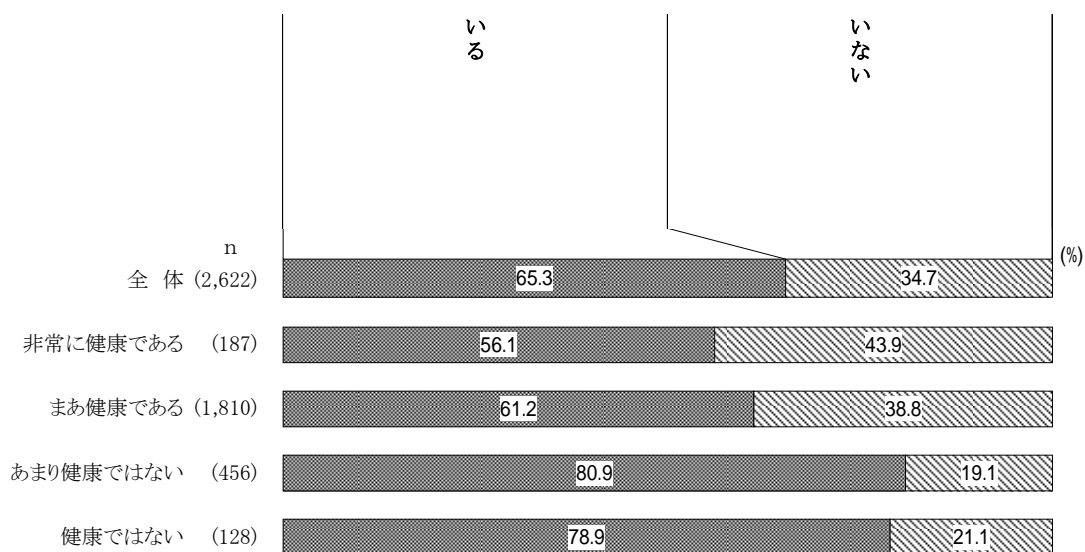
かかりつけ薬局



かかりつけ薬局は「いる」が65.3%、「いない」が34.7%となっている。
 前回調査と比較すると、大きな差は見られない。

主体的健康感別にみると、かかりつけ薬局が「いる」割合は、かかりつけ医の有無と同様、主体的健康感の悪い層で「いる」の割合が多くなっている。

かかりつけ薬局の有無（主体的健康感別）

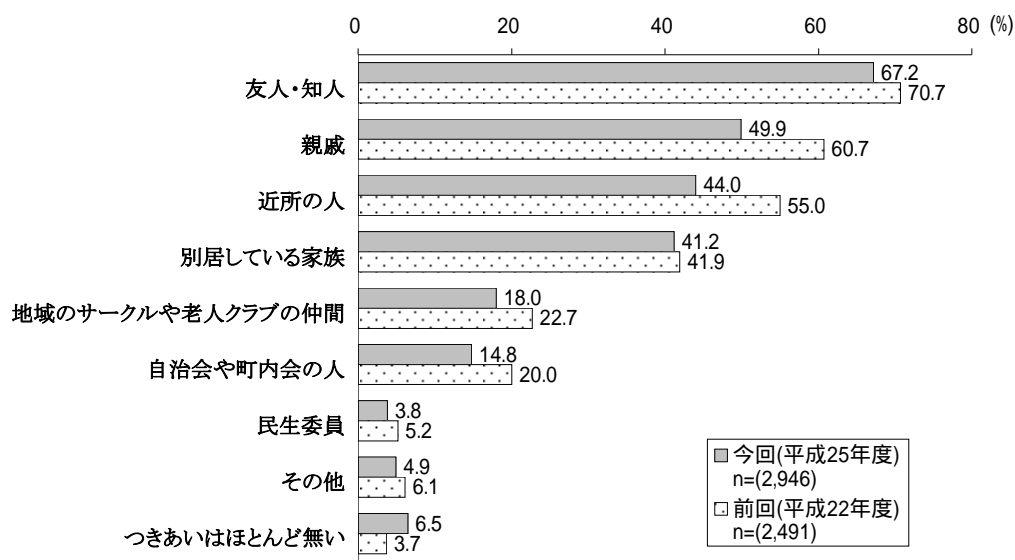


5. 同居の家族以外での付き合いの状況について

(1) 同居の家族以外で付き合いや連絡を取り合う人の有無(複数回答)

問12 あなた(ご本人)は、普段、同居の家族以外でどのような方とお付き合いをしたり、連絡をとりあっていますか。(あてはまるものすべてに)

付き合い先は、上位から「友人・知人」「親戚」「近所の人」の順



※「近所の人」は前回(平成22年度)では、「隣近所の人」

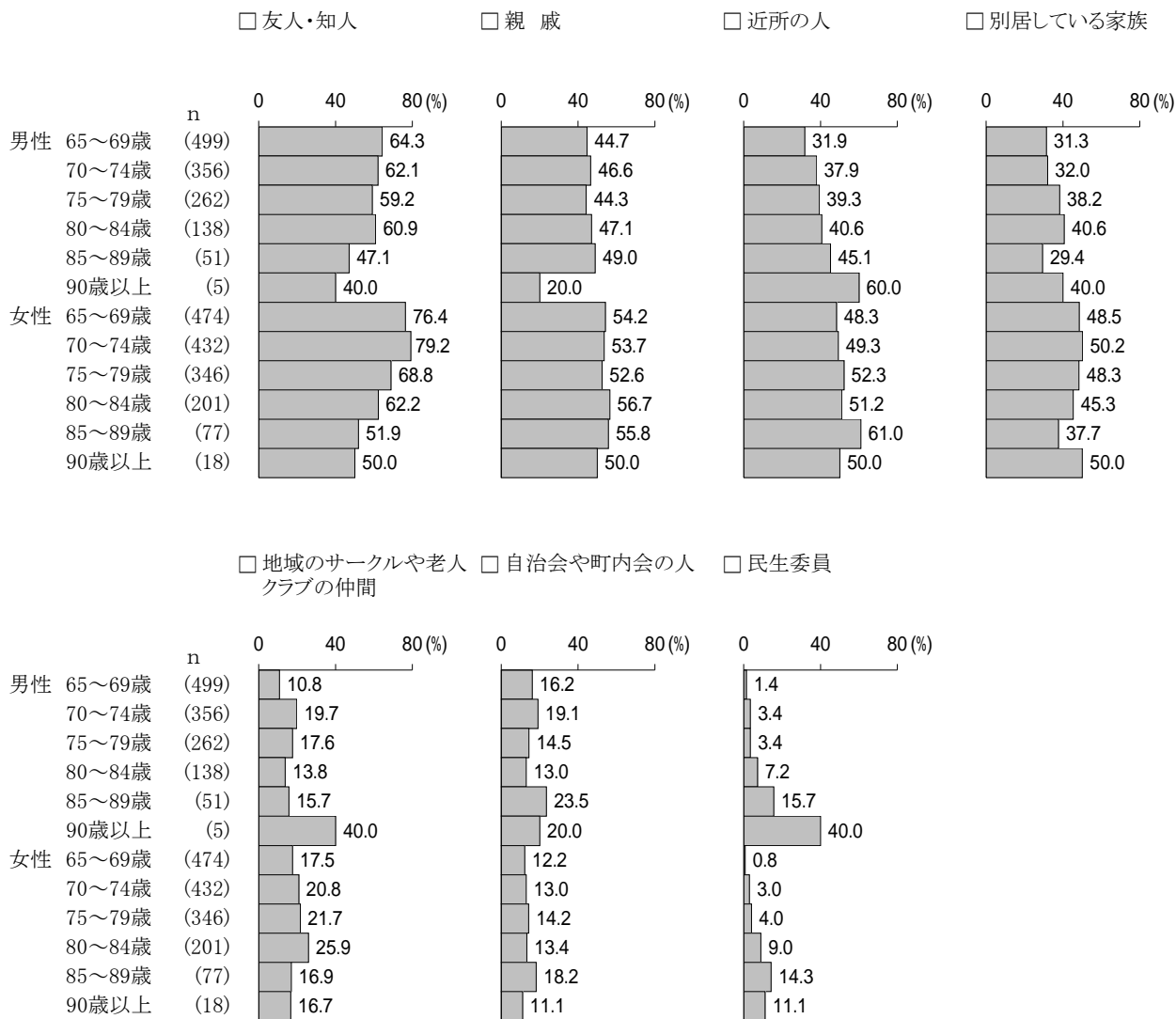
同居の家族以外で付き合いや連絡をとりあう人は、「友人・知人」が67.2%で最も多く、以下、「親戚」(49.9%)、「近所の人」(44.0%)と続いている。

前回調査と比較すると、「近所の人」が前回(55.0%)より11.0ポイント、「親戚」が前回(60.7%)より10.8ポイント減少した。

第2章 調査結果の詳細

性・年齢別にみると、「友人・知人」は男女ともに、年齢が高くなるほど、その割合が減少する傾向がみられる。男性の場合、「近所の人」「別居している家族」「民生委員」ともに、年齢が高くなるほど、その割合が増加する傾向がみられる。一方、女性の場合、「近所の人」「民生委員」ともに、年齢が高くなるほど、その割合が増加する傾向がみられる。

同居の家族以外で付き合いや連絡を取り合う方（性・年齢別）

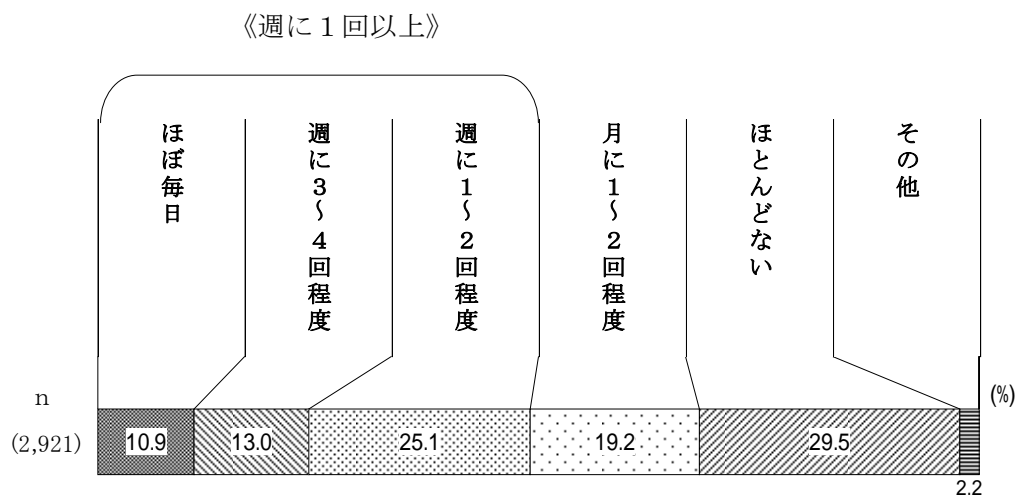


※「その他」「つきあいはほとんど無い」を除く

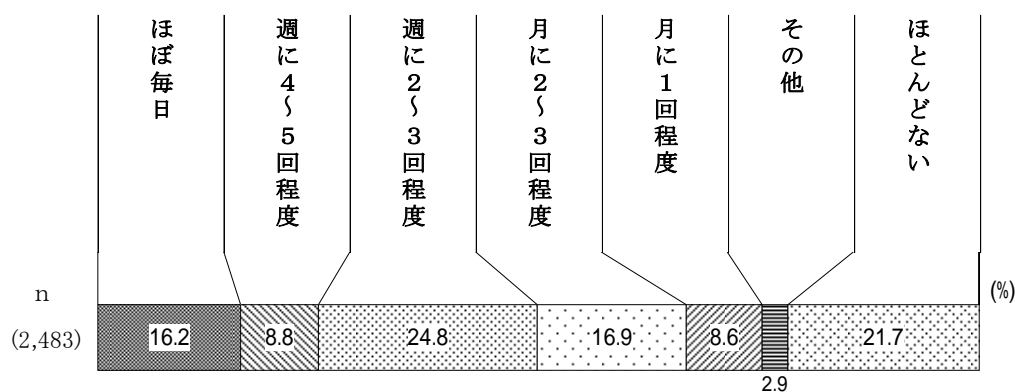
(2) 近隣や地域の方と付き合う機会

問13 あなた(ご本人)は、普段、近隣や地域の方とお付き合いする機会はどの程度ありますか。(1つに)

週に1回以上の付き合いが約半数だが、「ほとんどない」も3割弱



【参考 前回調査(平成22年度)】

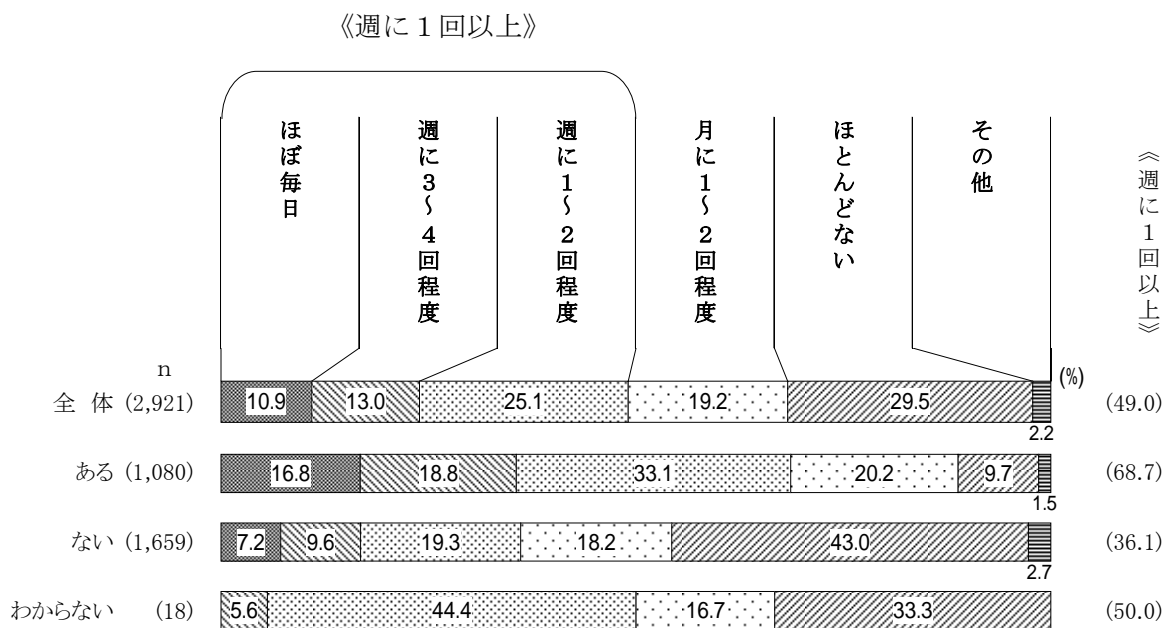


近隣や地域の方と付き合う機会は、「ほとんどない」が29.5%で最も多く、「週に1~2回程度」(25.1%)、「週に3~4回程度」(13.0%)、「ほぼ毎日」(10.9%)をあわせると、《週に1回以上》は全体の約5割を占める。

第2章 調査結果の詳細

地域で参加している活動の有無別にみると、参加している活動が「ある」場合、《週に1回以上》は68.7%となっており、「ない」場合(36.1%)の約1.9倍であった。地域活動に参加している方のほうが、近隣や地域の方との付き合い頻度が高い。

近隣や地域の方と付き合う機会（地域で参加している活動の有無別）

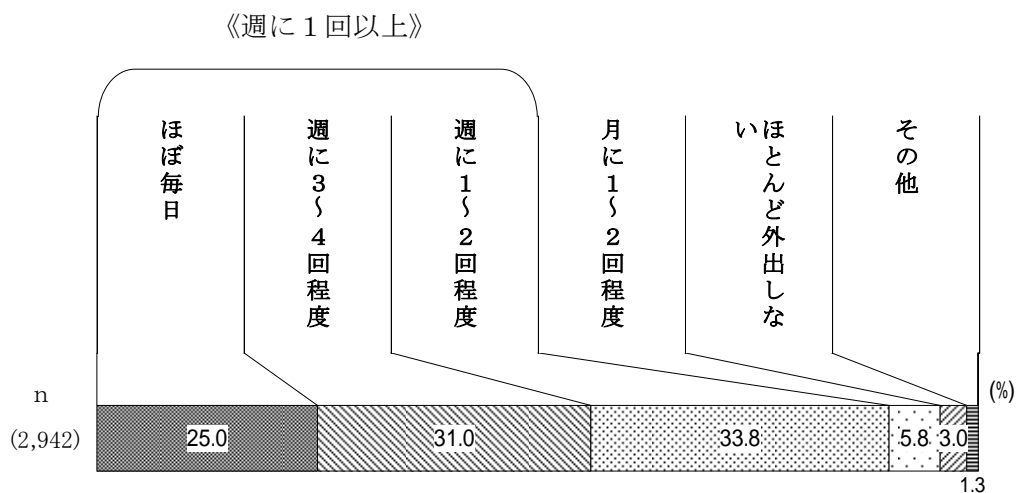


6. 買い物の状況について

(1) 日常生活に必要な買い物のために外出する頻度

問14 あなた(ご本人)は、普段、食料品や日用品など、日常生活に必要な買い物のためにどの程度外出していますか。(1つに)

「週に1～2回程度」「週に3～4回程度」がともに3割強

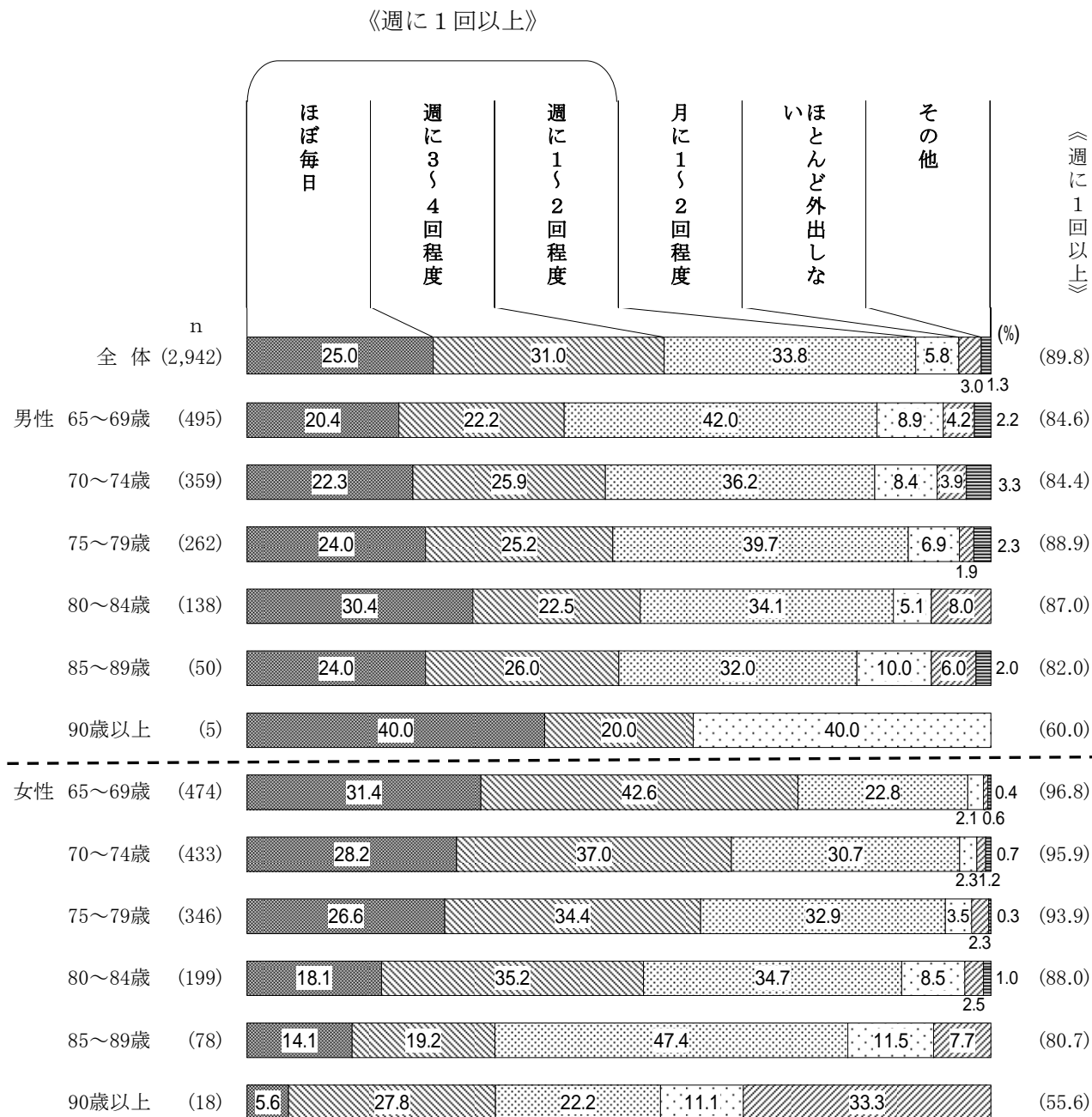


日常生活に必要な買い物のために外出する頻度は、「週に1～2回程度」が33.8%で最も多く、「週に3～4回程度」(31.0%)、「ほぼ毎日」(25.0%)をあわせると、《週に1回以上》の買い物は全体の約9割を占める。

第2章 調査結果の詳細

性・年齢別にみると、男性の場合、《週に1回以上》の買い物は75～79歳でピークになり、その後、年齢が高くなるほど、その割合が減少する傾向がみられる。一方、女性の場合では65～69歳（96.8%）が最も多く、年齢が高くなるほど、その割合が減少する傾向がみられる。

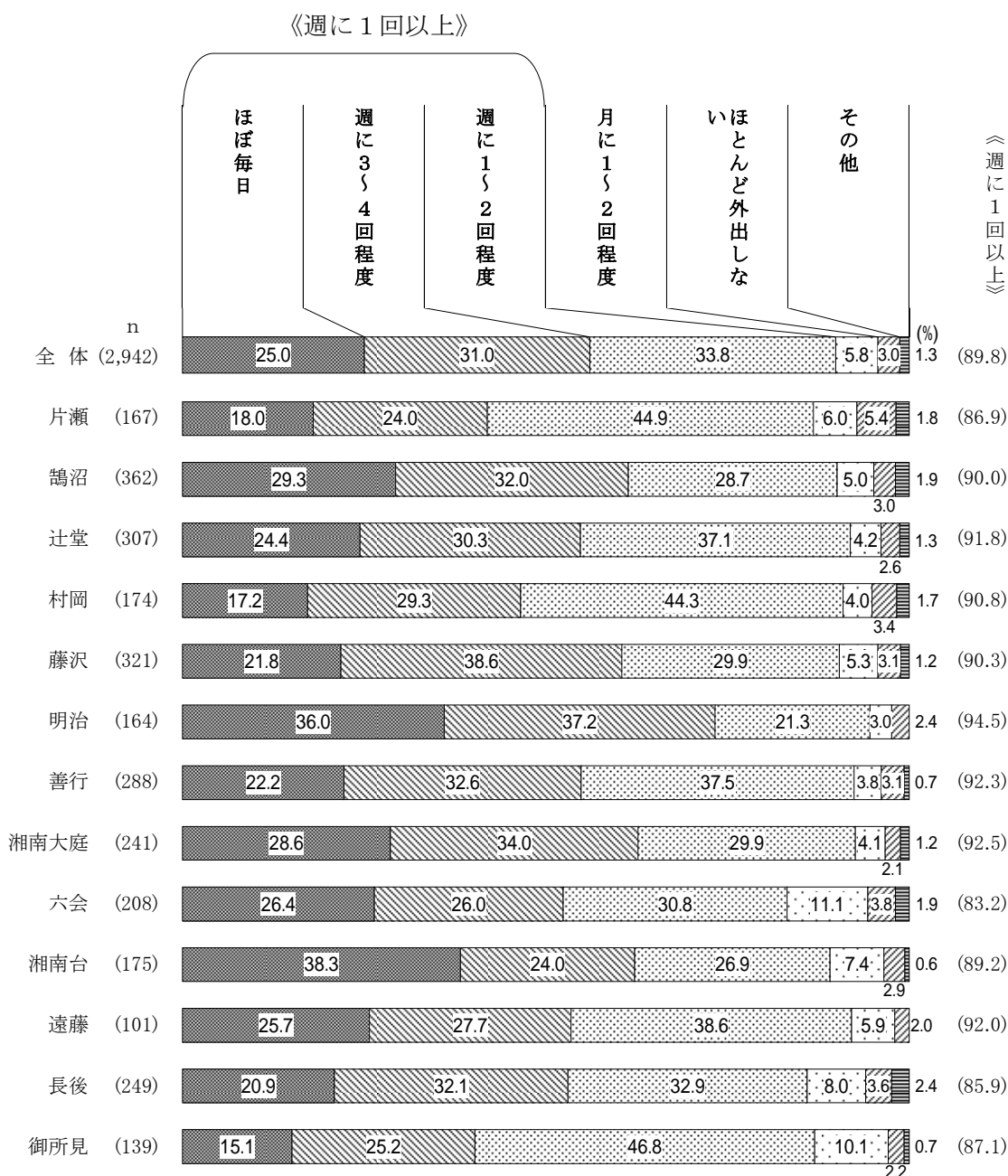
日常生活に必要な買い物のために外出する頻度（性・年齢別）



地域別にみると、《週に1回以上》の買い物は明治が94.5%で最も多く、以下、湘南大庭（92.5%）、善行（92.3%）、遠藤（92.0%）と続いている。

また、「ほぼ毎日」買い物をする人は、明治、湘南台で35%以上となっている一方で、片瀬、村岡、御所見では「週に1～2回程度」が45%前後となっている。

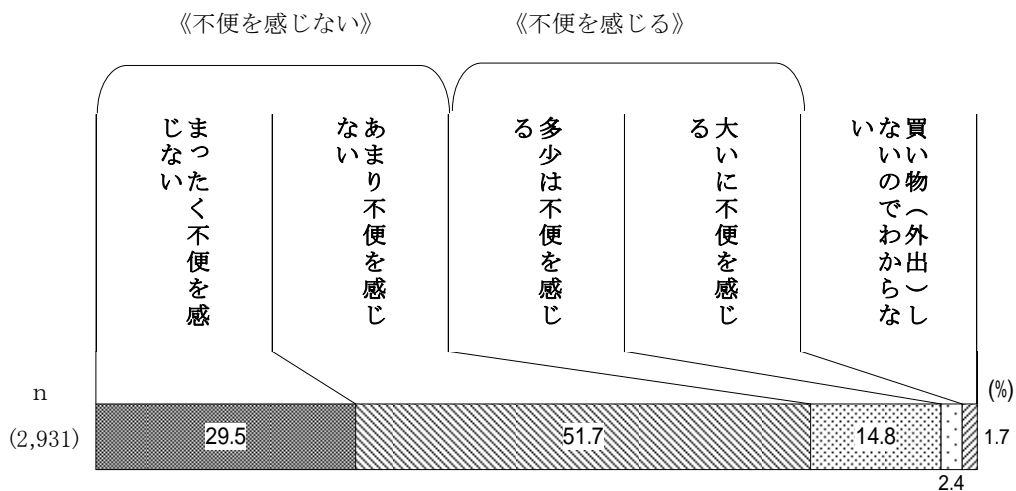
日常生活に必要な買い物のために外出する頻度（地域別）



(2) 買い物で不便を感じる事

問15 あなた(ご本人)は日頃、食料品や日用品など、日常生活に必要な買い物で不便を感じることはありますか。(1つに)

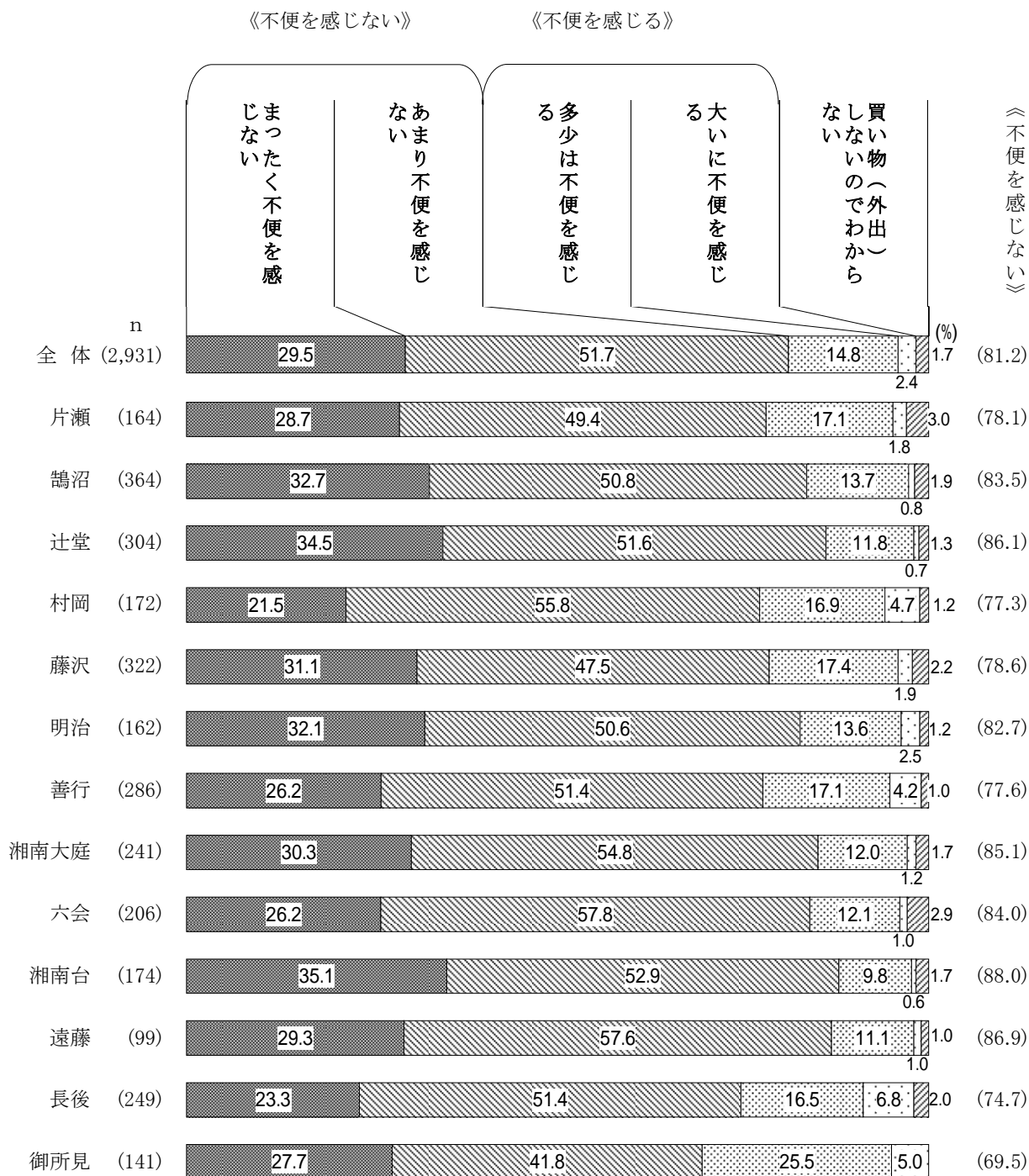
《不便を感じない》が8割強



買い物で不便を感じることは、「あまり不便を感じない」が51.7%で最も多く、「まったく不便を感じない」(29.5%)をあわせると、《不便を感じない》層が全体の約8割を占める。一方、《不便を感じる》層(「多少は不便を感じる」+「大いに不便を感じる」)は17.2%であった。

地域別にみると、《不便を感じない》は湘南台が88.0%で最も多く、以下、遠藤（86.9%）、辻堂（86.1%）、湘南大庭（85.1%）と続いている。

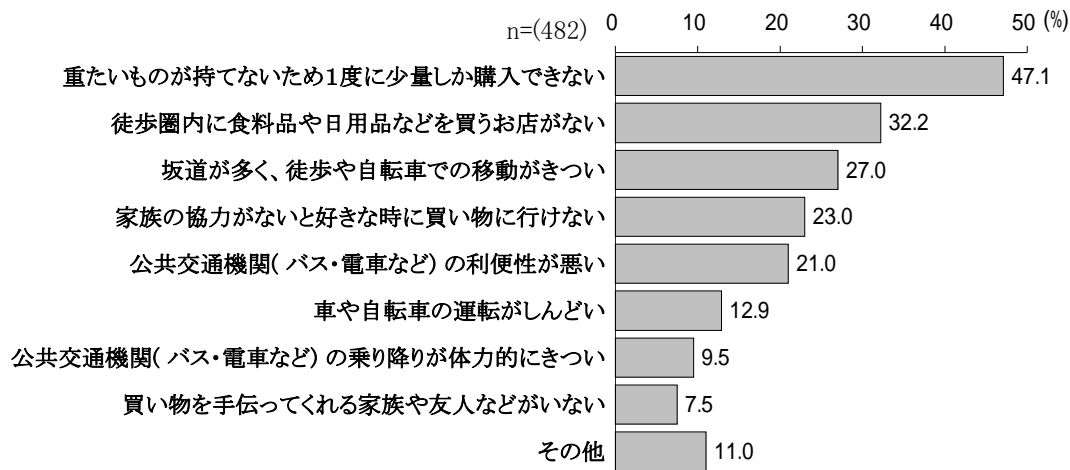
買い物で不便を感じる事（地域別）



(3) 買い物で不便を感じる理由(複数回答)

問15-1 《買い物で不便を感じる方のみ(問15で「多少は不便を感じる」または「大いに不便を感じる」と回答した方)お答えください》
その理由は何ですか。(あてはまるものすべてに)

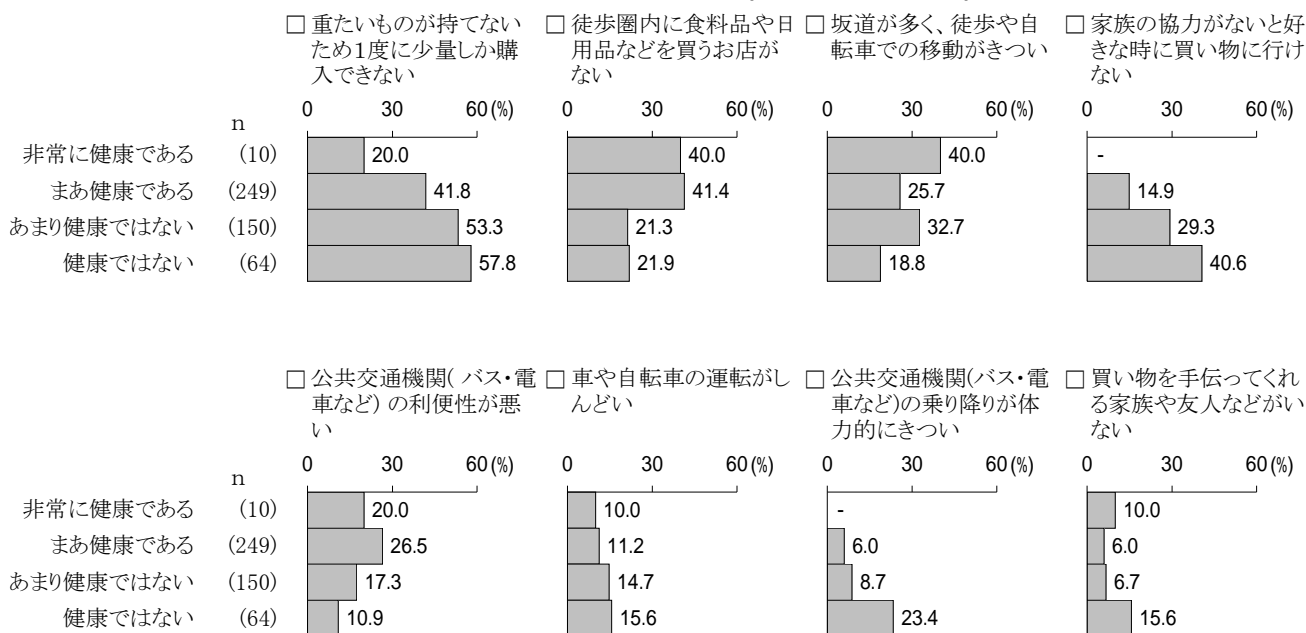
「重たいものが持てないため1度に少量しか購入できない」が5割弱で最多



買い物で不便を感じる理由は、「重たいものが持てないため1度に少量しか購入できない」が47.1%で最も多く、以下、「徒歩圏内に食料品や日用品などを買うお店がない」(32.2%)、「坂道が多く、徒歩や自転車での移動がきつい」(27.0%)と続いている。

主体的健康感別にみると、「重たいものが持てないため1度に少量しか購入できない」「家族の協力がなく好きな時に買い物に行けない」「車や自転車の運転がしんどい」「公共交通機関(バス・電車など)の乗り降りが体力的にきつい」は、主体的健康感が悪くなるほど、その割合が増加する傾向がみられる。

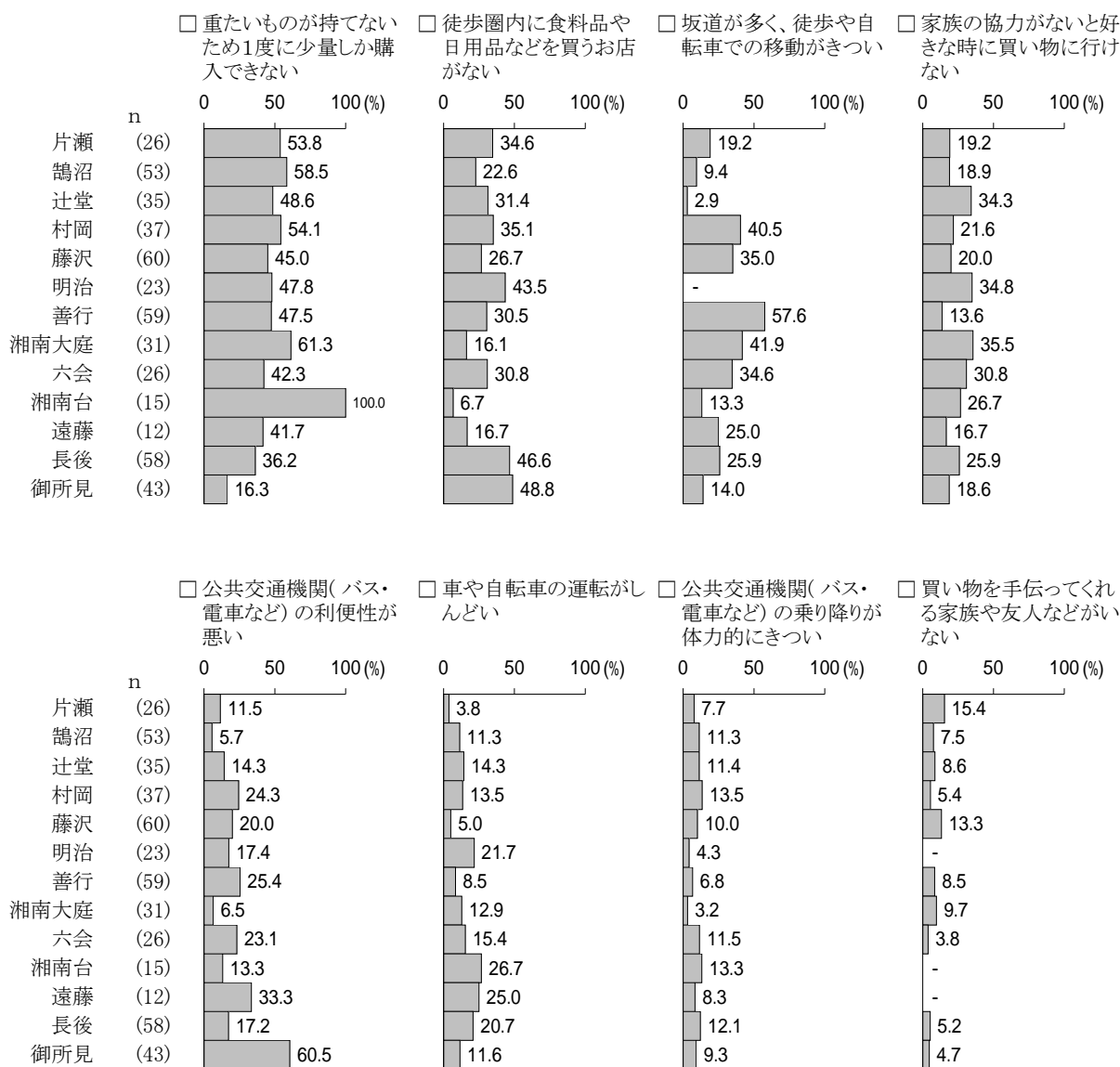
買い物で不便を感じる理由(主体的健康感別)



※「その他」を除く

地域別にみると、「重たいものが持てないため1度に少量しか購入できない」は湘南大庭（61.3%）で約6割と多くなっている。「徒歩圏内に食料品や日用品などを買うお店がない」は、明治、長後、御所見で4割台と多くなっている。「坂道が多く、徒歩や自転車での移動がきつい」は、善行で57.6%と最も多くなっている。

買い物で不便を感じる理由（地域別）

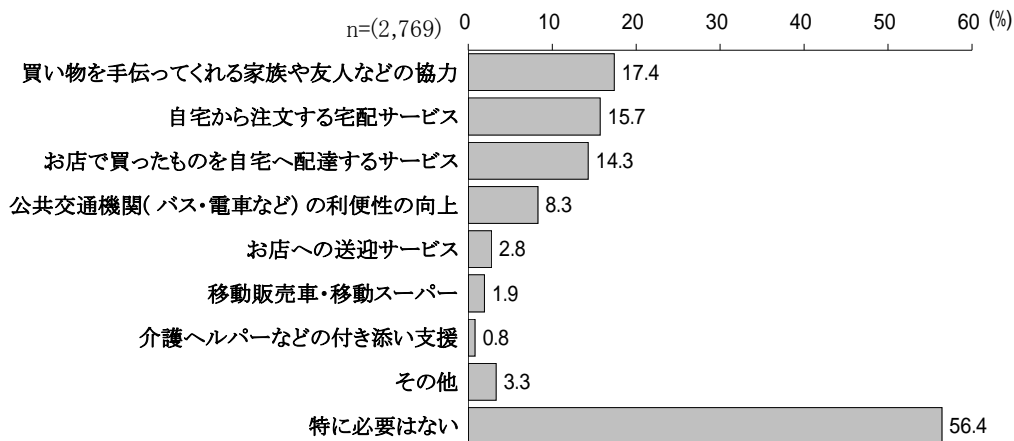


※「その他」を除く

(4) 買い物で必要とする(希望する)支援やサービス(複数回答)

問16 あなた(ご本人)は、食料品や日用品など、日常生活に必要な買い物をする時、必要とする(希望する)支援やサービスはありますか。(あてはまるものすべてに)

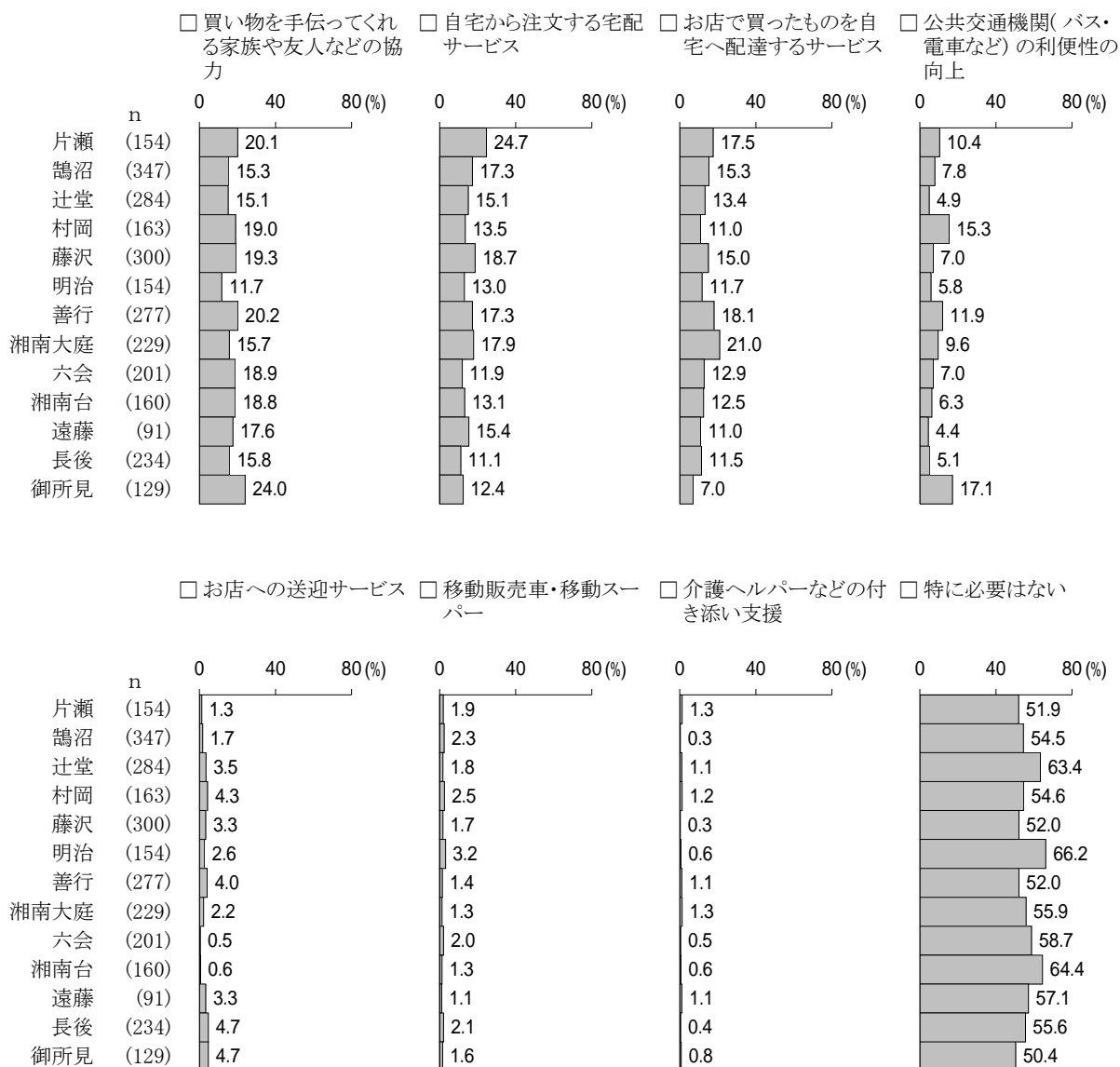
「買い物を手伝ってくれる家族や友人などの協力」が2割弱で最多



買い物で必要とする(希望する)支援やサービスは、「買い物を手伝ってくれる家族や友人などの協力」が17.4%で最も多く、以下、「自宅から注文する宅配サービス」(15.7%)、「お店で買ったものを自宅へ配達するサービス」(14.3%)と続いている。一方、「特に必要はない」は56.4%となっている。

地域別にみると、「買い物を手伝ってくれる家族や友人などの協力」は御所見で24.0%と最も多くなっている。「自宅から注文する宅配サービス」は片瀬で24.7%と最も多く、「お店で買ったものを自宅へ配達するサービス」は湘南大庭で21.0%と最も多くなっている。

買い物で必要とする(希望する)支援やサービス(地域別(上位7項目+特に必要はない))



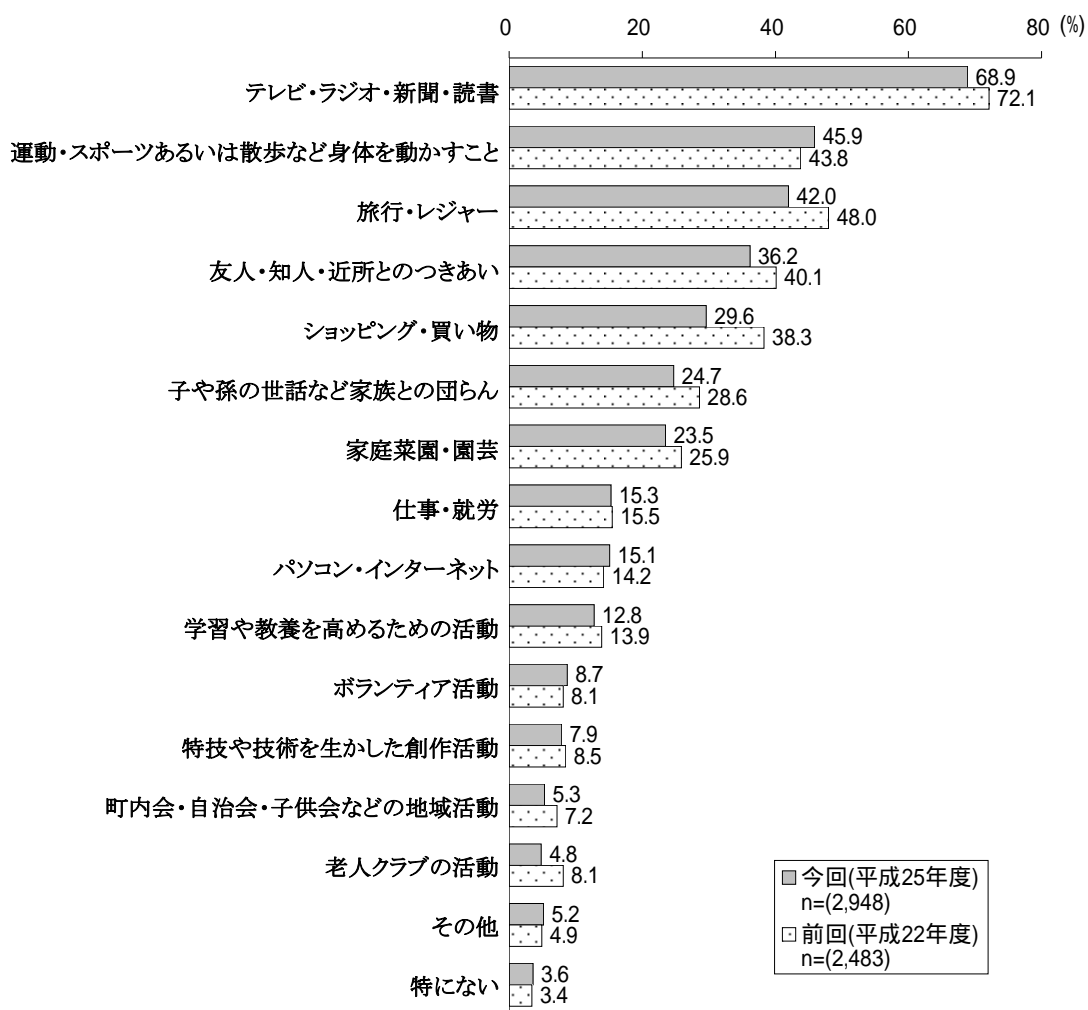
※「その他」を除く

7. 生きがい・楽しみについて

(1) 充実感や生きがいを感じる事(複数回答)

問17 あなた(ご本人)は、現在、どのようなことに充実感や生きがいを感じていますか。
(あてはまるものすべてに)

「テレビ・ラジオ・新聞・読書」が7割弱で最多



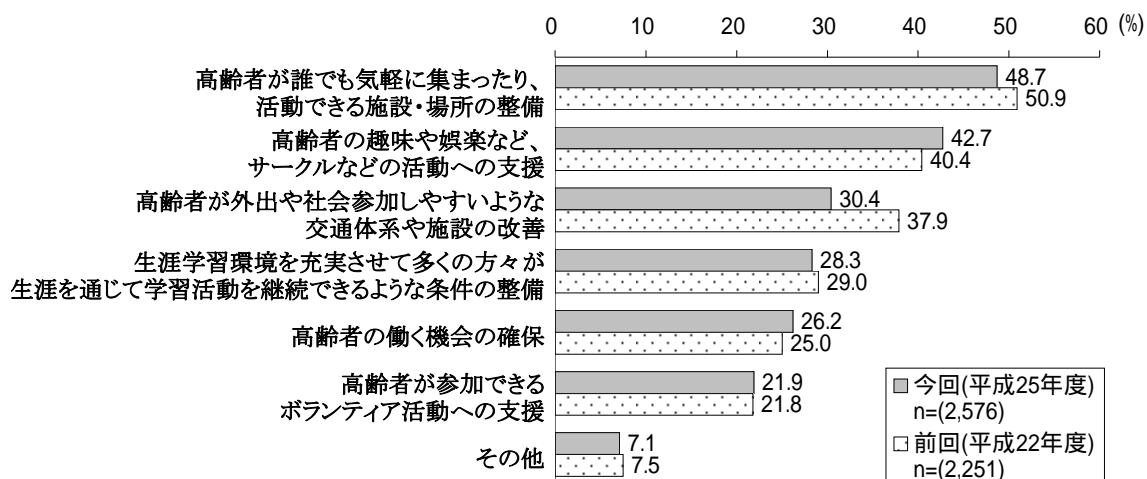
充実感や生きがいを感じることは、「テレビ・ラジオ・新聞・読書」が68.9%で最も多く、以下、「運動・スポーツあるいは散歩など身体を動かすこと」(45.9%)、「旅行・レジャー」(42.0%)、「友人・知人・近所とのつきあい」(36.2%)と続いている。

前回調査と比較すると、上位5つの中では「ショッピング・買い物」が前回(38.3%)より8.7ポイント、「旅行・レジャー」が前回(48.0%)より6.0ポイント減少した。

(2) 生きがいがづくり・社会参加に必要な支援(複数回答)

問18 あなた(ご本人)は、市が生きがいがづくり・社会参加に対する取り組みをすすめていくうえで、どのような支援が必要と考えますか。(あてはまるものすべてに)

「高齢者が誰でも気軽に集まったり、活動できる施設・場所の整備」が5割弱で最多



生きがいがづくり・社会参加に必要な支援は、「高齢者が誰でも気軽に集まったり、活動できる施設・場所の整備」が48.7%で最も多く、以下、「高齢者の趣味や娯楽など、サークルなどの活動への支援」(42.7%)、「高齢者が外出や社会参加しやすいような交通体系や施設の改善」(30.4%)と続いている。前回調査と比較すると、「高齢者が外出や社会参加しやすいような交通体系や施設の改善」が前回(37.9%)より7.5ポイント減少した。

家族構成別にみると、「高齢者が誰でも気軽に集まったり、活動できる施設・場所の整備」は夫婦のみ(二人暮らし)で51.2%と最も多い。

生きがいがづくり・社会参加に必要な支援(家族構成別)

(単位：%)

調査数	高齢者が誰でも気軽に集まったり、活動できる施設・場所の整備	高齢者の趣味や娯楽など、サークルなどの活動への支援	高齢者が外出や社会参加しやすいような交通体系や施設の改善	生涯学習環境を充実させて多くの方々が生涯を通じて学習活動を継続できるような条件の整備	高齢者の働く機会の確保	高齢者が参加できるボランティア活動への支援	その他		
全体	2,576	48.7	42.7	30.4	28.3	26.2	21.9	7.1	
家族構成別	ひとり暮らし	463	46.4	37.8	31.5	32.0	23.5	22.7	7.8
	夫婦のみ(二人暮らし)	1,000	51.2	45.6	32.1	30.7	25.9	24.7	5.6
	それ以外	968	46.8	41.8	28.5	24.4	27.0	18.5	8.4

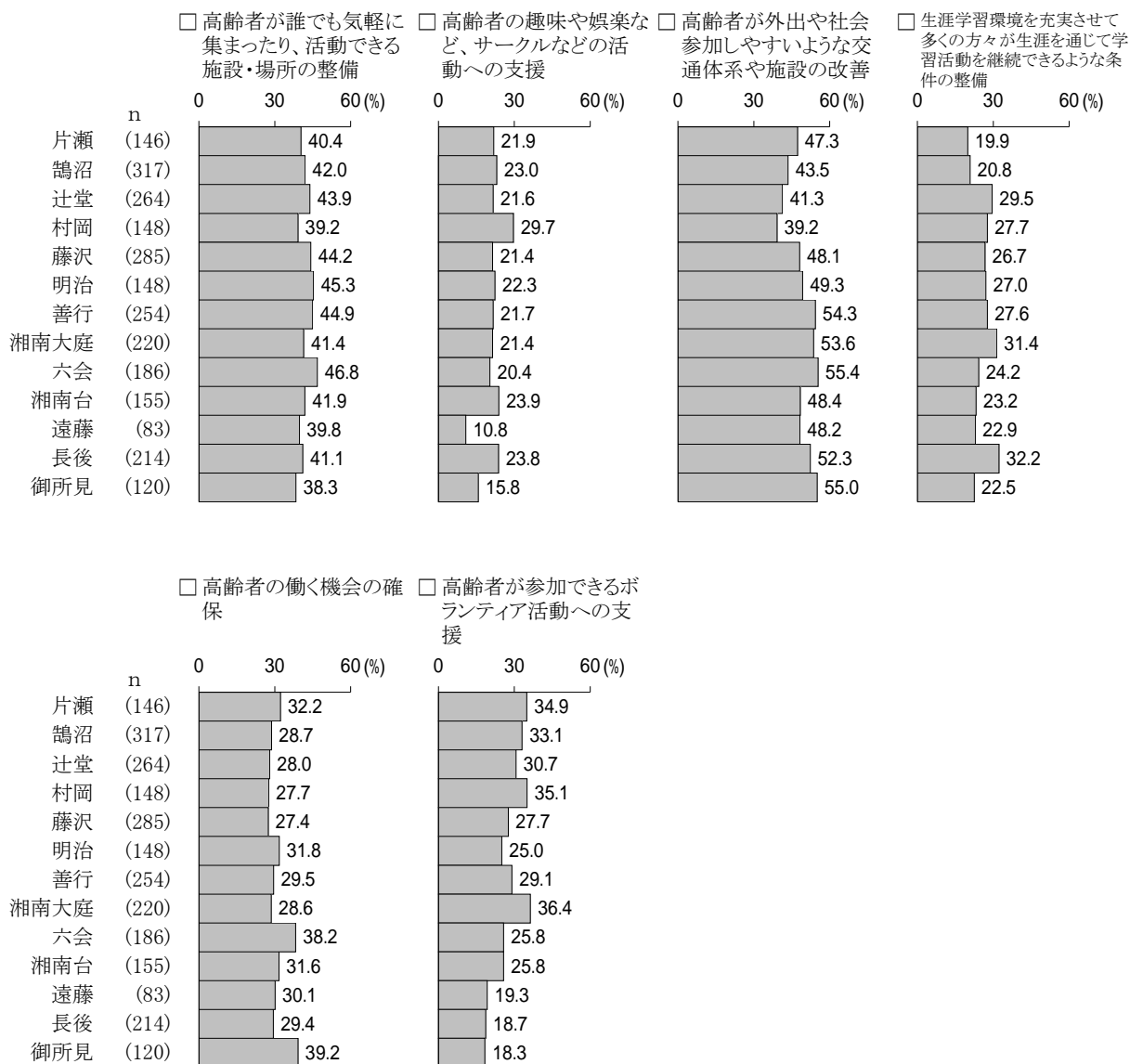
第2章 調査結果の詳細

地域別にみると、「高齢者が誰でも気軽に集まったり、活動できる施設・場所の整備」は六会（46.8%）が最も多く、以下、明治（45.3%）、善行（44.9%）と続いている。

「高齢者の趣味や娯楽など、サークルなどの活動への支援」は村岡（29.7%）が最も多い。

「高齢者が外出や社会参加しやすいような交通体系や施設の改善」は六会（55.4%）が最も多く、以下、御所見（55.0%）、善行（54.3%）と続いている。

生きがいきづくり・社会参加に必要な支援（地域別）



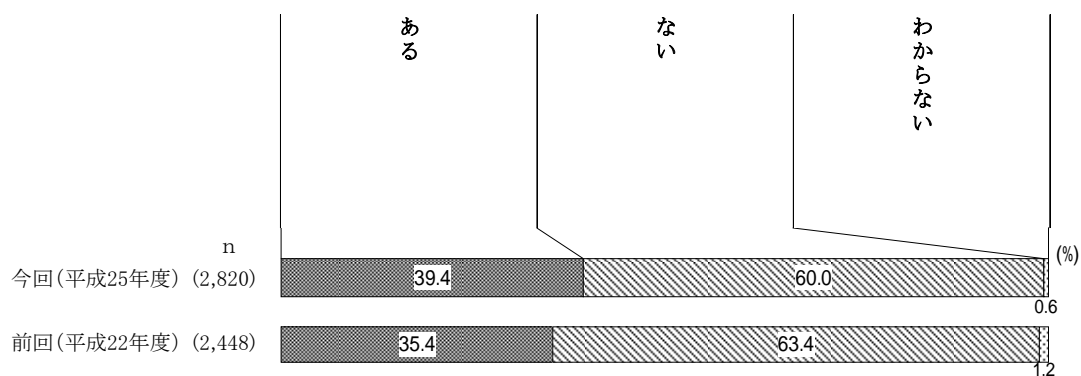
※ 「その他」を除く

8. 地域で参加している活動について

(1) 地域で参加している活動の有無

問19 あなた(ご本人)は、現在、地域で参加している活動がありますか。(1つに)

参加している活動がある方は4割弱

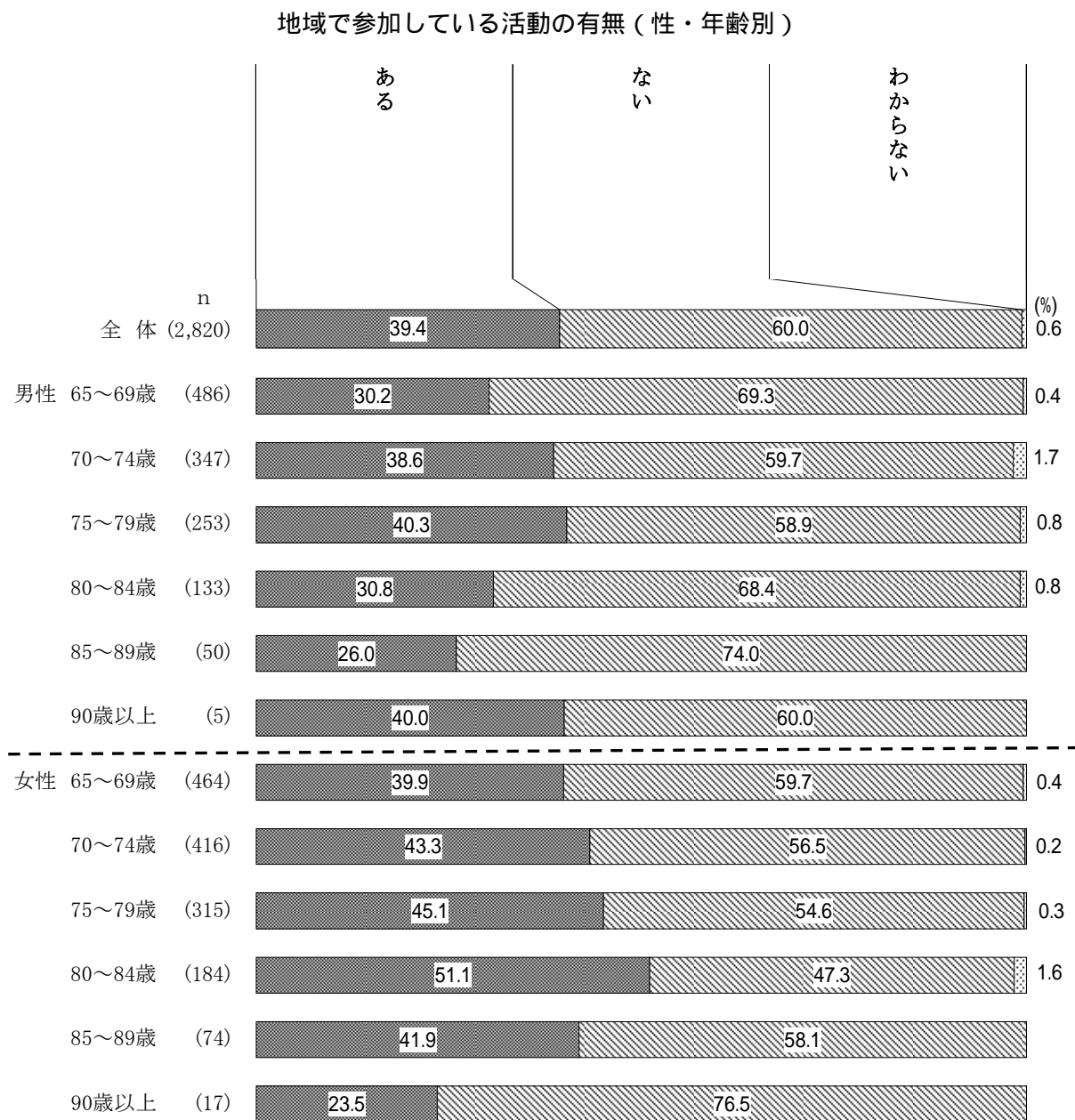


地域で参加している活動が「ある」が39.4%、「ない」が60.0%となっている。

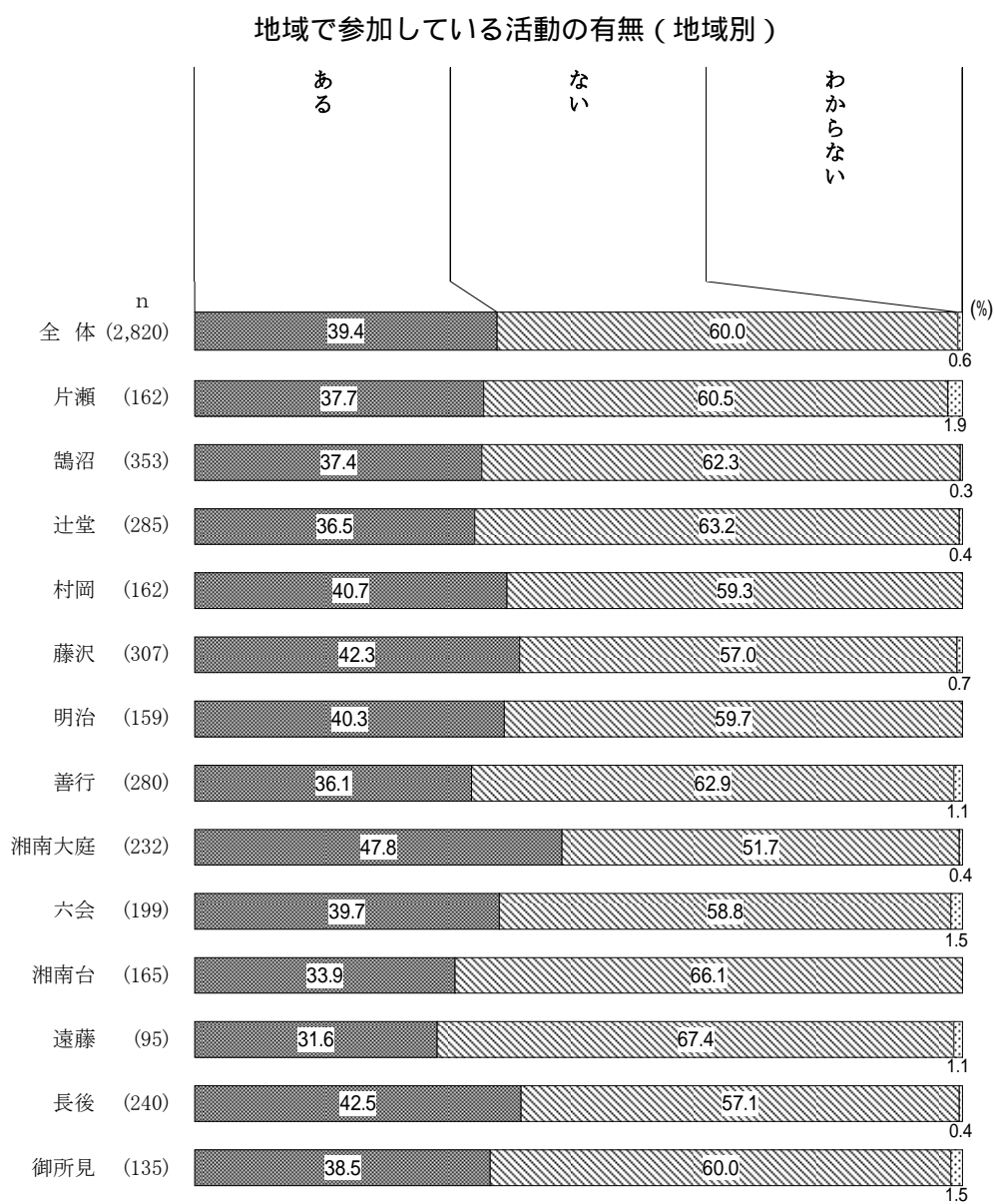
前回調査と比較すると、地域で参加している活動が「ある」が前回(35.4%)より、4.0ポイント増加した。

第2章 調査結果の詳細

性・年齢別にみると、「ある」は女性80～84歳で51.1%と最も多く、また、90歳以上を除き、各年齢とも女性のほうが男性を上回っている。



地域別にみると、「ある」は湘南大庭で47.8%と最も多くなっている。

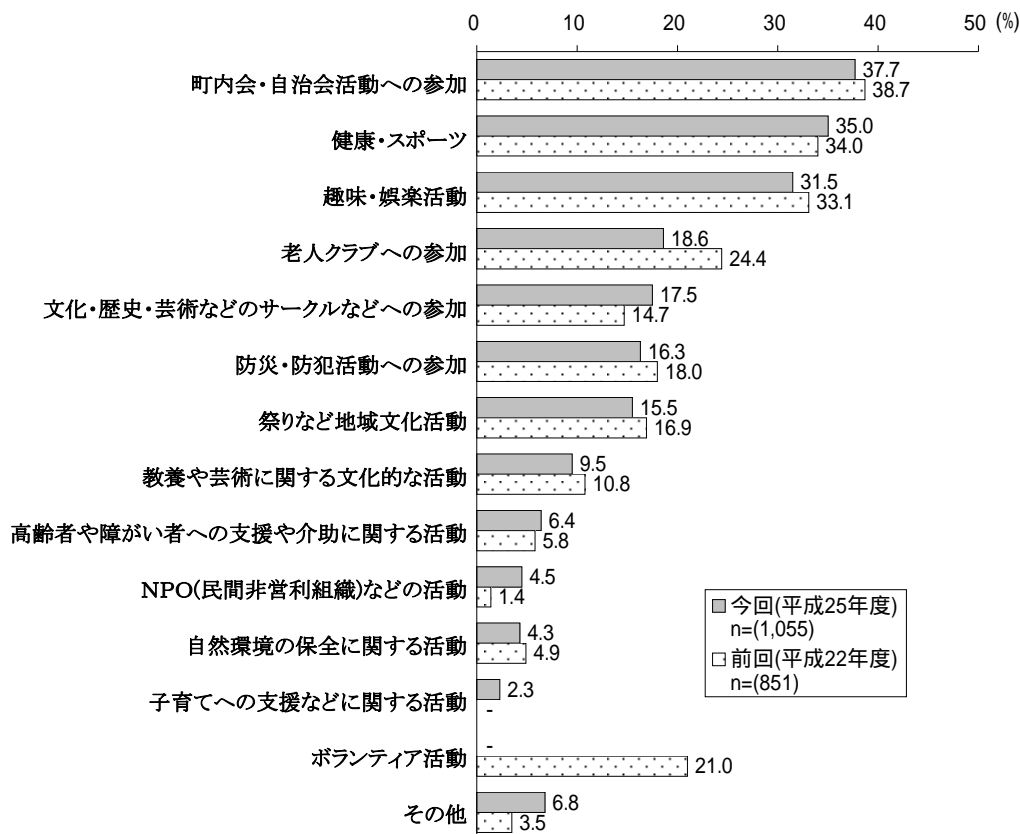


(2) 地域で参加している活動(複数回答)

問19-1 《地域で参加している活動がある方のみ(問19で「ある」と回答した方)お答えください》

あなた(ご本人)が、現在、地域で参加している活動は何ですか。(あてはまるものすべてに)

「町内会・自治会活動への参加」「健康・スポーツ」「趣味・娯楽活動」がともに3割台が多い



※「ボランティア活動」は前回(平成22年度)調査のみの項目

※「子育てへの支援などに関する活動」は今回、新たに調査した項目

地域で参加している活動は、「町内会・自治会活動への参加」(37.7%)、「健康・スポーツ」(35.0%)、「趣味・娯楽活動」(31.5%)の3項目が3割台で多く、以下、「老人クラブへの参加」(18.6%)、「文化・歴史・芸術などのサークルなどへの参加」(17.5%)、「防災・防犯活動への参加」(16.3%)、「祭りなど地域文化活動」(15.5%)と続いている。

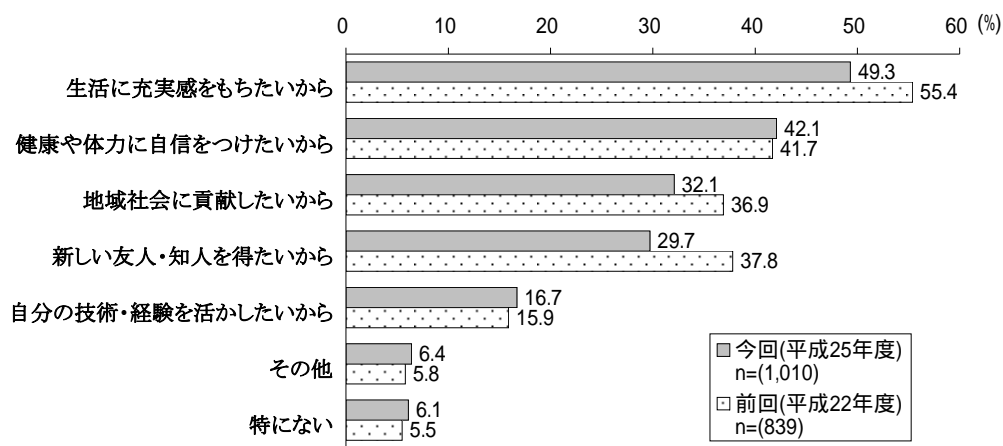
前回調査と比較すると、変動の大きい項目としては「老人クラブへの参加」が前回(24.4%)より5.8ポイント減少した。

(3) 地域の活動に参加した理由(複数回答)

問19-2 《地域で参加している活動がある方のみ(問19で「ある」と回答した方)お答えください》

あなた(ご本人)が、地域の活動に参加した理由は何ですか。(あてはまるものすべてに)

「生活に充実感をもちたいから」が5割弱で最多



地域の活動に参加した理由は、「生活に充実感をもちたいから」が49.3%で最も多く、以下、「健康や体力に自信をつけたいから」(42.1%)、「地域社会に貢献したいから」(32.1%)と続いている。

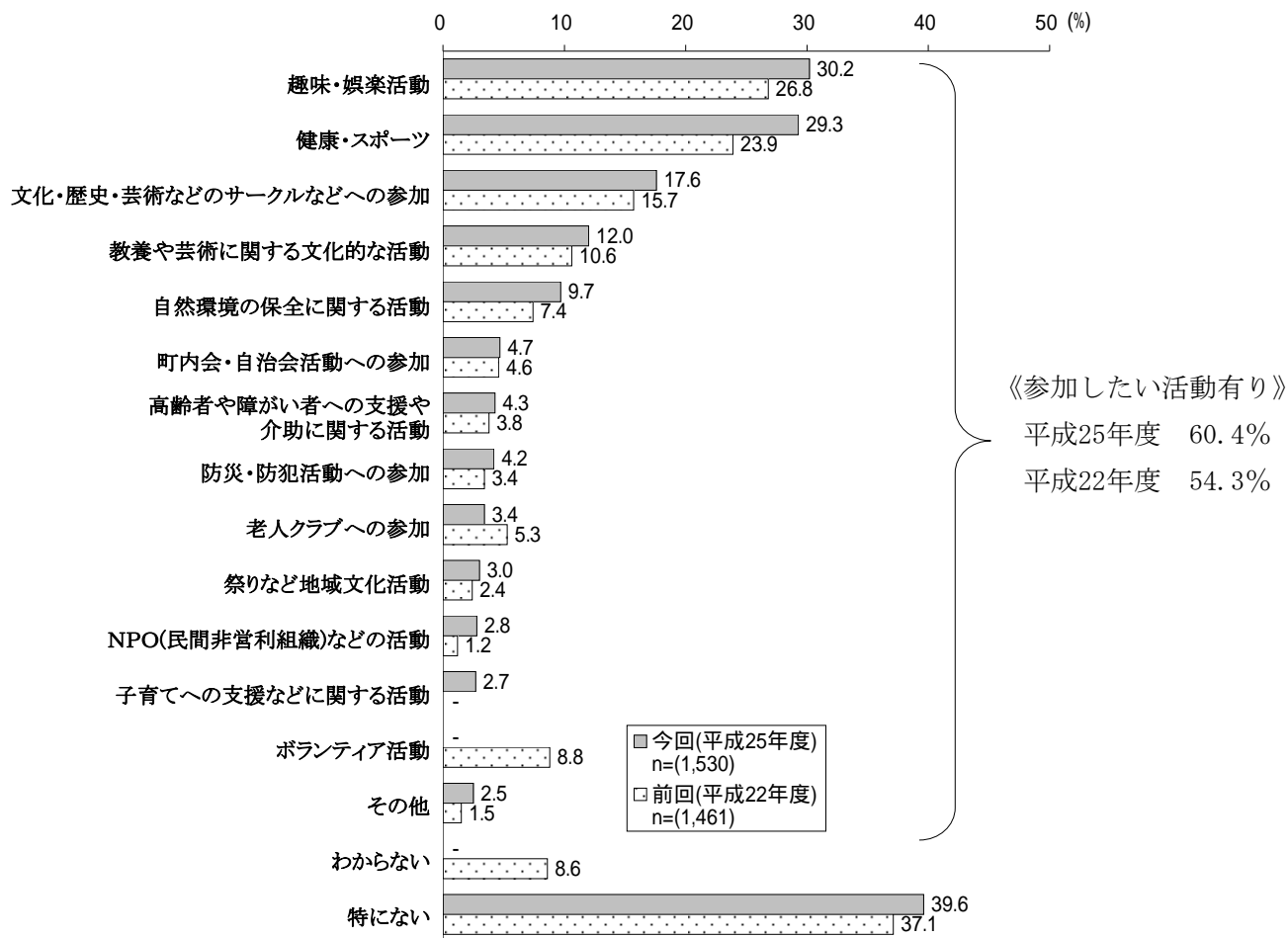
前回調査と比較すると、「新しい友人・知人を得たいから」が前回(37.8%)より8.1ポイント減少し、順位も前回の3位から4位に下落した。

(4) 今後、地域で参加したい活動(複数回答)

問19-3 《地域で参加している活動がない方のみ(問19で「ない」または「わからない」と回答した方)お答えください》

あなた(ご本人)は、今後、地域で参加したい活動がありますか。(あてはまるものすべてに)

何らかの地域活動に参加したい方は6割強



※「ボランティア活動」「わからない」は前回(平成22年度)調査のみの項目

※「子育てへの支援などに関する活動」は今回、新たに調査した項目

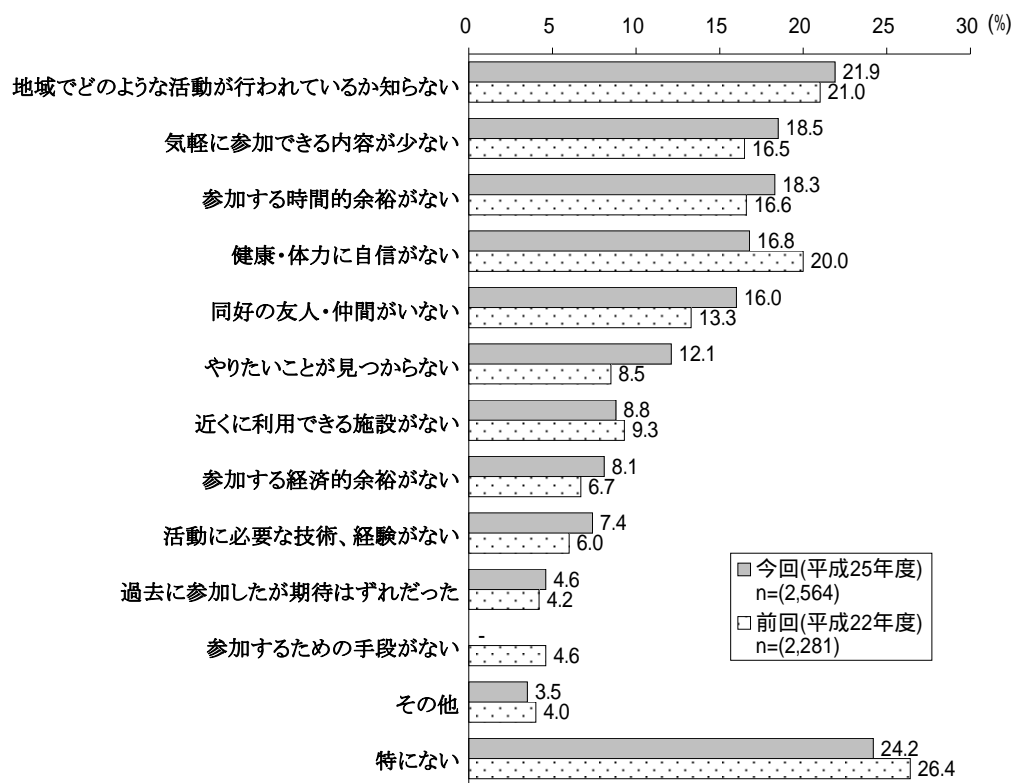
今後、参加したい活動は、「趣味・娯楽活動」(30.2%)、「健康・スポーツ」(29.3%)の2項目が3割台で多く、以下、「文化・歴史・芸術などのサークルなどへの参加」(17.6%)、「教養や芸術に関する文化的な活動」(12.0%)と続いている。また、「特にない」は39.6%となっており、何らかの参加したい活動がある人は60.4%となっている。

前回調査と比較すると、変動の大きい項目としては「健康・スポーツ」が前回(23.9%)より5.4ポイント増加した。

(5) 地域の活動に参加する上で支障となることや問題点(複数回答)

問20 あなた(ご本人)が、地域の活動に参加する上で支障となることや問題点として感じているものはありますか。(あてはまるものすべてに)

問題点としては、周知不足、内容面、時間的余裕、健康・体力面の順



※「参加するための手段がない」は前回(平成22年度)調査のみの項目

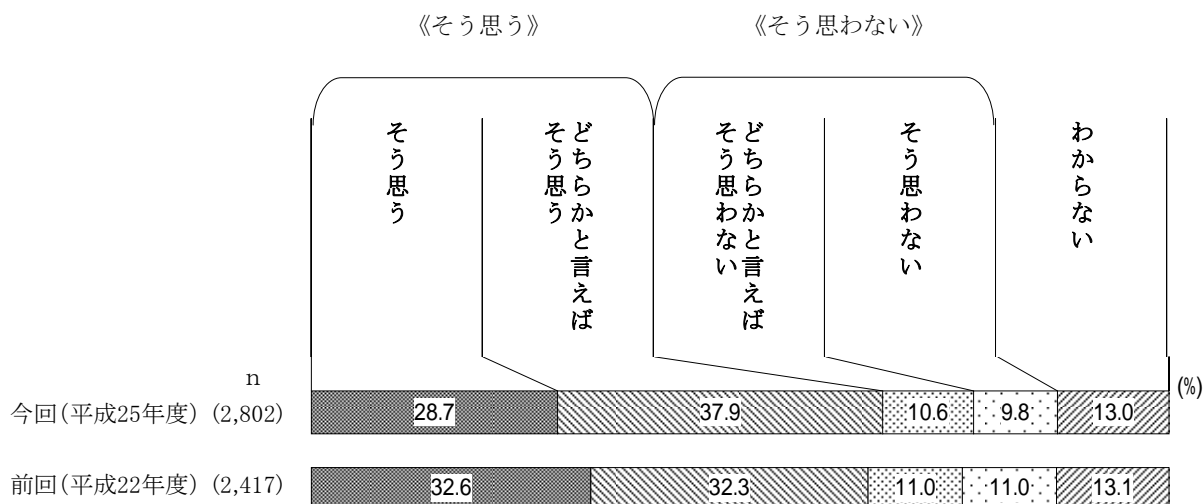
地域の活動に参加する上で支障となることや問題点は、「地域でどのような活動が行われているか知らない」が21.9%で最も多く、以下、「気軽に参加できる内容が少ない」(18.5%)、「参加する時間的余裕がない」(18.3%)、「健康・体力に自信がない」(16.8%)、「同好の友人・仲間がいない」(16.0%)と続いている。

前回調査と比較すると、上位5つの中では「地域でどのような活動が行われているか知らない」、「気軽に参加できる内容が少ない」、「参加する時間的余裕がない」、「同好の友人・仲間がいない」が前回より増加した。

(6) 社会とのかかわりを持って生活すること

問21 あなた(ご本人)は、サークル・グループ活動や各種行事、催し物への参加を通じて、社会とのかかわりを持って生活したいと思いますか。(1つに)

《そう思う》層は6割台半ばで、《そう思わない》層を上回る

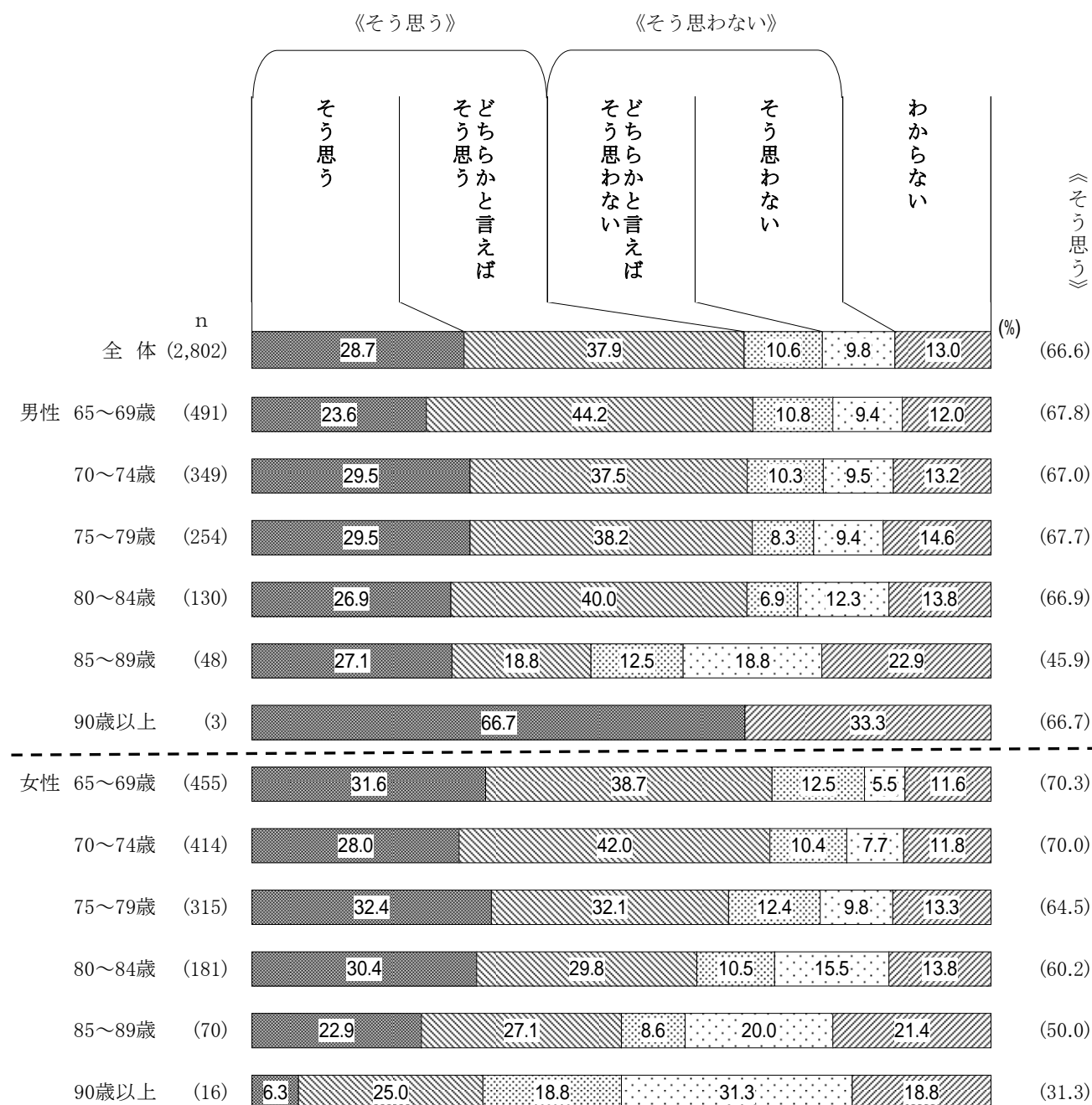


サークル・グループ活動や各種行事、催し物への参加を通じて、社会とのかかわりを持って生活することの是非は、「どちらかと言えばそう思う」が37.9%と最も多く、「そう思う」(28.7%)をあわせると、《そう思う》層が全体の66.6%を占める。一方、《そう思わない》層(「どちらかと言えばそう思わない」+「そう思わない」)は20.4%であった。

前回調査と比較すると、「そう思う」が前回(32.6%)より3.9ポイント減少し、「どちらかといえばそう思う」が前回(32.3%)より5.6ポイント増加した。

性・年齢別にみると、《そう思う》は、男性は65～84歳までほぼ横ばいなのに対し、女性は年齢が高くなるほど、その割合が減少する傾向がみられる。

社会とのかかわりを持って生活すること（性・年齢別）

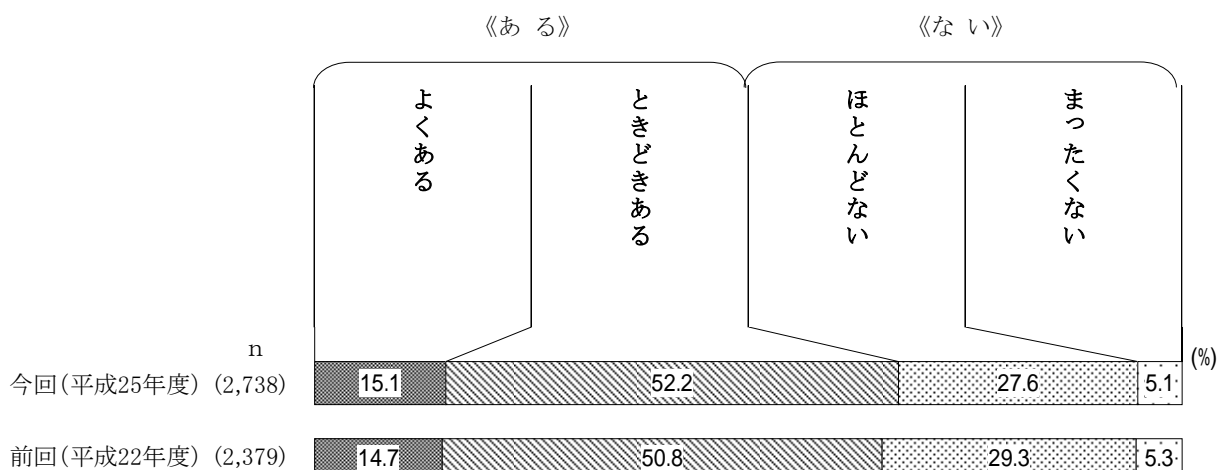


9. 普段の生活の中での不安や心配ごとについて

(1) 日常生活の中で不安を感じたり心配になったりすること

問22 あなた(ご本人)は、日常生活の中で不安を感じたり心配になったりすることがありますか。(1つに)

不安や心配が《ある》層は7割弱

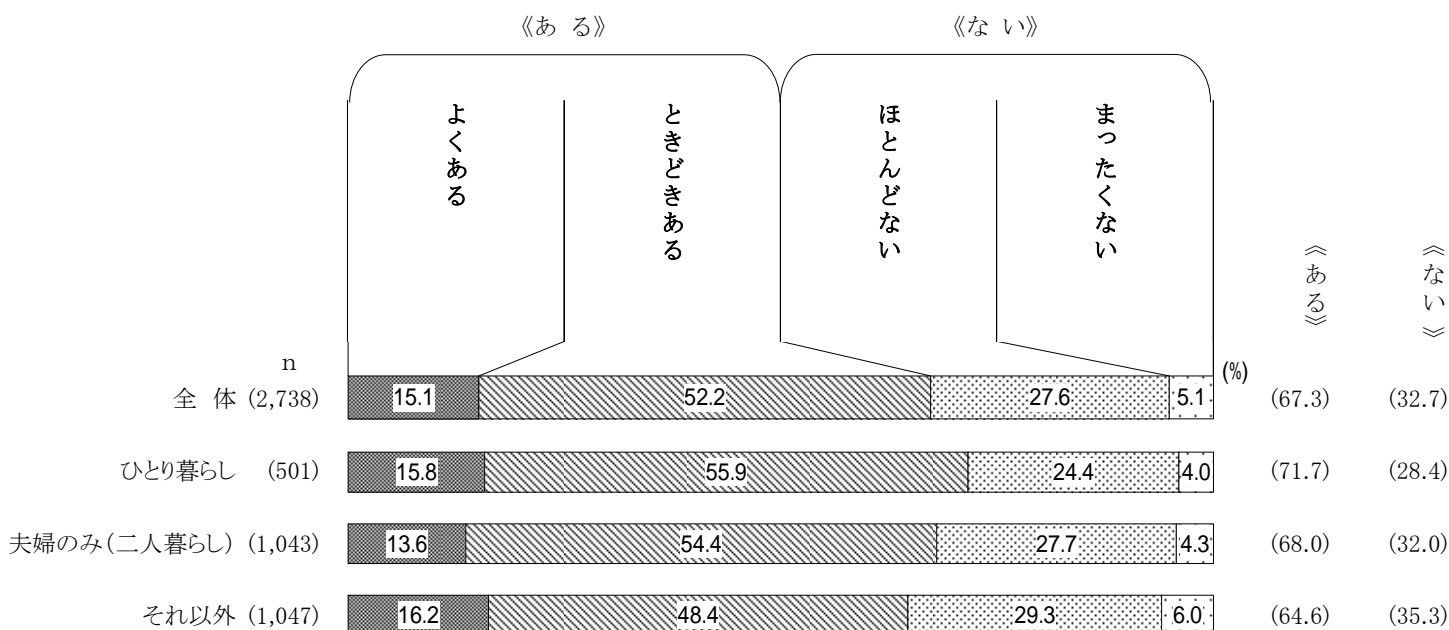


日常生活の中で不安を感じたり心配になったりすることは、「ときどきある」(52.2%)が最も多く、「よくある」(15.1%)をあわせると、《ある》層が全体の67.3%を占める。

前回調査と比較すると、大きな差は見られない。

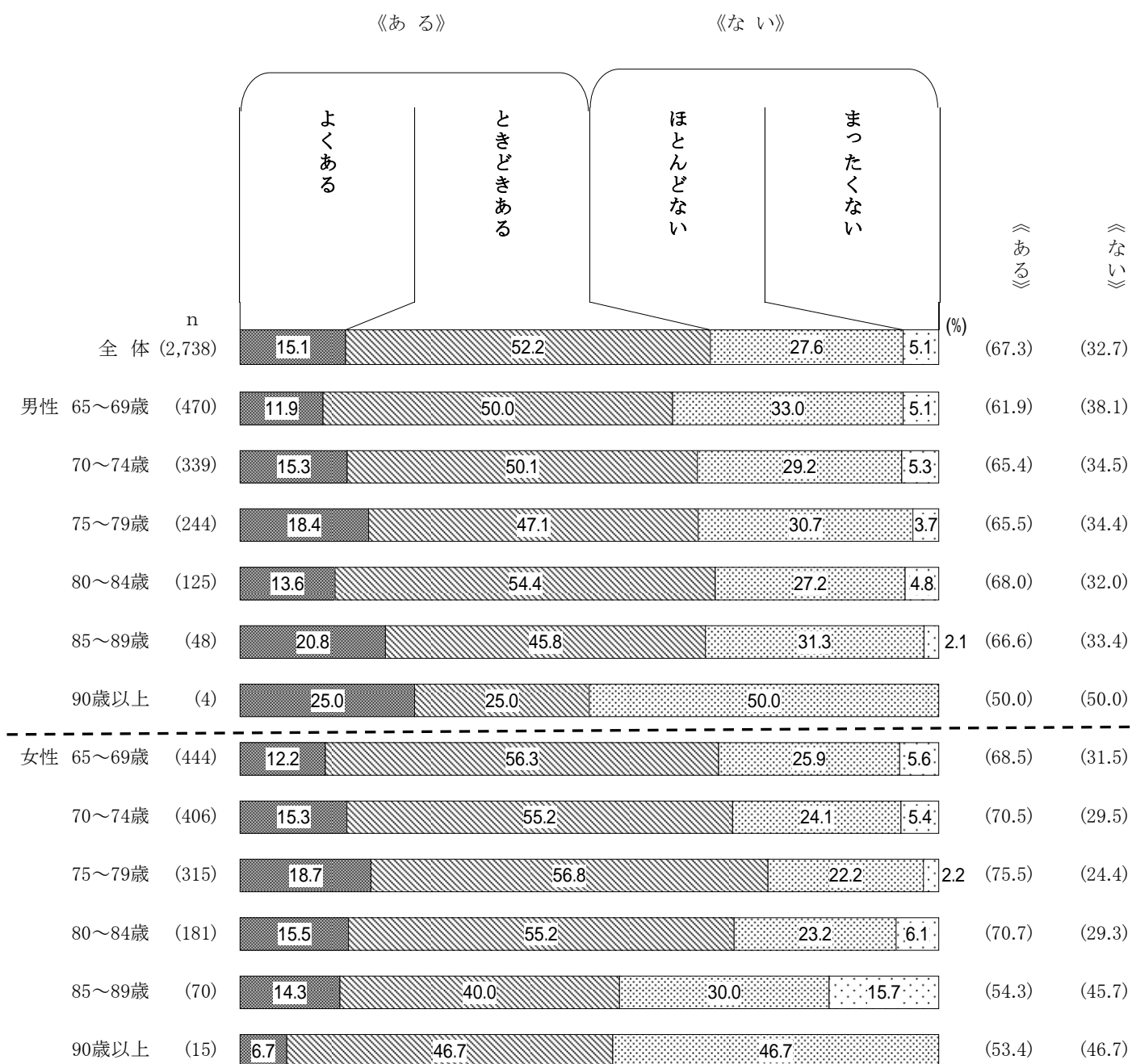
家族構成別にみると、《ある》層はひとり暮らしで71.7%と最も多くなっている。

日常生活の中で不安を感じたり心配になったりすること(家族構成別)



性・年齢別にみると、《ある》層は、女性75～79歳で75.5%と最も多くなっている。

日常生活の中で不安を感じたり心配になったりすること（性・年齢別）

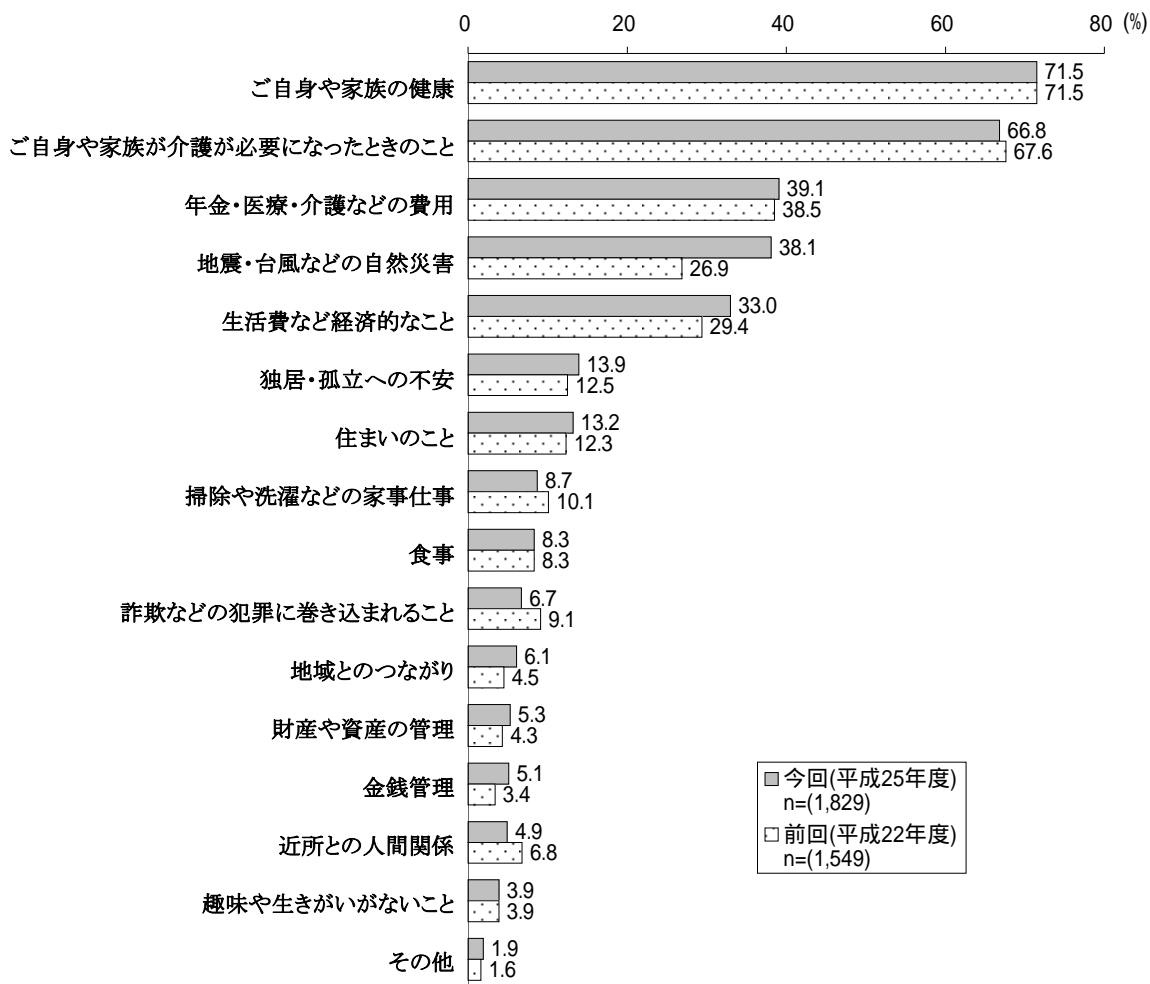


(2) 不安を感じていること(複数回答)

問22 - 1 《不安を感じることがある方のみ(問22で「よくある」または「ときどきある」と回答した方)お答えください》

あなた(ご本人)が不安を感じているものは、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに)

自分やその家族の健康のこと、介護が必要になったときのことが7割前後で多い



不安を感じていることは、「ご自身や家族の健康」が71.5%と最も多く、以下、「ご自身や家族が介護が必要になったときのこと」(66.8%)、「年金・医療・介護などの費用」(39.1%)、「地震・台風などの自然災害」(38.1%)の順となっており、健康・介護や経済面での問題が上位にあげられている。

前回調査と比較すると、「地震・台風などの自然災害」は前回(26.9%)より11.2ポイント大幅に増加した。

家族構成別にみると、「ご自身や家族の健康」や「ご自身や家族が介護が必要になったときのこと」は、夫婦のみで最も多い。

ひとり暮らしの場合では「地震・台風などの自然災害」「独居・孤独への不安」「住まいのこと」「掃除や洗濯などの家事仕事」「食事」「詐欺などの犯罪に巻き込まれること」「財産や資産の管理」「趣味や生きがいがないこと」において、それぞれ他の家族構成より割合が多くなっている。

不安を感じていること（家族構成別）

（単位：％）

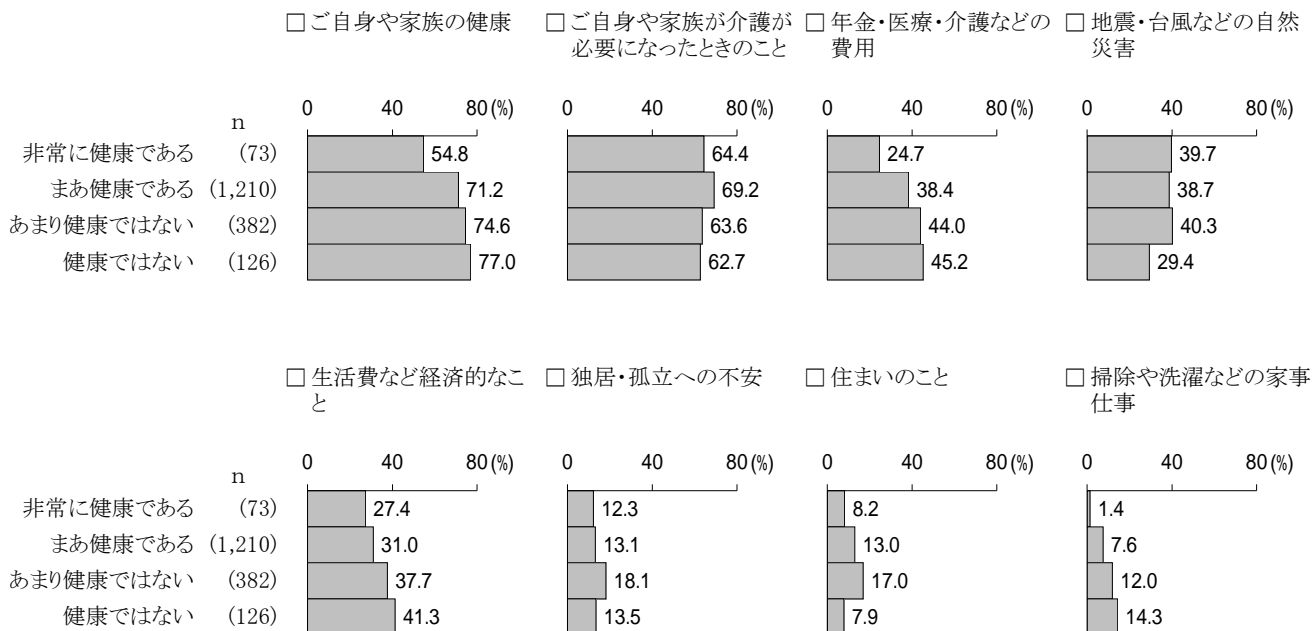
		調査数	ご自身や家族の健康	ご自身や家族が介護が必要になったときのこと	年金・医療・介護などの費用	地震・台風などの自然災害	生活費など経済的なこと	独居・孤立への不安	住まいのこと	掃除や洗濯などの家事仕事
全 体		1,829	71.5	66.8	39.1	38.1	33	13.9	13.2	8.7
家族構成別	ひとり暮らし	357	59.7	55.7	32.2	41.5	29.7	24.1	15.1	10.1
	夫婦のみ（二人暮らし）	705	77.4	74.8	39.3	38.3	28.7	15.5	13.0	8.2
	それ以外	670	72.5	65.8	41.2	35.7	37.3	6.4	11.8	7.8

		調査数	食事	詐欺などの犯罪に巻き込まれること	地域とのつながり	財産や資産の管理	金銭管理	近所との人間関係	趣味や生きがいがないこと	その他
全 体		1,829	8.3	6.7	6.1	5.3	5.1	4.9	3.9	1.9
家族構成別	ひとり暮らし	357	9.8	9.8	6.4	5.9	4.8	3.9	3.9	3.4
	夫婦のみ（二人暮らし）	705	7.7	6.4	7.1	5.7	4.7	5.2	3.8	1.6
	それ以外	670	7.8	6.0	5.2	4.6	5.2	4.8	3.7	1.5

第2章 調査結果の詳細

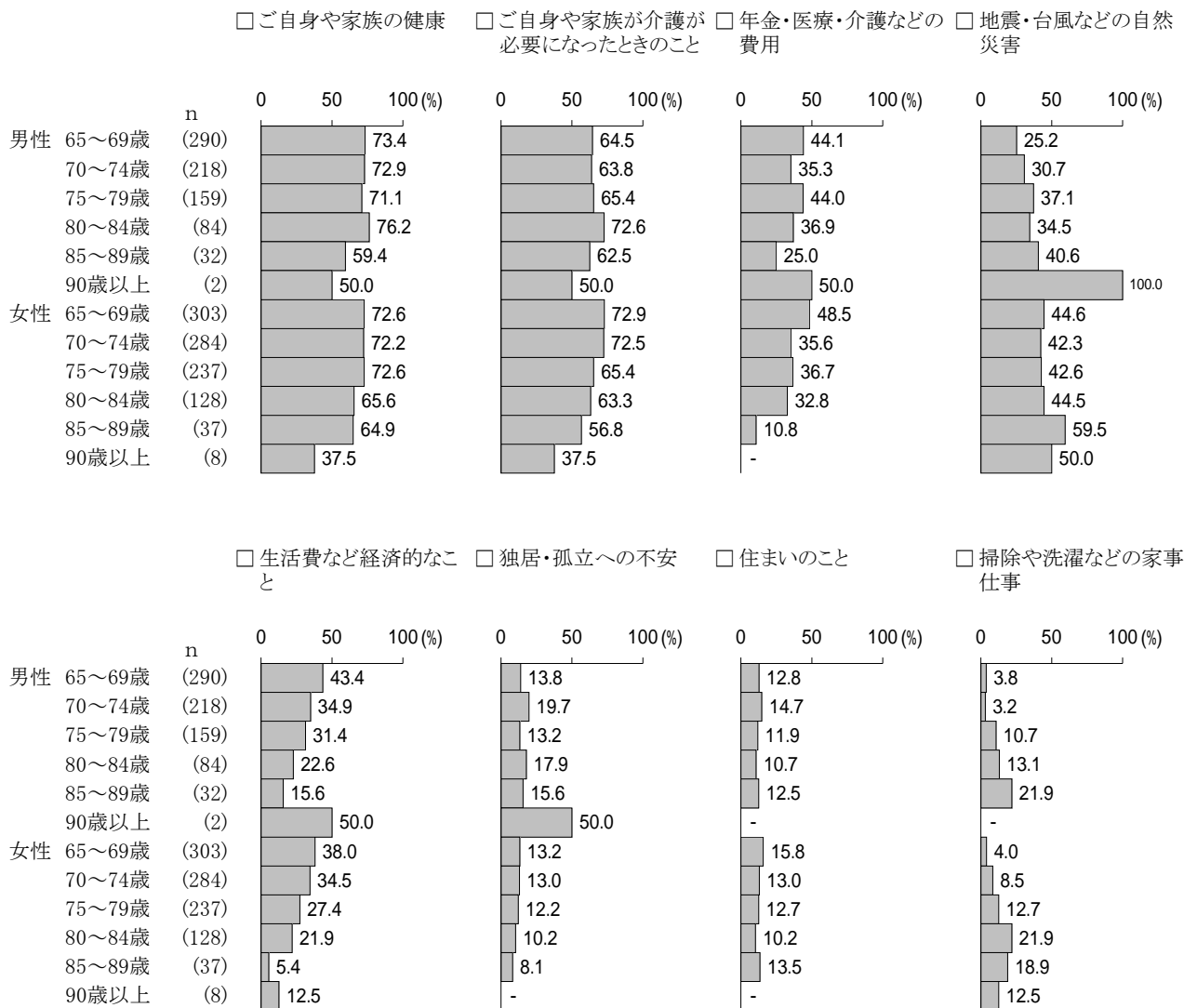
主体的健康感別にみると、「ご自身や家族の健康」「年金・医療・介護などの費用」「生活費など経済的なこと」は主体的健康感が悪くなるほど、その割合が増加する傾向がみられる。

不安を感じているもの（主体的健康感別（上位8項目））



性・年齢別にみると、「ご自身や家族の健康」は男性80～84歳で76.2%と最も多い。また「ご自身や家族が介護が必要になったときのこと」は、男性80～84歳、女性65～74歳で7割強となっている。

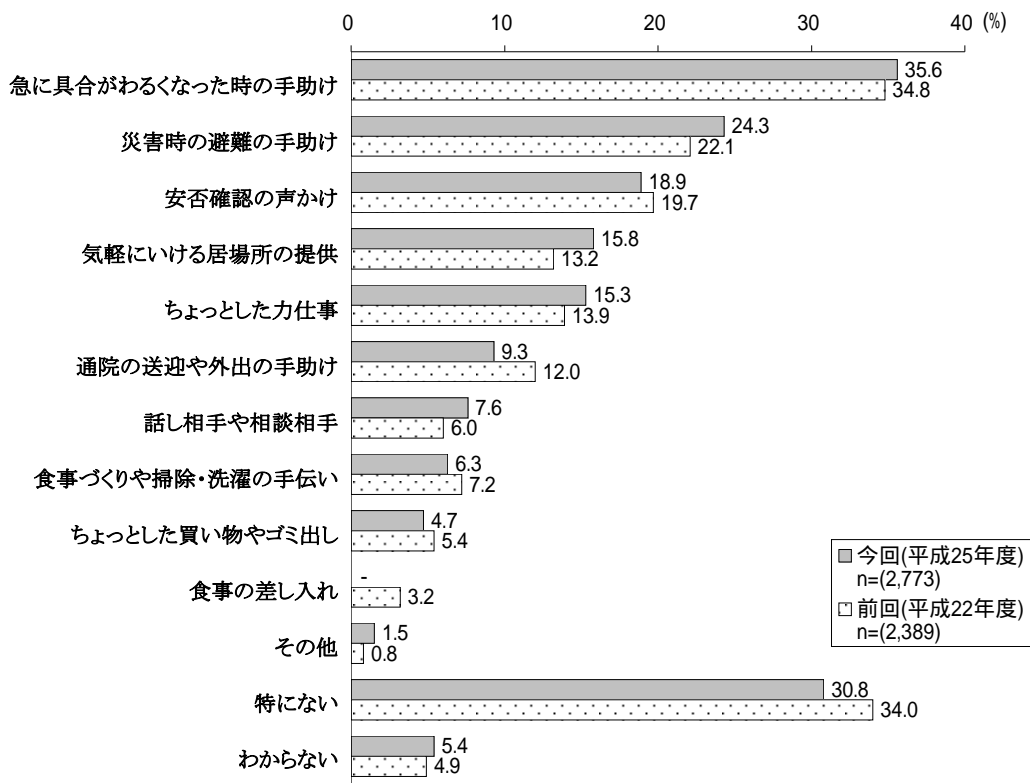
不安を感じているもの（性・年齢別（上位8項目））



(3) 現在のお住まいで生活を続けていく上で、あれば助かる地域の手助け(複数回答)

問23 あなた(ご本人)が現在のお住まいで生活を続けていく上で、地域のどのような手助けがあれば助かるとお考えですか。(あてはまるものすべてに)

「急に具合が悪くなった時の手助け」が3割台半ばで最多



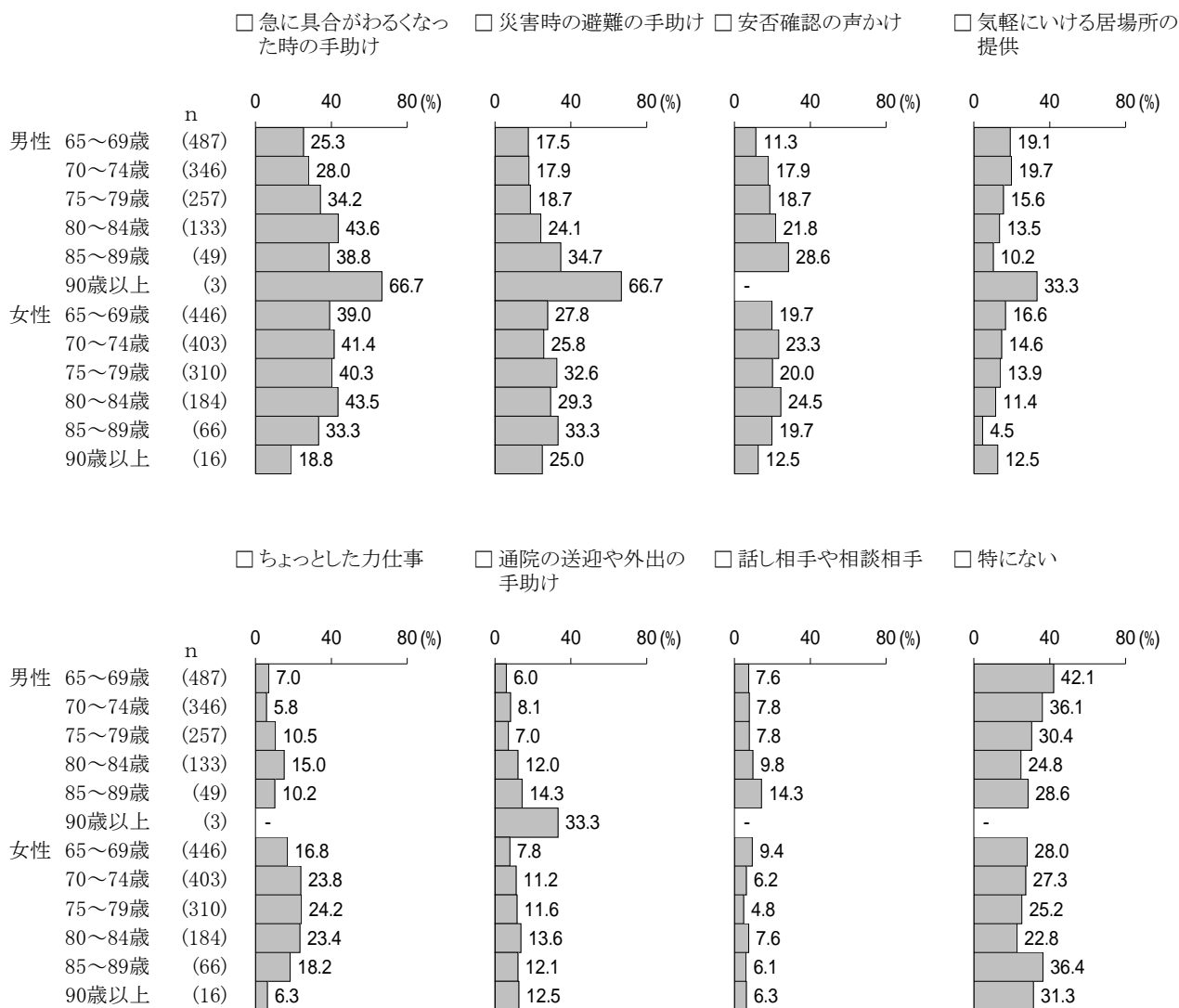
※「食事の差し入れ」は前回(平成22年度)調査のみの項目

現在の住まいで生活を続けていく上で、あれば助かる地域の手助けは、「急に具合が悪くなった時の手助け」が35.6%と最も多く、以下、「災害時の避難の手助け」(24.3%)、「安否確認の声かけ」(18.9%)が2割前後で続いている。一方、「特にない」は30.8%となっている。

前回調査と比較すると、「通院の送迎や外出の手助け」が前回(12.0%)より2.7ポイント減少し、「気軽にいける居場所の提供」が前回(13.2%)より2.6ポイント増加した。

性・年齢別にみると、「急に具合がわるくなった時の手助け」は男性80～84歳、女性70～84歳で4割台と多くなっている。

現在のお住まいで生活を続けていく上で、あれば助かる地域の手助け
(性・年齢別(上位7項目+「特にない」))

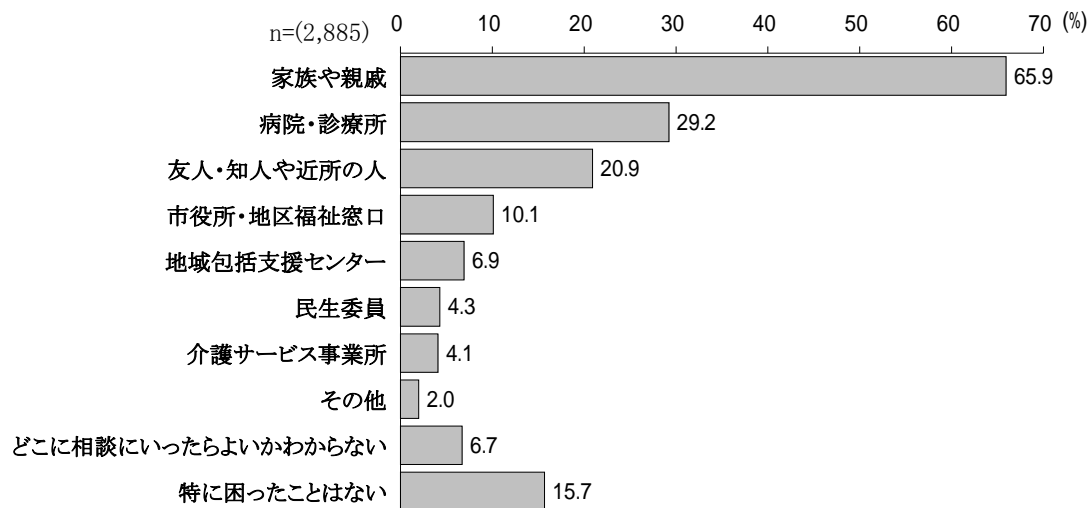


10. 相談先について

(1) 健康や福祉、介護のことなどで困った時の相談先（複数回答）

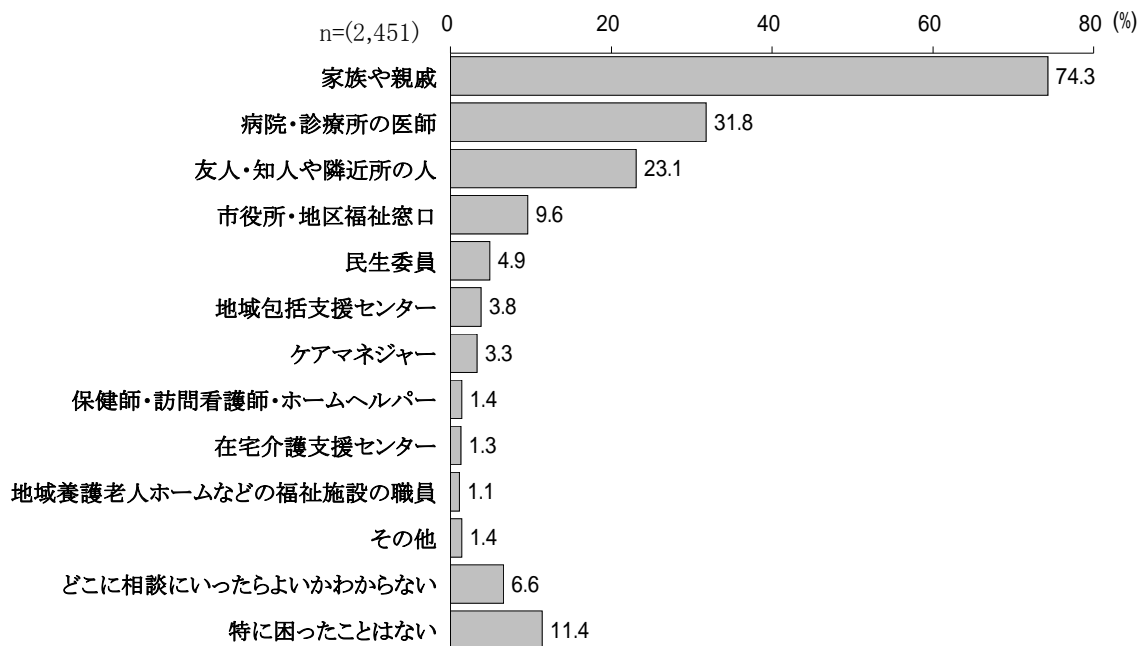
問24 あなた(ご本人)が、健康や福祉、介護のことなどで困った時は、どなたに相談していますか。(あてはまるものすべてに)

「家族や親戚」が6割台半ばで最多



健康や福祉、介護のことなどで困った時の相談先は、「家族や親戚」が65.9%で最も多く、以下、「病院・診療所」(29.2%)、「友人・知人や近所の人」(20.9%)と続いている。

【参考 前回調査(平成22年度)】



家族構成別にみると、「家族や親戚」は家族構成に関わらず6割台と多くなっている。「病院・診療所」は夫婦のみで32.9%と最も多く、「友人・知人や近所の人」はひとり暮らしで27.5%と最も多くなっている。

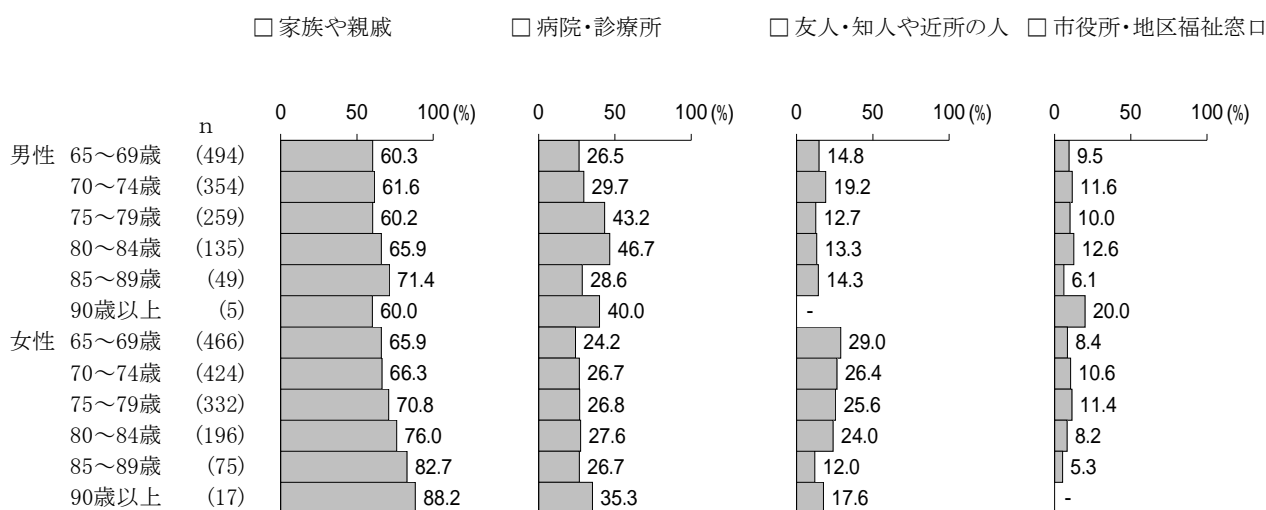
健康や福祉、介護のことなどで困った時の相談先（家族構成別）

（単位：％）

	調査数	家族や親戚	病院・診療所	友人・知人や近所の人	市役所・地区福祉窓口	地域包括支援センター	民生委員	介護サービス事業所	その他	わからない	どこに相談にいったらよいか	特に困ったことはない
全体	2,885	65.9	29.2	20.9	10.1	6.9	4.3	4.1	2.0	6.7	15.7	
家族構成別	ひとり暮らし	527	62.0	25.2	27.5	10.4	8.0	7.8	2.7	3.2	9.1	13.9
	夫婦のみ（二人暮らし）	1,075	66.0	32.9	20.3	9.4	6.2	3.3	5.1	1.3	5.6	17.0
	それ以外	1,117	68.0	27.9	18.5	9.8	6.7	3.2	3.7	2.0	6.3	15.4

性・年齢別にみると、「家族や親戚」は男女ともいずれの年齢でも6割以上となっており、特に女性の85歳以上で8割台と多くなっている。「病院・診療所」は男性の75～84歳で4割台と多くなっている。「友人・知人や近所の人」は女性の場合、年齢が高くなるほど、その割合が減少する傾向がみられる。

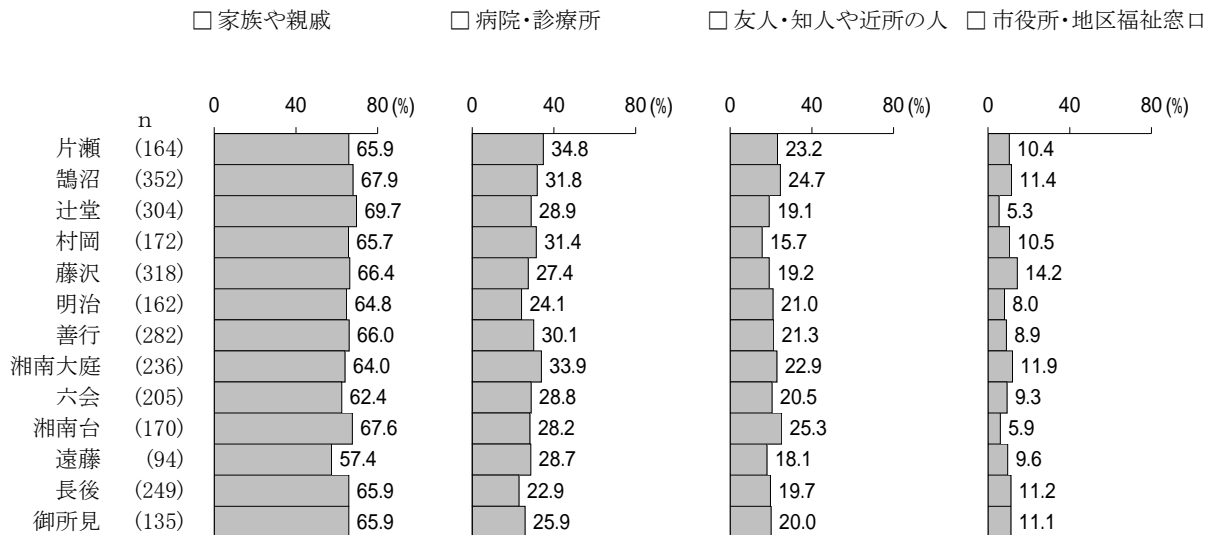
健康や福祉、介護のことなどで困った時の相談先（性・年齢別（上位4項目））



第2章 調査結果の詳細

地域別にみると、「家族や親戚」は遠藤を除くいずれの地区でも6割台と多くなっている。「病院・診療所」は片瀬、鵜沼、村岡、善行、湘南大庭で3割台となっている。

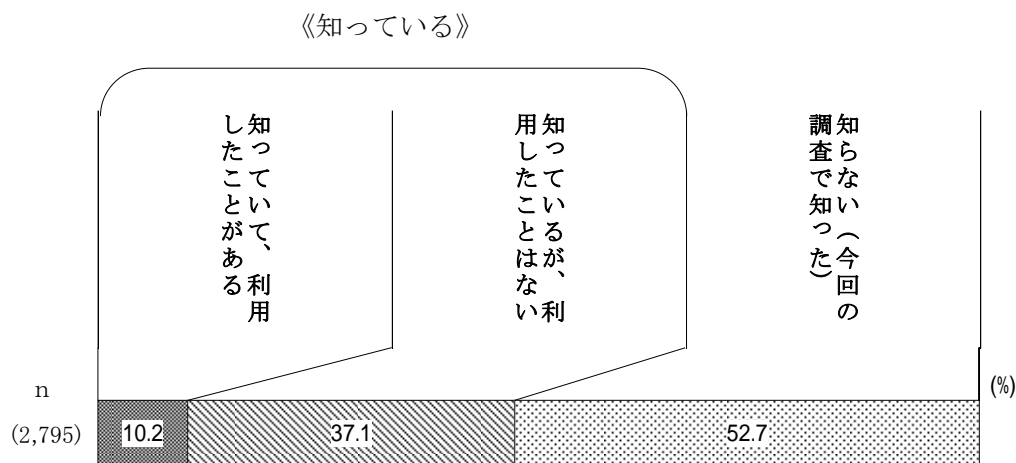
健康や福祉、介護のことなどで困った時の相談先（地域別（上位4項目））



(2) 地域包括支援センターの認知度

問25 あなた(ご本人)は、地域包括支援センターをご存じですか。(1つに)

「知らない」が5割強

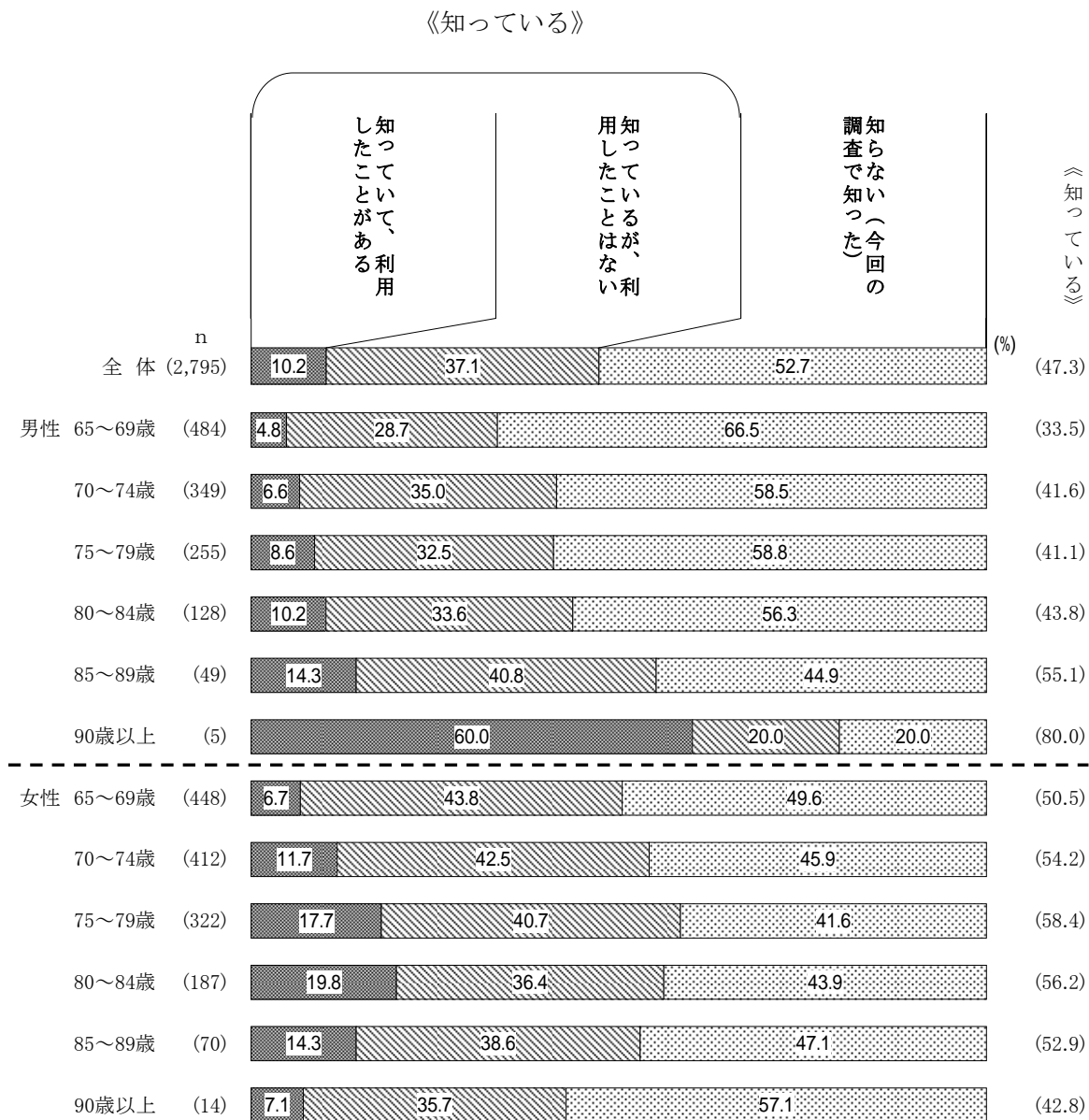


地域包括支援センターの認知度は、「知っている、利用したことがある」(10.2%)、「知っているが、利用したことはない」(37.1%)をあわせると《知っている》層は47.3%となっている。

第2章 調査結果の詳細

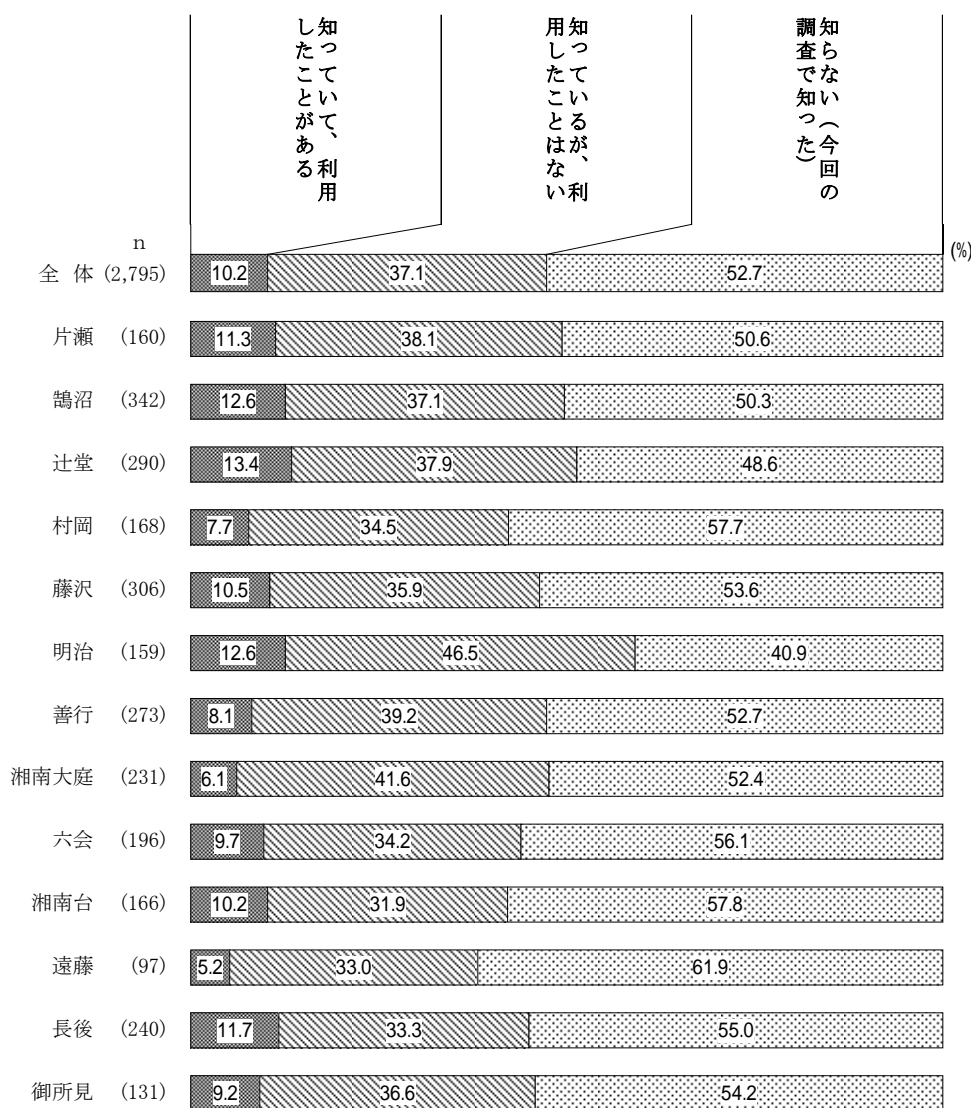
性・年齢別にみると、《知っている》は男性の場合、年齢が高くなるほど、その割合が増加する傾向がみられる。また、女性の場合では75～79歳で最も多く、その後は減少する傾向がみられる。

地域包括支援センターの認知度（性・年齢別）



地域別にみると、「知っているが、利用したことはない」は明治、湘南大庭で4割台となっている。一方、「知らない(今回の調査で知った)」は遠藤で61.9%と多くなっている。

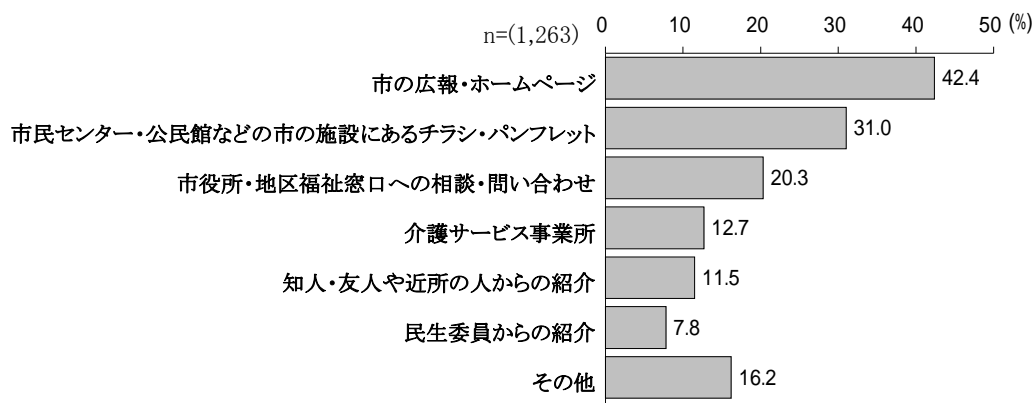
地域包括支援センターの認知度（地域別）



(3) 地域包括支援センターを知ったきっかけ (複数回答)

問25 - 1 《地域包括支援センターを知っている方のみ (問25で「知っていて利用したことがある」または「知っているが、利用したことはない」と回答した方) お答えください》
 地域包括支援センターを何で知りましたか。(あてはまるものすべてに)

「市の広報・ホームページ」が4割強で最多

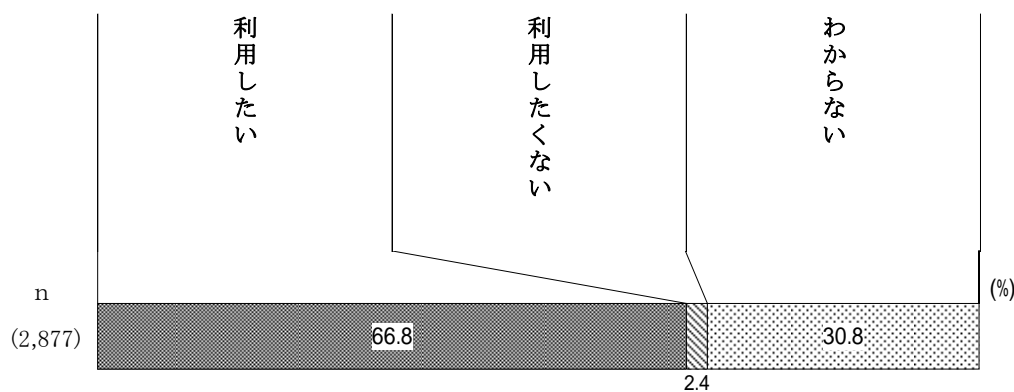


地域包括支援センターを知ったきっかけは、「市の広報・ホームページ」が42.4%で最も多く、以下、「市民センター・公民館などの市の施設にあるチラシ・パンフレット」(31.0%)、「市役所・地区福祉窓口への相談・問い合わせ」(20.3%)と続いている。

(4) 地域包括支援センターの利用意向

問26 今後、日常生活における相談や支援が必要になった時、地域包括支援センターを利用したいと思いますか。(1つに)

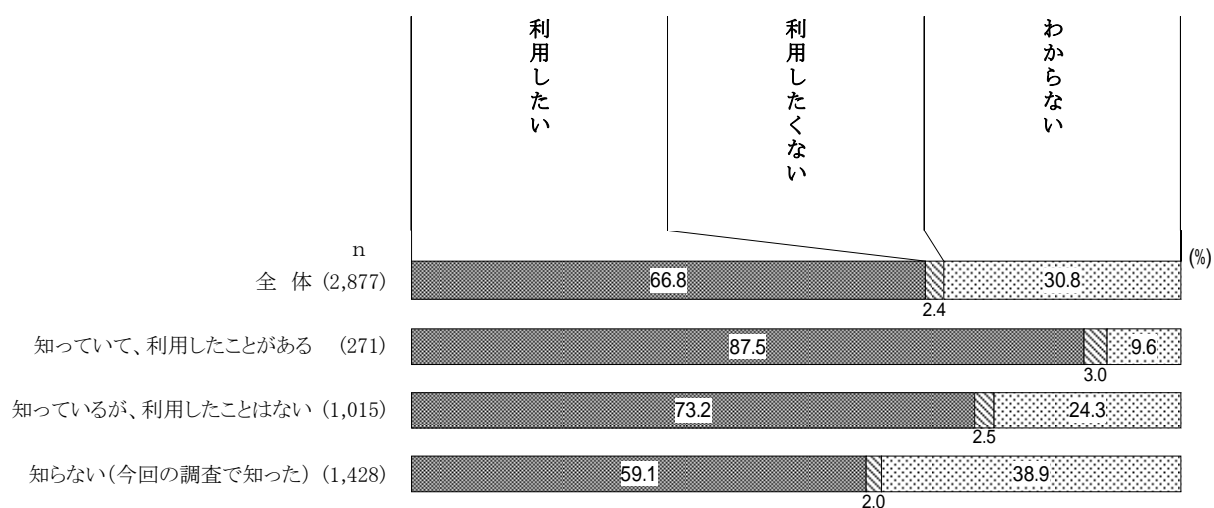
「利用したい」が6割台半ば



地域包括支援センターの利用意向は、「利用したい」が66.8%、「利用したくない」が2.4%、「わからない」が30.8%となっている。

地域包括支援センターの認知度別にみると、認知度が高いほど、「利用したい」割合が多くなる傾向がみられる。

地域包括支援センターの利用意向 (地域包括支援センターの認知度別)

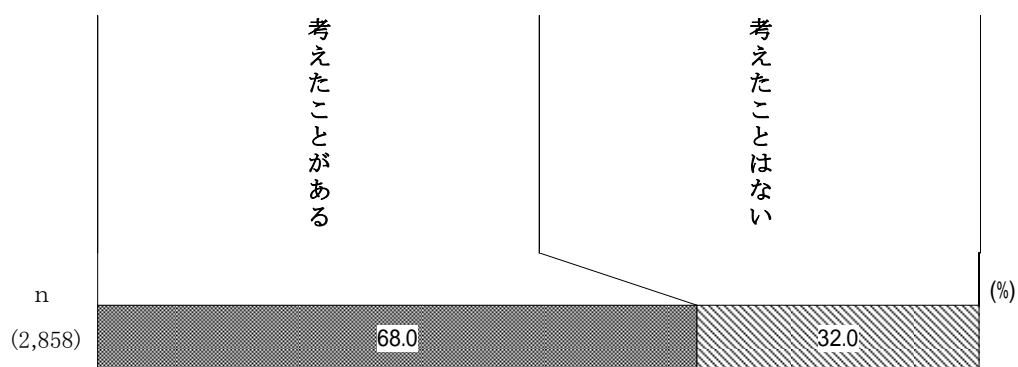


11. 認知症について

(1) 認知症について考えた経験の有無

問27 あなた(ご本人)は今までに、ご自身や家族が認知症になった時にどうしたらいいか、考えたことはありますか。(1つに)

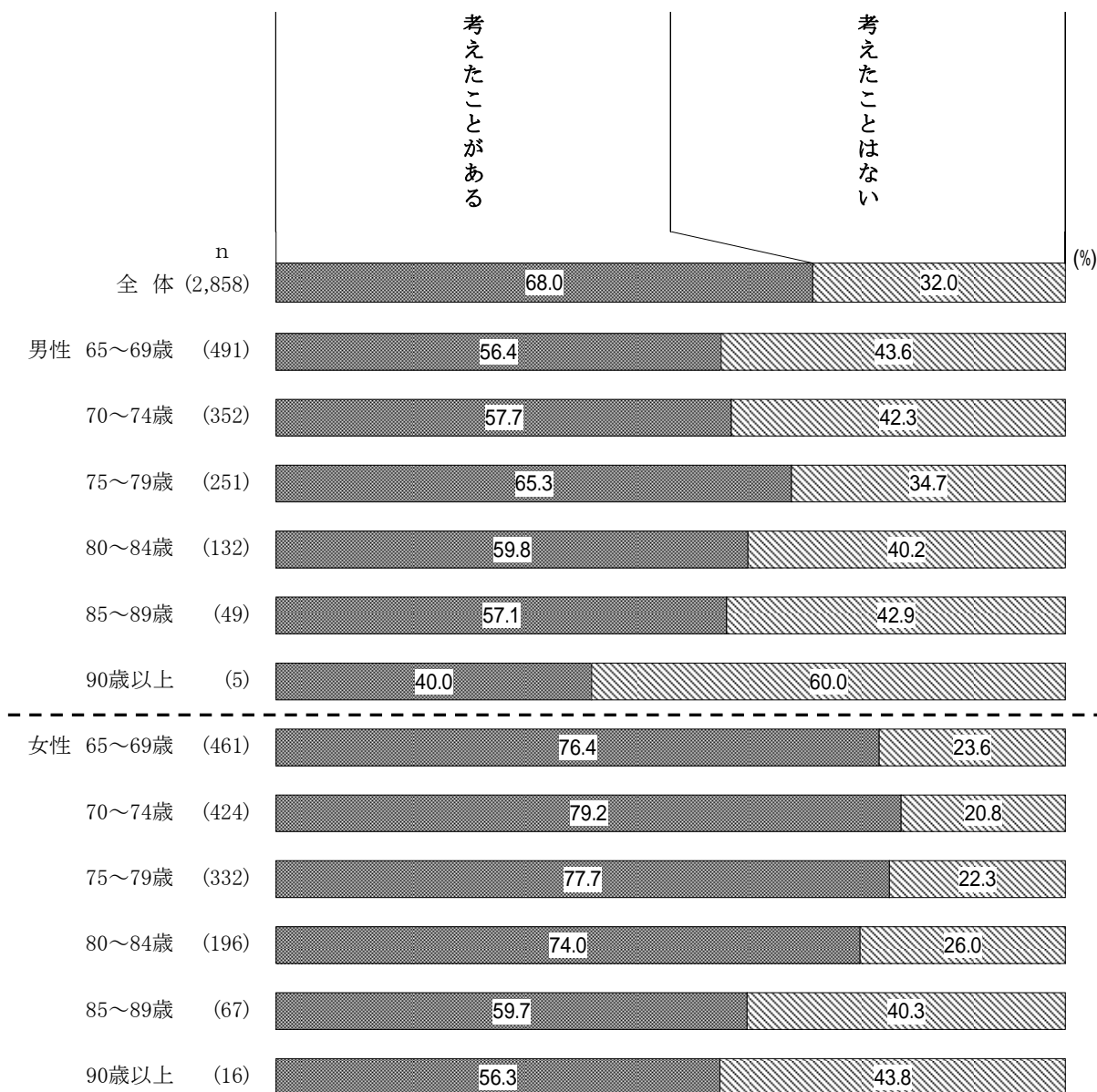
「考えたことがある」が7割弱



認知症について考えた経験の有無は、「考えたことがある」が68.0%、「考えたことはない」が32.0%となっている。

性・年齢別にみると、「考えたことがある」は各年齢とも女性のほうが男性を上回っており、特に女性70～74歳で79.2%と最も多くなっている。

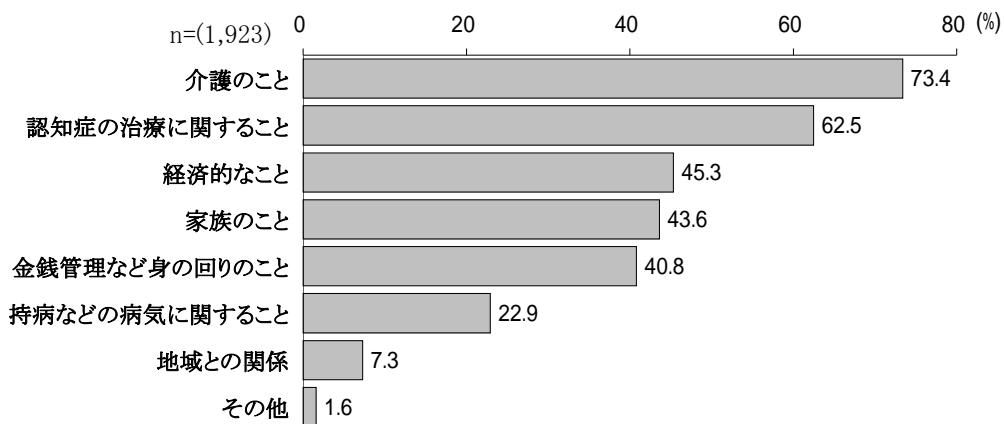
認知症について考えた経験の有無（性・年齢別）



(2) 認知症について考えたこと(複数回答)

問27 - 1 《考えたことがある方のみ(問27で「考えたことがある」と回答した方)お答えください》
どのようなことを考えましたか。(あてはまるものすべてに)

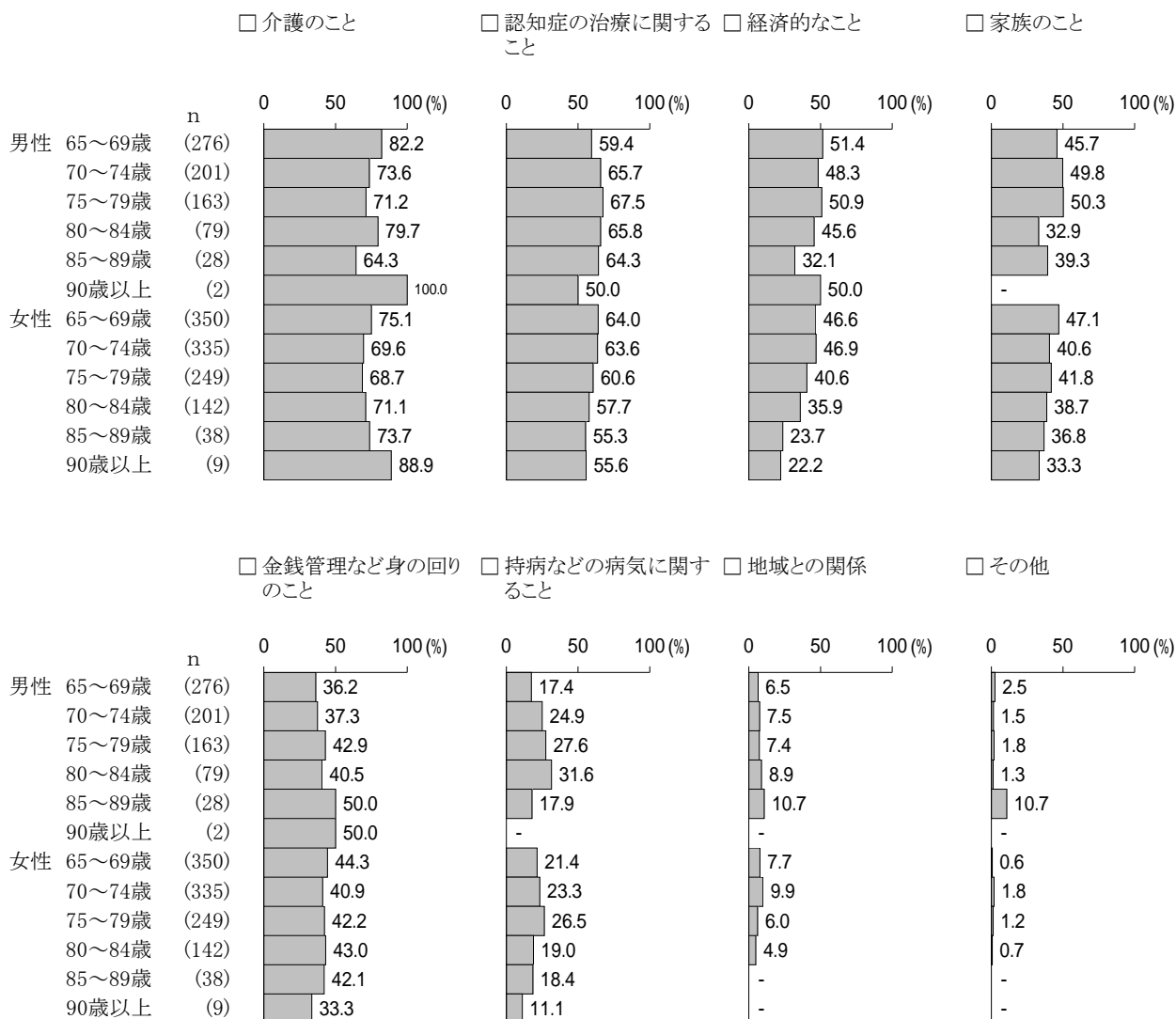
「介護のこと」が7割強で最多



認知症について考えたことは、「介護のこと」が73.4%で最も多く、以下、「認知症の治療に関すること」(62.5%)、「経済的なこと」(45.3%)、「家族のこと」(43.6%)、「金銭管理など身の回りのこと」(40.8%)と続いている。

性・年齢別にみると、男性の場合は、「金銭管理など身の回りのこと」は年齢が高くなるほど、その割合が増加する傾向がみられる。女性の場合は、「認知症の治療に関すること」「経済的なこと」「家族のこと」は年齢が高くなるほど、その割合が減少する傾向がみられる。

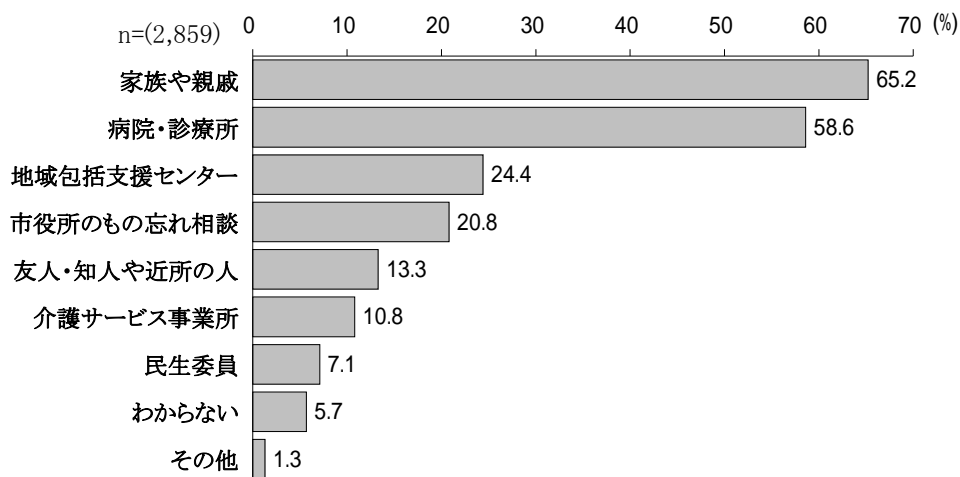
認知症について考えたこと（性・年齢別）



(3) 認知症の疑いがあるときの相談先(複数回答)

問28 あなた(ご本人)は、あなたの身近な方に認知症の疑いがあるとき、まずどこに相談しますか。(あてはまるものすべてに)

「家族や親戚」が6割台半ばで最多



認知症の疑いがあるときの相談先は、「家族や親戚」が65.2%で最も多く、以下、「病院・診療所」(58.6%)、「地域包括支援センター」(24.4%)、「市役所のもの忘れ相談」(20.8%)と続いている。

家族構成別にみると、「家族や親戚」「病院・診療所」は夫婦のみ(二人暮らし)で最も多くなっている。また「友人・知人や近所の人」「民生委員」はひとり暮らしで最も多くなっている。

認知症の疑いがあるときの相談先(家族構成別)

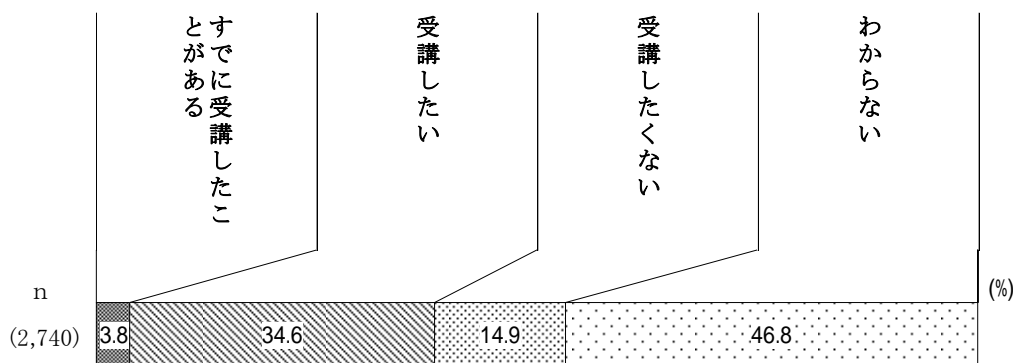
(単位: %)

		調査数	家族や親戚	病院・診療所	地域包括支援センター	市役所のもの忘れ相談	友人・知人や近所の人	介護サービス事業所	民生委員	わからない	その他
全体		2,859	65.2	58.6	24.4	20.8	13.3	10.8	7.1	5.7	1.3
家族構成別	ひとり暮らし	516	56.2	51.0	23.1	20.0	15.1	10.5	10.9	8.1	3.1
	夫婦のみ(二人暮らし)	1,083	68.3	63.3	25.0	21.5	12.5	9.6	6.5	3.8	1.0
	それ以外	1,096	66.3	58.3	24.8	21.2	12.9	12.2	5.6	6.5	1.0

(4) 認知症サポーター養成講座の受講意向

問29 あなた(ご本人)は、認知症サポーター養成講座の開催があれば、受講したいと思いますか。(1つに)

「受講したい」が3割台半ば

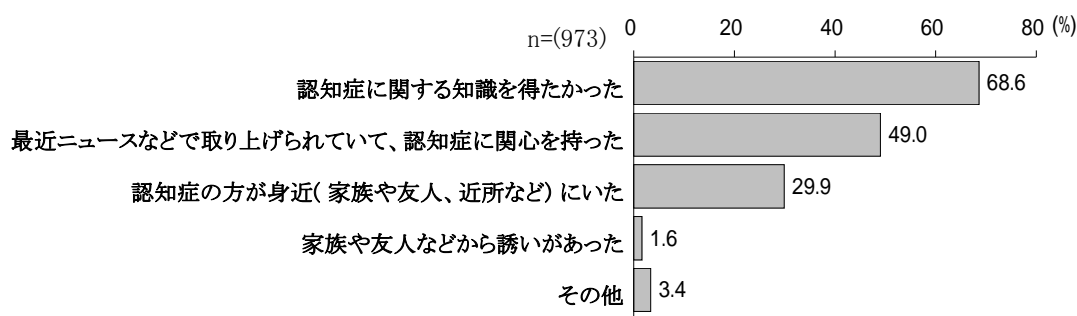


認知症サポーター養成講座の受講意向は、「わからない」が46.8%で最も多く、以下、「受講したい」(34.6%)、「受講したくない」(14.9%)と続いている。

(5) 受講したいと思った理由(複数回答)

問29-1 《受講したことがある方・受講したい方のみ(問29で「すでに受講したことがある」または「受講したい」と回答した方)お答えください》
どのような理由から受講したいと思われましたか。(あてはまるものすべてに)

「認知症に関する知識を得たかった」が7割弱で最多



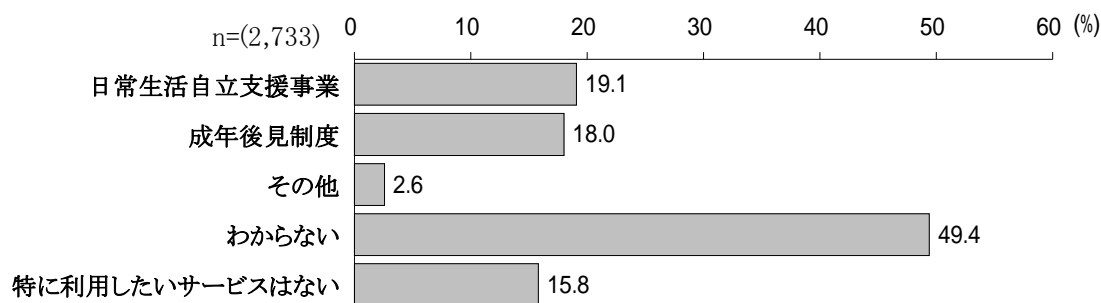
受講したいと思った理由は、「認知症に関する知識を得たかった」が68.6%で最も多く、以下、「最近ニュースなどで取り上げられていて、認知症に関心を持った」(49.0%)、「認知症の方が身近(家族や友人、近所など)にいた」(29.9%)と続いている。

12. 権利擁護について

(1) 判断能力が不安になったときに利用したい支援やサービス(複数回答)

問30 あなた(ご本人)は、今後、認知症など、判断能力が不安になり何らかの支援が必要になった時、利用したい支援やサービスはありますか。(あてはまるものすべてに)

「日常生活自立支援事業」「成年後見制度」がともに2割弱



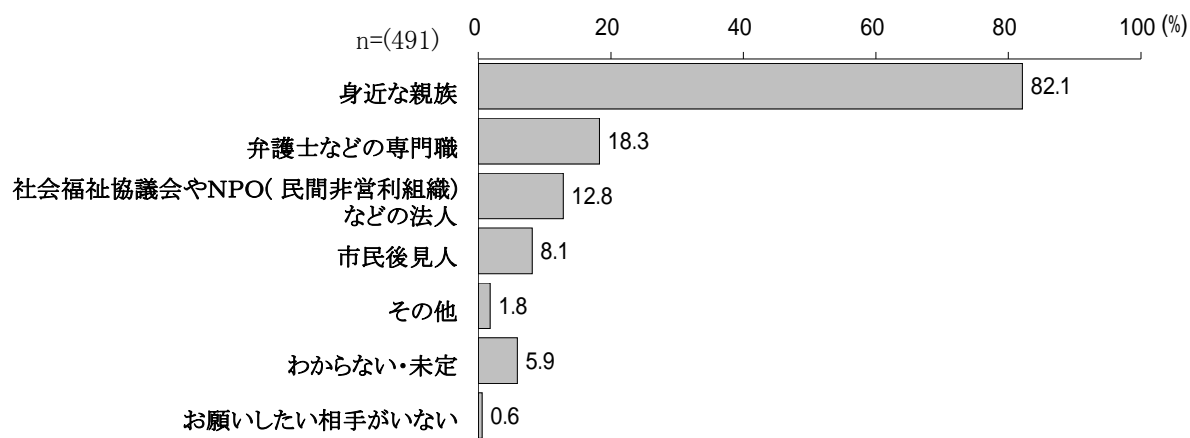
判断能力が不安になったときに利用したい支援やサービスは、「日常生活自立支援事業」が19.1%、「成年後見制度」が18.0%となっている。一方、「わからない」は49.4%となっている。

(2) 成年後見人の希望

問30 - 1 《成年後見制度を利用したい方のみ（問30で「成年後見制度」と回答した方）お答えください》

成年後見制度を利用する場合、どなたに成年後見人をお願いしたいですか。（あてはまるものすべてに ）

「身近な親族」が8割強で最多

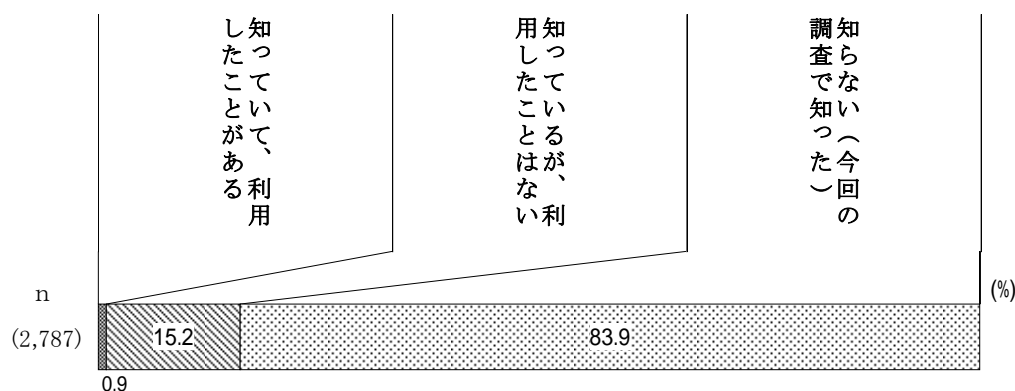


成年後見人の希望は、「身近な親族」が82.1%で最も多く、以下、「弁護士などの専門職」（18.3%）、「社会福祉協議会やNPO（民間非営利組織）などの法人」（12.8%）と続いている。

(3) 「ふじさわあんしんセンター」の認知度

問31 あなた(ご本人)は、成年後見制度や権利擁護に関する相談支援機関である「ふじさわあんしんセンター」をご存じですか。（1つに ）

「知らない」が8割強



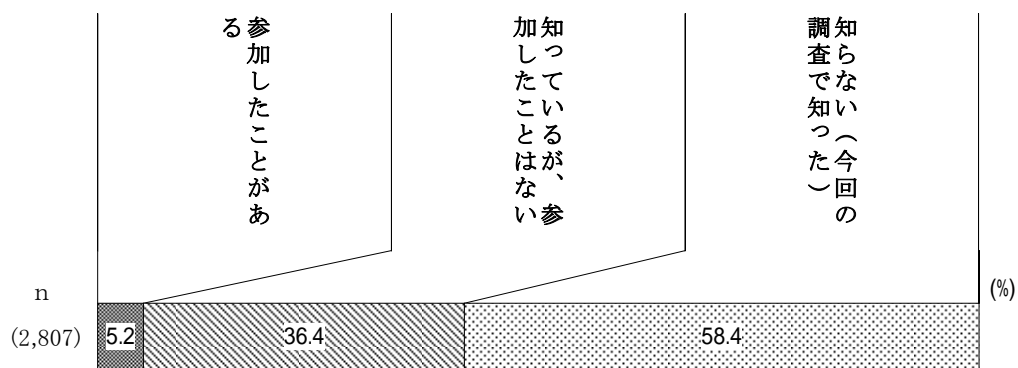
「ふじさわあんしんセンター」の認知度は、「知っていて、利用したことがある」が0.9%、「知っているが、利用したことはない」が15.2%となっており、「知っている」層は16.1%となっている。

13. いきいき生活事業（介護予防事業）について

（1）介護予防に関する講演会や講座に参加した経験

問32 あなた(ご本人)は、市で実施している介護予防に関する講演会や講座に参加したことがありますか。(1つに)

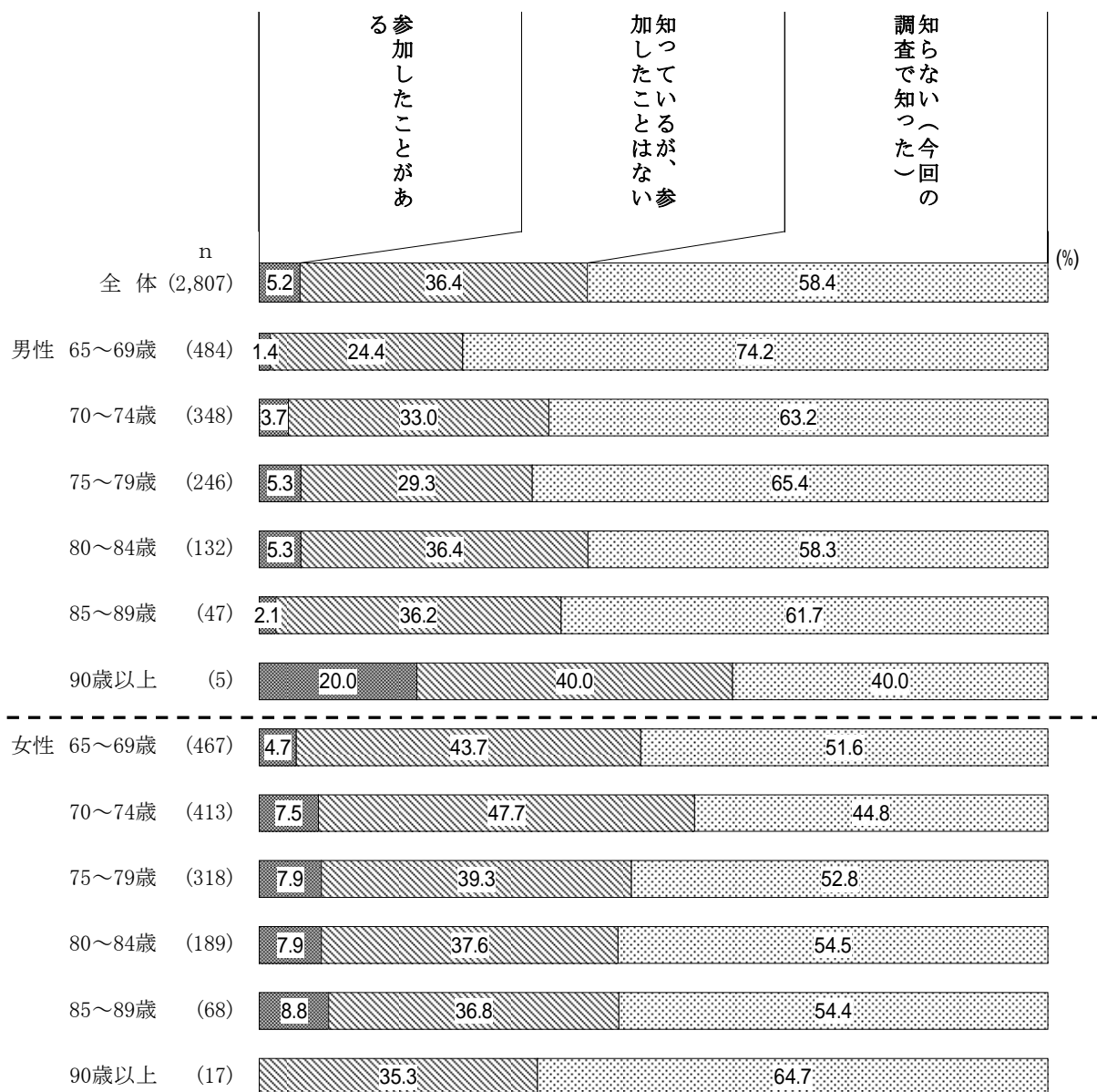
「知らない」が6割弱



介護予防に関する講演会や講座に参加した経験は、「参加したことがある」が5.2%、「知っているが、参加したことはない」が36.4%、「知らない(今回の調査で知った)」が58.4%となっている。

性・年齢別にみると、「知らない(今回の調査で知った)」は男性65～69歳で74.2%と最も多く、また各年齢とも男性のほうが上回っている。

介護予防に関する講演会や講座に参加した経験（性・年齢別）

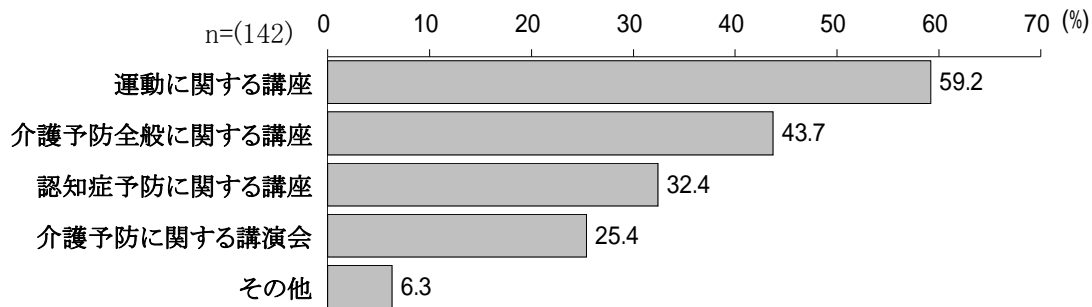


(2) 参加したことがある講座や講演会

問32 - 1 《参加したことがある方のみ（問32で「参加したことがある」と回答した方）お答えください》

次の講座のうち、参加したことがある講座や講演会は何ですか。（あてはまるものすべてに）

「運動に関する講座」が6割弱で最多

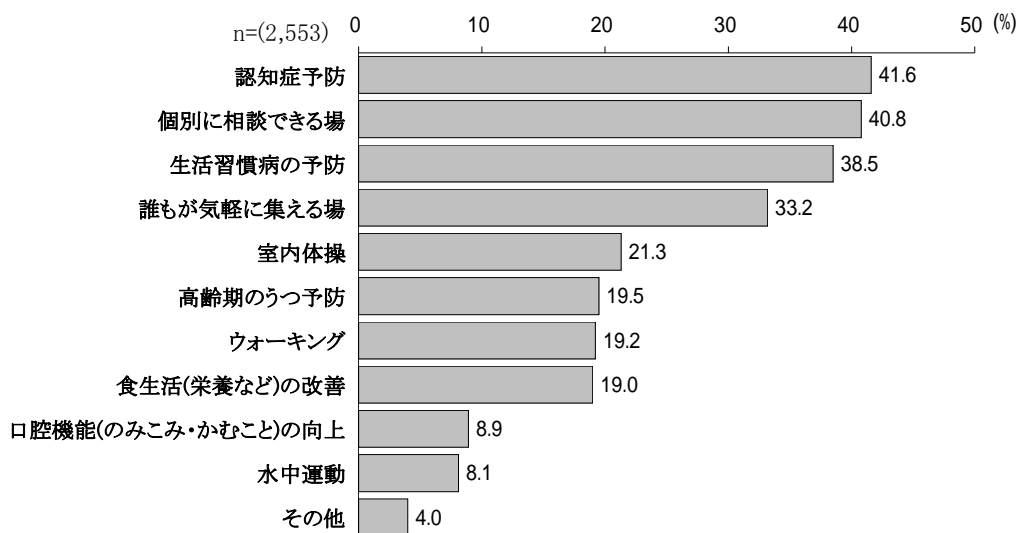


参加したことがある講座や講演会は、「運動に関する講座」が59.2%で最も多く、以下、「介護予防全般に関する講座」（43.7%）、「認知症予防に関する講座」（32.4%）、「介護予防に関する講演会」（25.4%）と続いている。

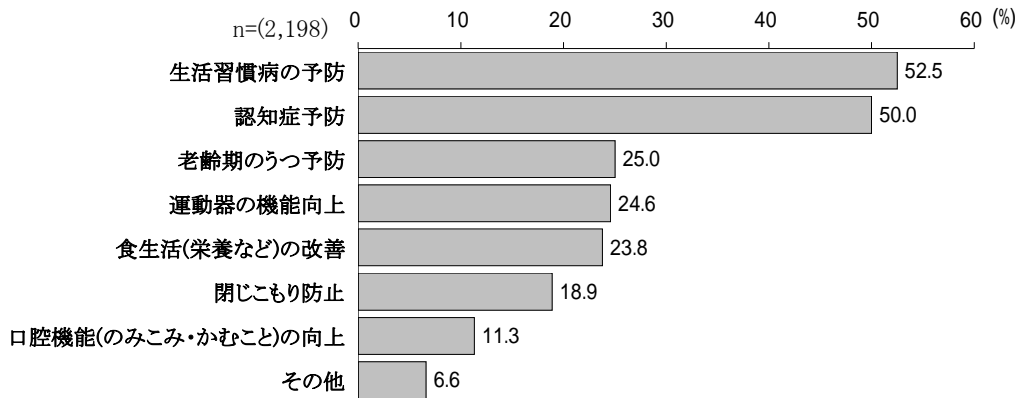
(3) 介護予防に関して、市に力を入れてほしいこと(複数回答)

問33 あなた(ご本人)は、介護予防に関して、今後、市に力を入れてほしいことは何ですか。
(あてはまるものすべてに)

「認知症予防」「個別に相談できる場」がともに4割強が多い



【参考 前回調査(平成22年度)】



介護予防に関して、市に力を入れてほしいことは、「認知症予防」(41.6%)、「個別に相談できる場」(40.8%)の2項目が4割台で多くなっている。

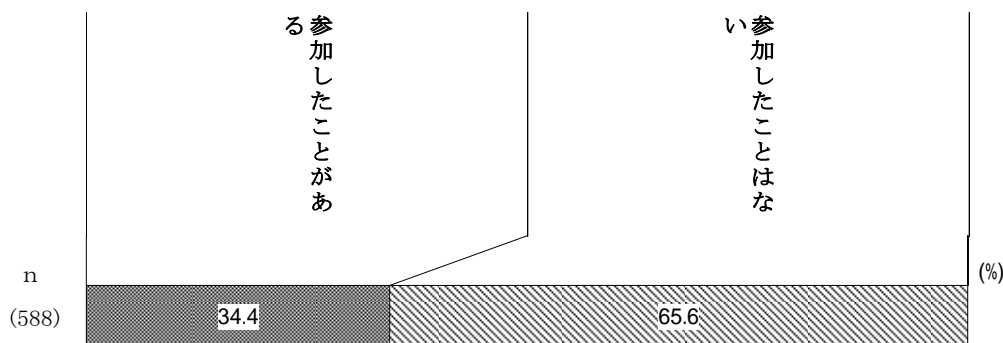
14. 敬老事業について

(1) 敬老会に参加した経験

問34 《80歳以上の方のみお答えください》

あなた(ご本人)は、毎年9月に、各地区で開催している敬老会に参加したことがありますか。(1つに)

「参加したことがある」が3割台半ば



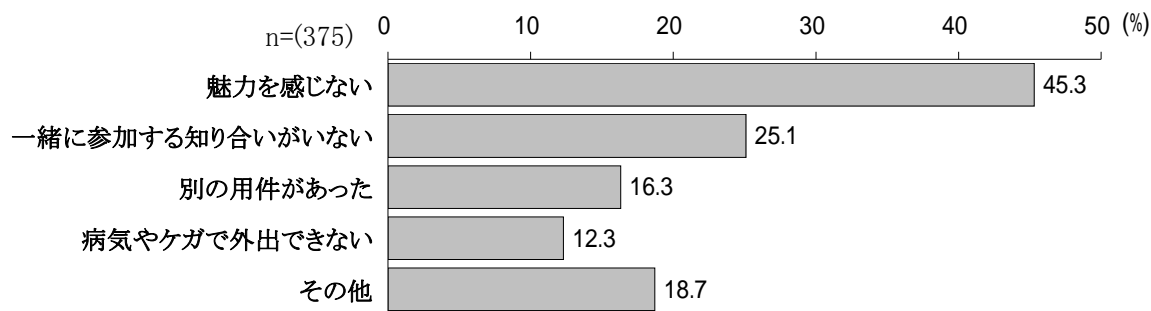
敬老会に参加した経験は、「参加したことがある」が34.4%、「参加したことはない」が65.6%となっている。

(2) 参加したことの無い理由(複数回答)

問34-1 《参加したことがない方のみ(問34で「参加したことはない」と回答した方)お答えください》

その理由は何ですか。(あてはまるものすべてに)

「魅力を感じない」が4割台半ばで最多

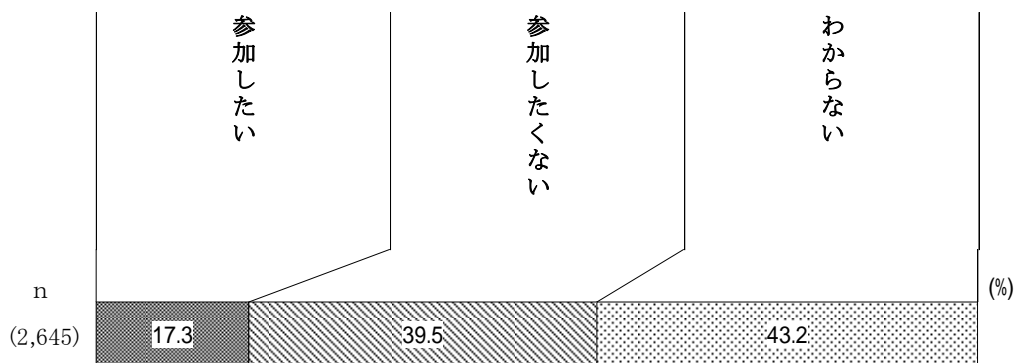


参加したことの無い理由については、「魅力を感じない」が45.3%で最も多く、以下、「一緒に参加する知り合いがない」(25.1%)、「別の用件があった」(16.3%)と続いている。

(3) 敬老会の参加意向

問35 あなた(ご本人)は、敬老会に参加したいと思いますか。(1つに)

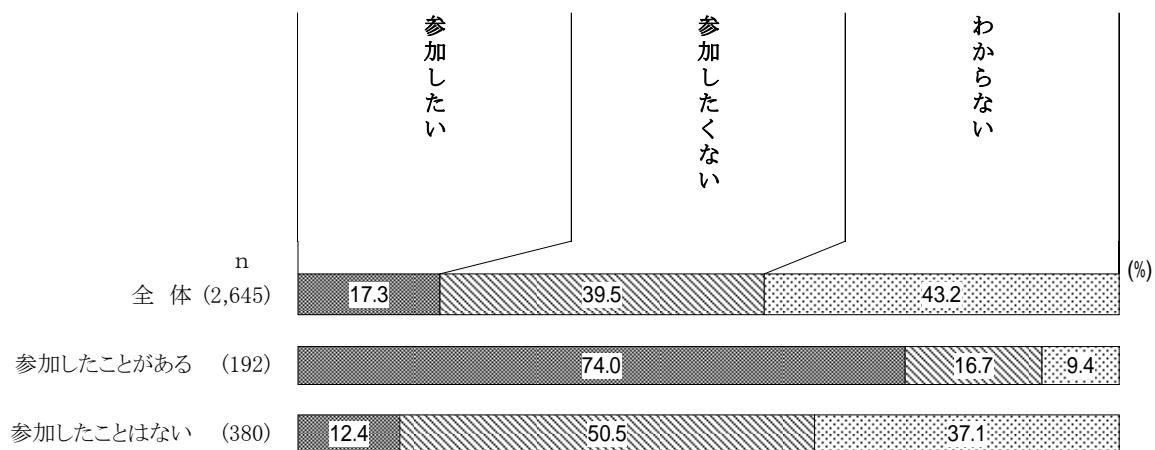
「参加したい」が2割弱



敬老会の参加意向は、「参加したい」が17.3%、「参加したくない」が39.5%、「わからない」が43.2%となっている。

敬老会に参加した経験の有無別にみると、「参加したい」は参加したことがある場合、74.0%と多くなっている。一方、参加したことはない場合、「参加したくない」が約5割を占める。

敬老会の参加意向（敬老会参加の有無別）

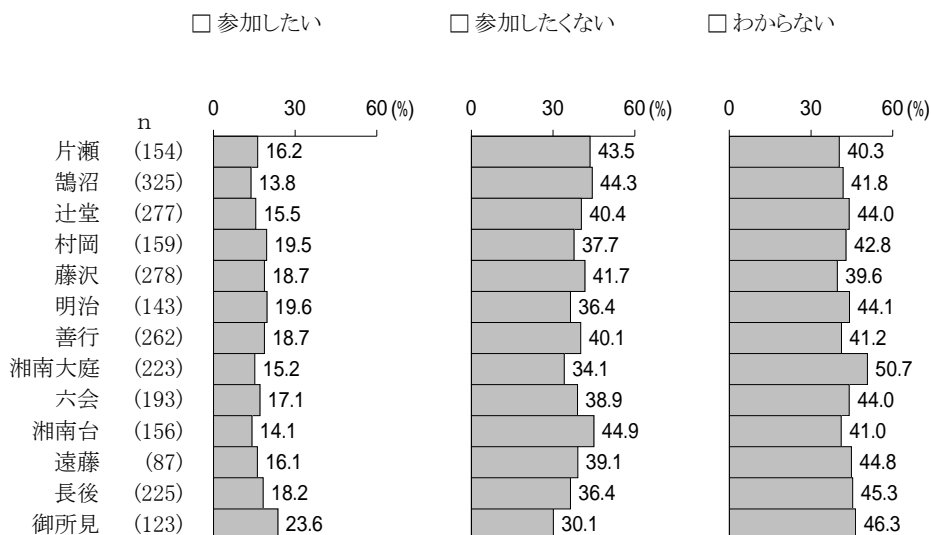


第2章 調査結果の詳細

地域別にみると、「参加したい」は御所見（23.6%）が最も多く、以下、明治（19.6%）、村岡（19.5%）と続いている。

「参加したくない」は湘南台（44.9%）が最も多く、以下、鶴沼（44.3%）、片瀬（43.5%）と続いている。

敬老会の参加意向（地域別）

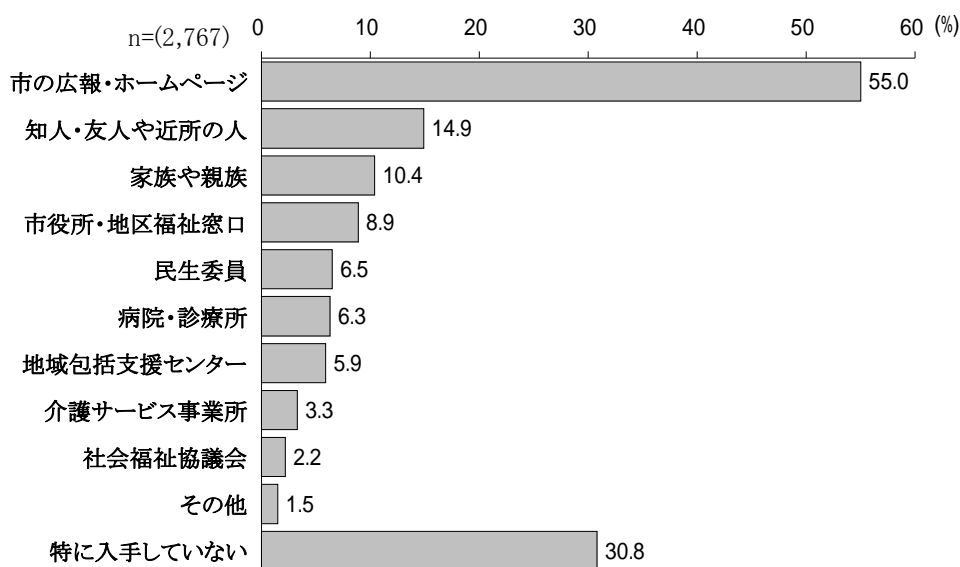


15. 高齢者に対する施策について

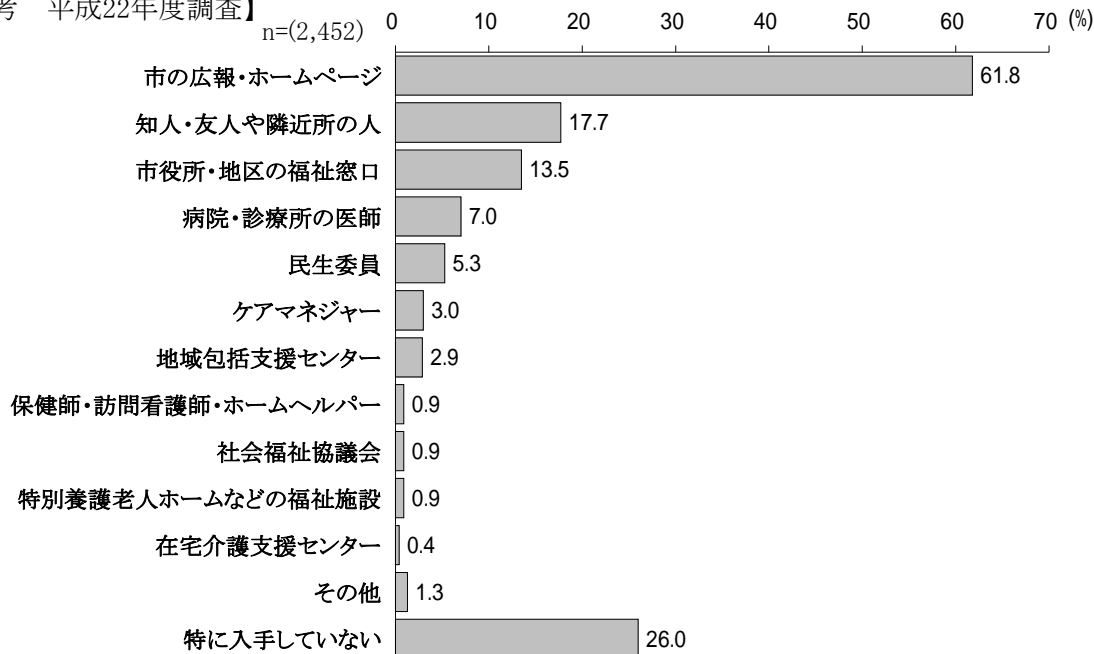
(1) 高齢者に対する施策(サービスや事業など)に関する情報の入手方法(複数回答)

問36 あなた(ご本人)は、市が実施している高齢者に対する施策(サービスや事業など)に関する情報をどのような方法で入手していますか。(あてはまるものすべてに)

「市の広報・ホームページ」が5割台半ばで最多



【参考 平成22年度調査】



高齢者に対する施策(サービスや事業など)に関する情報の入手方法は、「市の広報・ホームページ」が55.0%で最も多く、以下、「知人・友人や近所の人」(14.9%)、「家族や親族」(10.4%)と続いている。一方、情報を「特に入手していない」は30.8%であった。

第2章 調査結果の詳細

家族構成別にみると、「市の広報・ホームページ」は、家族構成に関わらず5割台で最も多くなっている。ひとり暮らしの場合、「知人・友人や近所の人」の他にも、「市役所・地区福祉窓口」「民生委員」で1割台となっている。

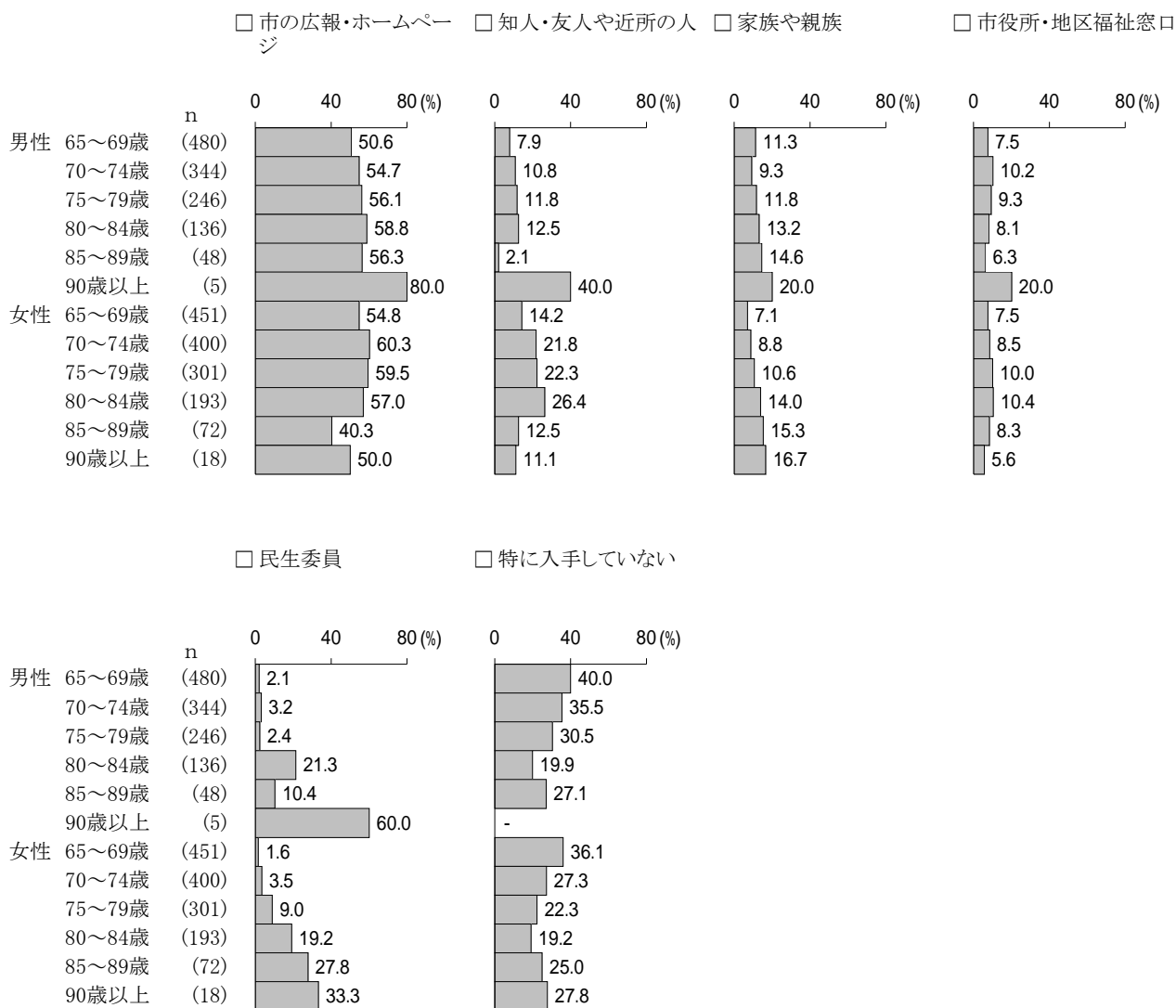
高齢者に対するサービスや事業に関する情報の入手方法（家族構成別）

（単位：％）

	調査数	市の広報・ホームページ	知人・友人や近所の人	家族や親族	市役所・地区福祉窓口	民生委員	病院・診療所	地域包括支援センター	介護サービス事業所	社会福祉協議会	その他	特に入手していない
全体	2,767	55.0	14.9	10.4	8.9	6.5	6.3	5.9	3.3	2.2	1.5	30.8
家族構成別	ひとり暮らし	503	56.7	14.5	5.6	11.3	4.8	5.6	2.0	2.6	1.0	29.4
	夫婦のみ（二人暮らし）	1,050	56.7	14.3	10.4	7.2	4.9	5.4	3.3	2.0	1.6	31.3
	それ以外	1,058	53.6	16.0	12.9	9.5	6.0	7.4	6.2	3.8	2.2	30.1

性・年齢別にみると、「市の広報・ホームページ」は男女ともいずれの年齢でも最も多くあげられている。女性の場合は、「家族や親族」「民生委員」は年齢が高くなるほど、その割合が増加する傾向がみられる。「特に入手していない」は、男性65～69歳で4割、女性65～69歳で3割台となっている。

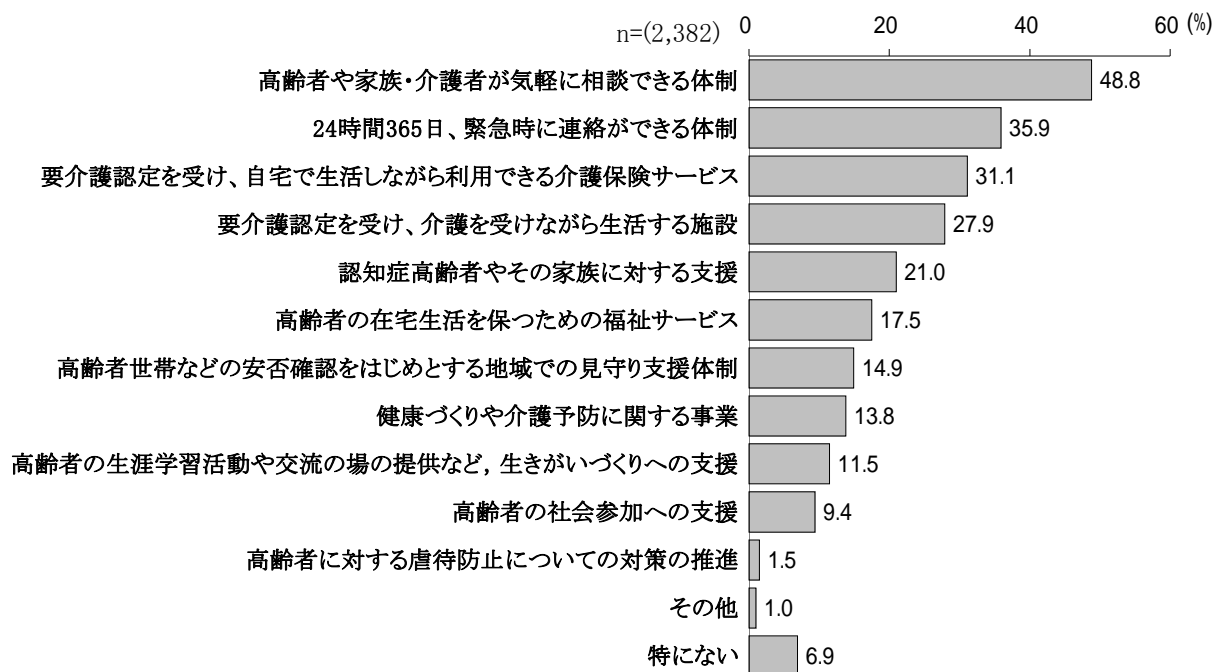
高齢者に対するサービスや事業に関する情報の入手方法 (性・年齢別(上位5項目+「特に入手していない」))



(2) 今後優先すべき施策(サービスや事業など) (複数回答)

問37 あなた(ご本人)は、今後どのような施策(サービスや事業など)を優先的に進めていく必要があると考えますか。(は3つまで)

「高齢者や家族・介護者が気軽に相談できる体制」が5割弱で最多

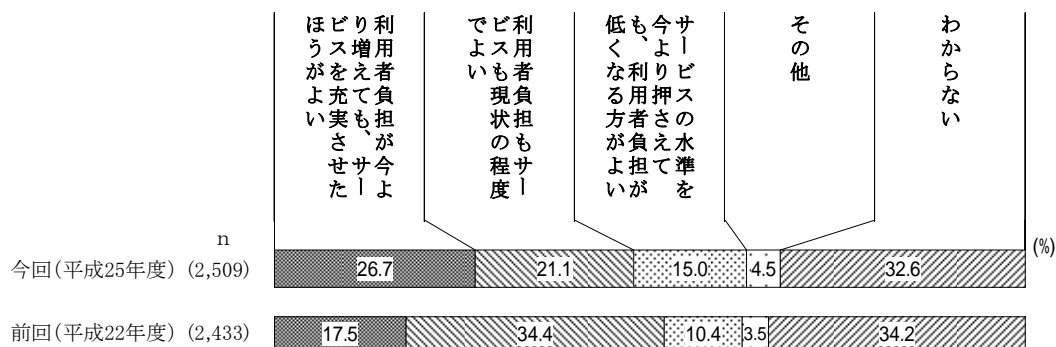


今後、優先すべき施策(サービスや事業など)は、「高齢者や家族・介護者が気軽に相談できる体制」が48.8%で最も多く、以下、「24時間365日、緊急時に連絡ができる体制」(35.9%)、「要介護認定を受け、自宅で生活しながら利用できる介護保険サービス」(31.1%)、「要介護認定を受け、介護を受けながら生活する施設」(27.9%)と続いている。

(3) 高齢者に対するサービスの利用者負担について

問38 あなた(ご本人)は、問37にあるようなサービスを利用するにあたって、一定の利用者負担を支払うことについて、どのようにお考えですか。(1つに)

「わからない」が3割強



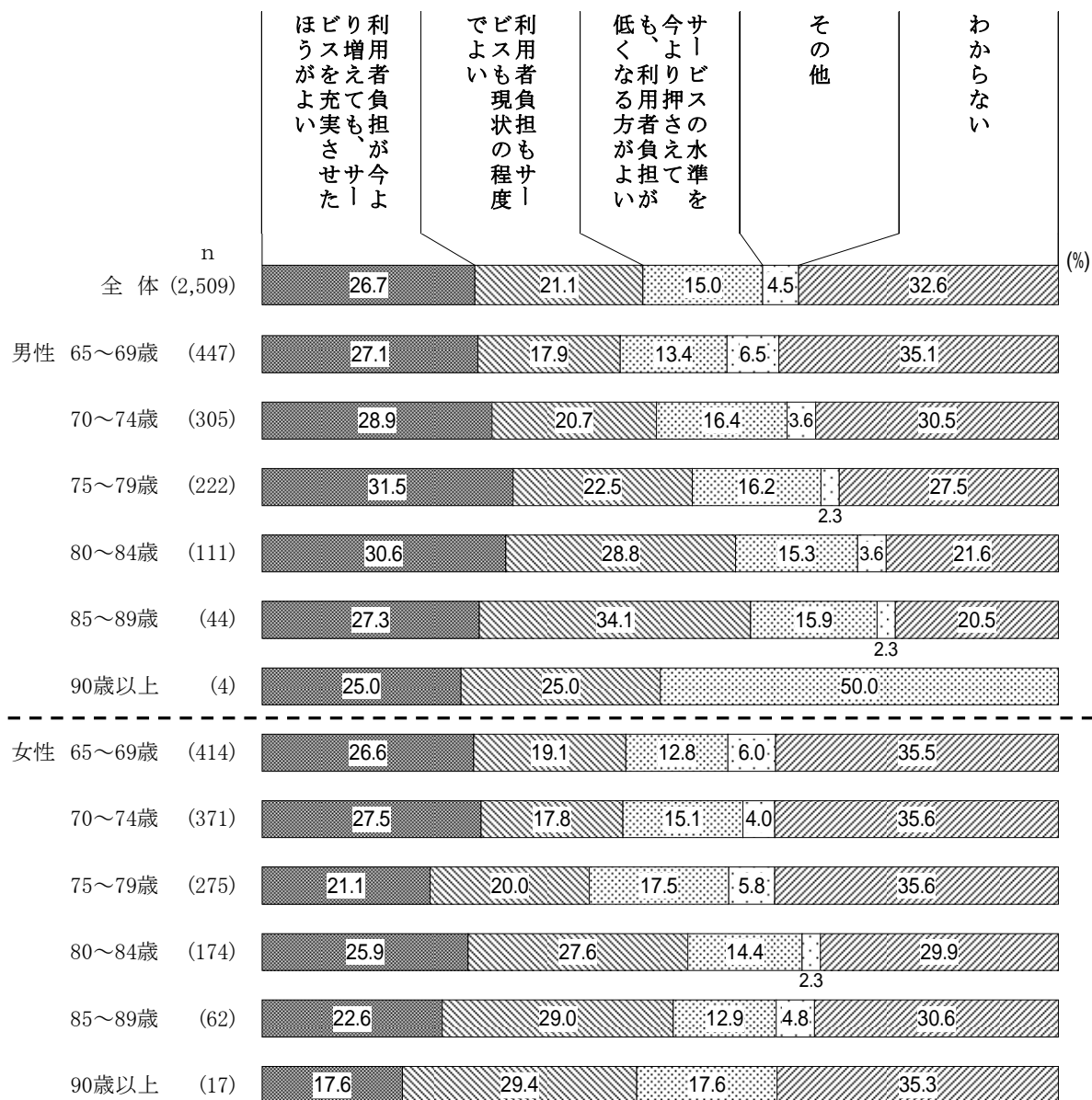
高齢者福祉サービスの利用者負担については、「わからない」が32.6%で最も多く、以下、「利用者負担が増えても、サービスを充実させたほうがよい」(26.7%)、「利用者負担もサービスも現状の程度でよい」(21.1%)と続いている。

前回調査と比較すると、「利用者負担が増えても、サービスを充実させたほうがよい」は前回(17.5%)より9.2ポイント増加した。一方で、「利用者負担もサービスも現状の程度でよい」は前回(34.4%)より13.3ポイント減少した。

第2章 調査結果の詳細

性・年齢別にみると、「利用者負担もサービスも現状の程度でよい」は男女とも、年齢が高くなるほど、その割合が増加する傾向がみられる。男性の場合は、「わからない」は年齢が高くなるほど、その割合が減少する傾向がみられる。また、女性の場合は、「わからない」はいずれの年代でも3割程度となっている。

高齢者福祉サービスの利用者負担について（性・年齢別）

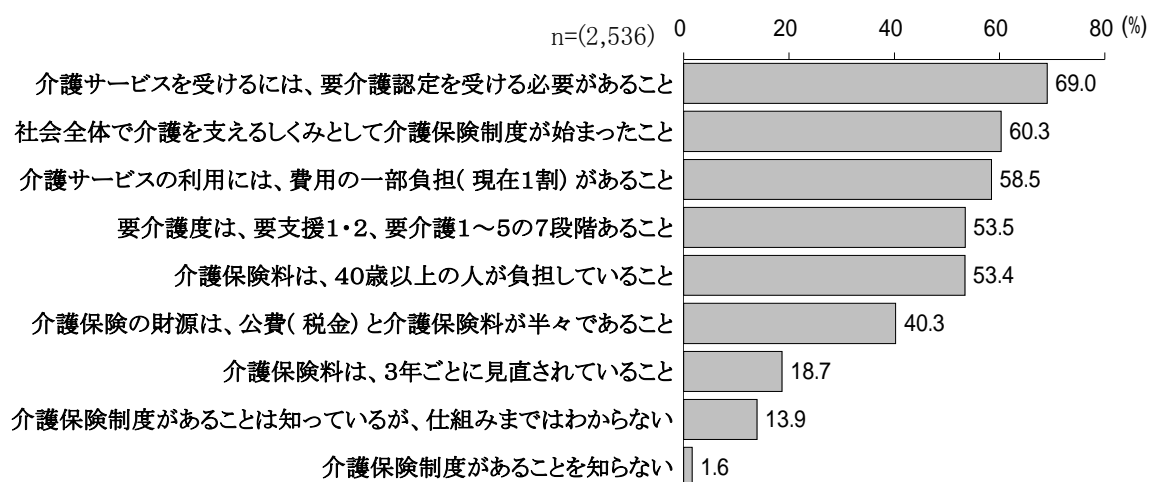


16. 介護保険制度について

(1) 介護保険制度の理解度(複数回答)

問39 現在、国の社会保障審議会(介護保険部会)などでは、平成27年度以降の介護保険制度の見直しについて、検討が進められています。あなた(ご本人)は、介護保険制度について、どの程度ご存じですか。(あてはまるものすべてに)

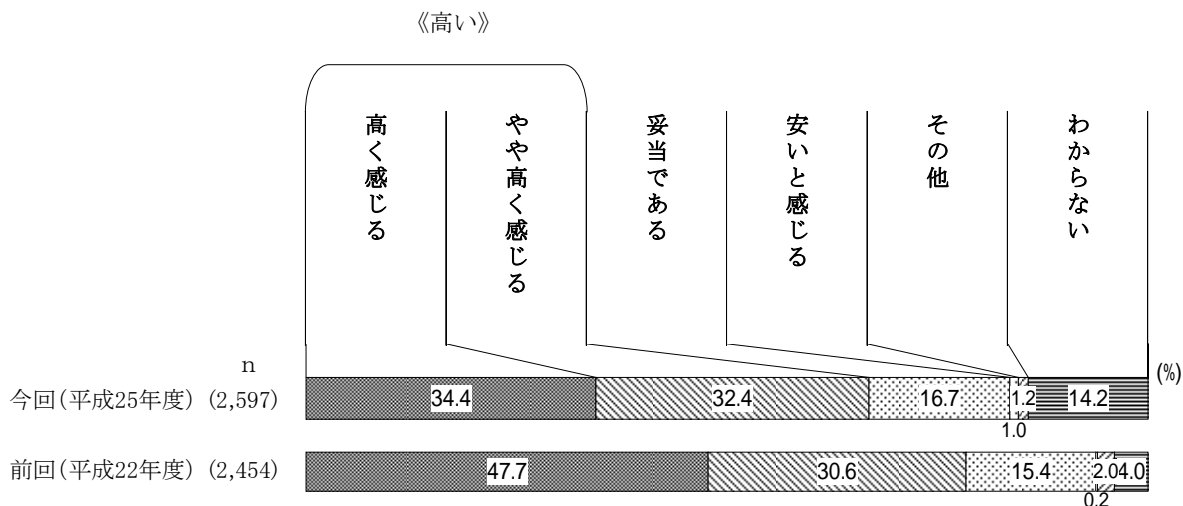
「介護サービスを受けるには、要介護認定を受ける必要があること」が7割弱で最多



介護保険制度の理解度は、「介護サービスを受けるには、要介護認定を受ける必要があること」が69.0%で最も多く、以下、「社会全体で介護を支えるしくみとして介護保険制度が始まったこと」(60.3%)、「介護サービスの利用には、費用の一部負担(現在1割)があること」(58.5%)、「要介護度は、要支援1・2、要介護1～5の7段階あること」(53.5%)、「介護保険料は、40歳以上の人負担していること」(53.4%)と続いている。

(2) 介護保険料について

問40 あなた(ご本人)は、介護保険料について、どのように感じていますか。(1つに)
 介護保険料を《高い》と感じている方は6割台半ば

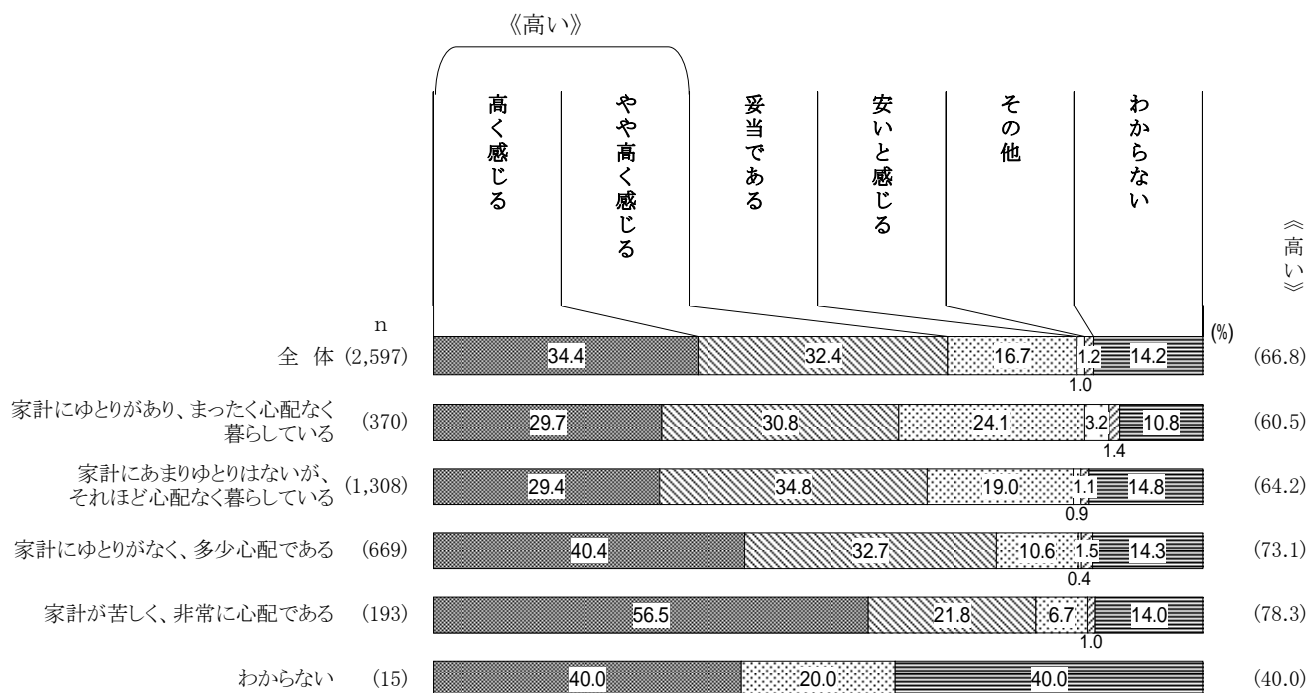


介護保険料について「高く感じる」が34.4%で最も多く、「やや高く感じる」(32.4%)をあわせると、《高い》と感じている方は全体の66.8%を占める。

前回調査と比較すると、《高い》と感じている方の割合が前回(78.3%)より11.5ポイント減少した。また、「わからない」は前回(4.0%)より10.2ポイント増加した。

暮らし向き別にみると、《高い》と感じている方の割合は、「家計が苦しく、非常に心配である」で78.3%と最も多く、暮らし向きに心配な層のほうが負担感も大きい。

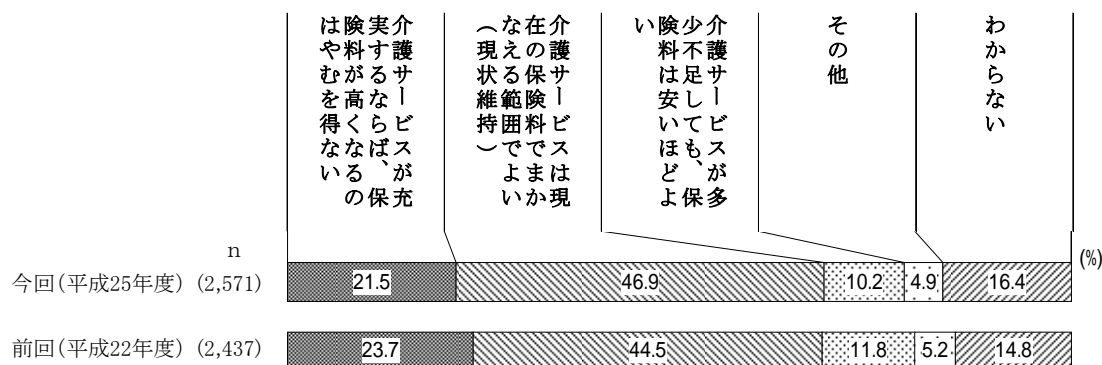
介護保険料について(暮らし向き別)



(3) 保険料とサービスに対する考え

問41 介護保険料は介護サービスの費用にあてられ、藤沢市全体のサービス利用が多いと保険料も高くなります。あなた(ご本人)の考えに最も近いものは、次のうちどれですか。
(1つに)

現状維持が4割台半ばで最多

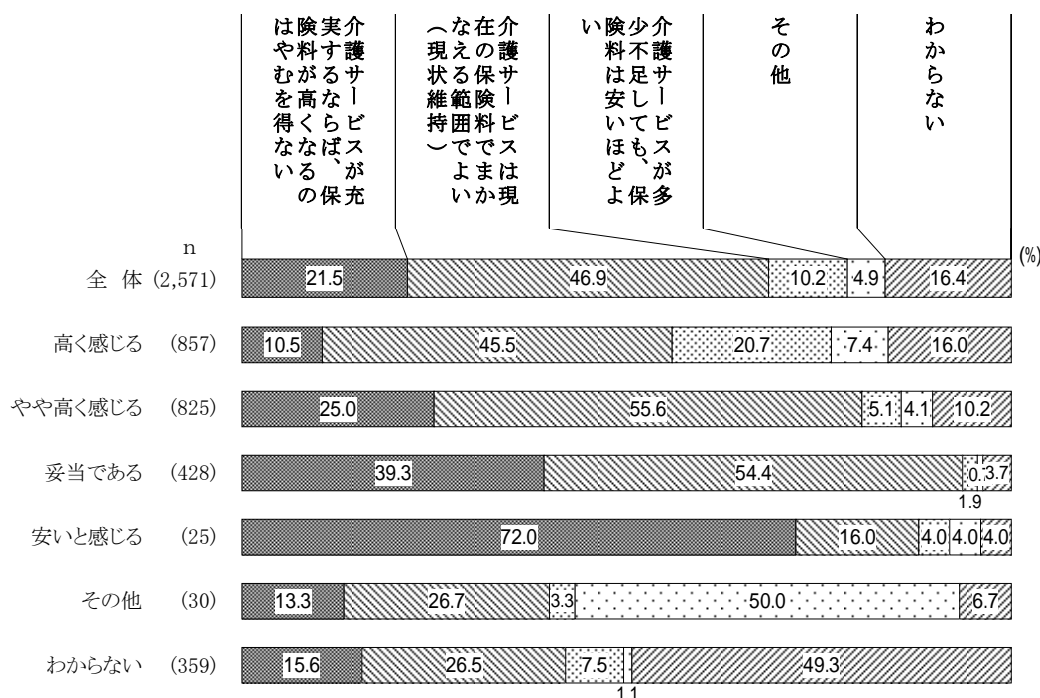


介護保険料とサービスに対する考えは、「介護サービスは現在の保険料でまかなえる範囲でよい(現状維持)」が46.9%で最も多く、次いで「介護サービスが充実するならば、保険料が高くなるのはやむを得ない」が21.5%と続いている。

前回調査と比較すると、大きな差は見られない。

介護保険料の負担感別にみると、「介護サービスが充実するならば、保険料が高くなるのはやむを得ない」は、介護保険料の負担感が大きくなるほど、その割合が減少する傾向がみられる。

保険料とサービスに対する考え(介護保険料の負担感別)



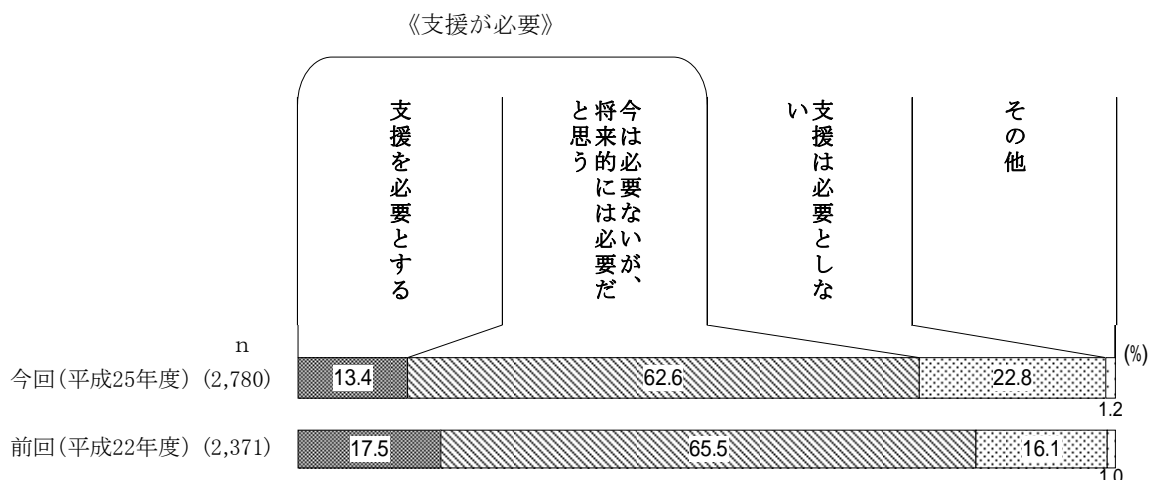
17. 災害時の避難支援について

(1) 災害時の避難支援の必要性

問42 あなた(ご本人)は、地震などの災害時に避難する際、支援を必要としますか。

(1つに)

《支援が必要》な層は7割台半ば

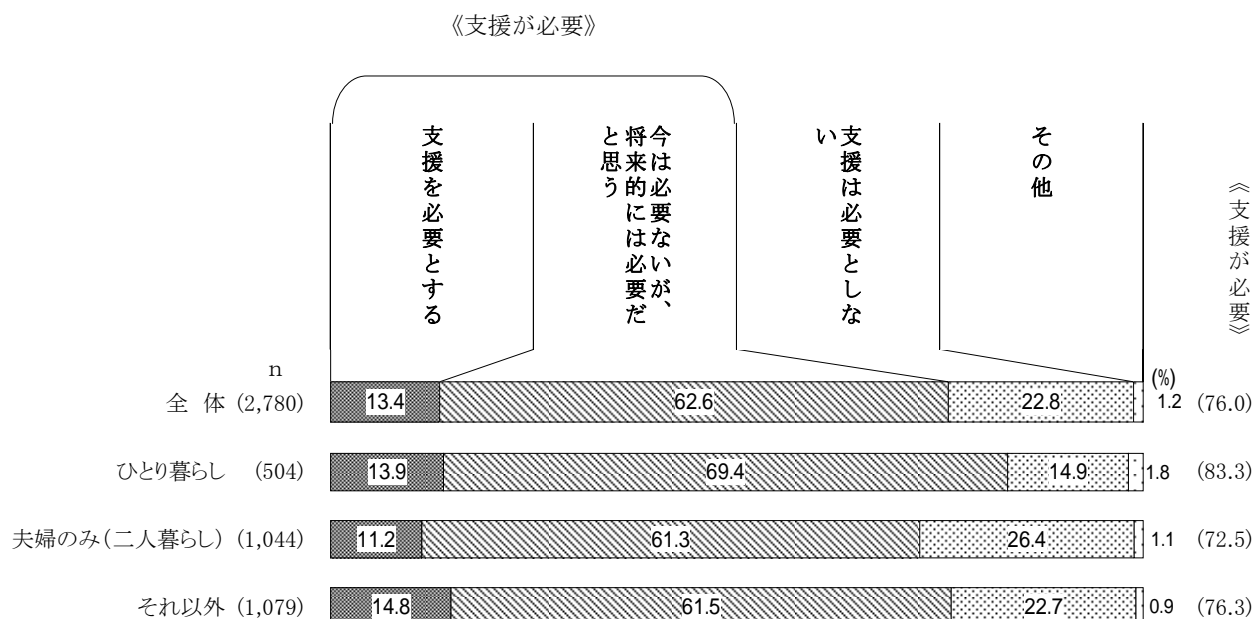


災害時の避難支援の必要性は、「今は必要ないが、将来的には必要だと思う」が62.6%で最も多く、「支援を必要とする」(13.4%)をあわせると、《支援が必要》な層は全体の76.0%を占める。

前回調査と比べて、《支援が必要》な層は前回(83.0%)より7ポイント減少した。

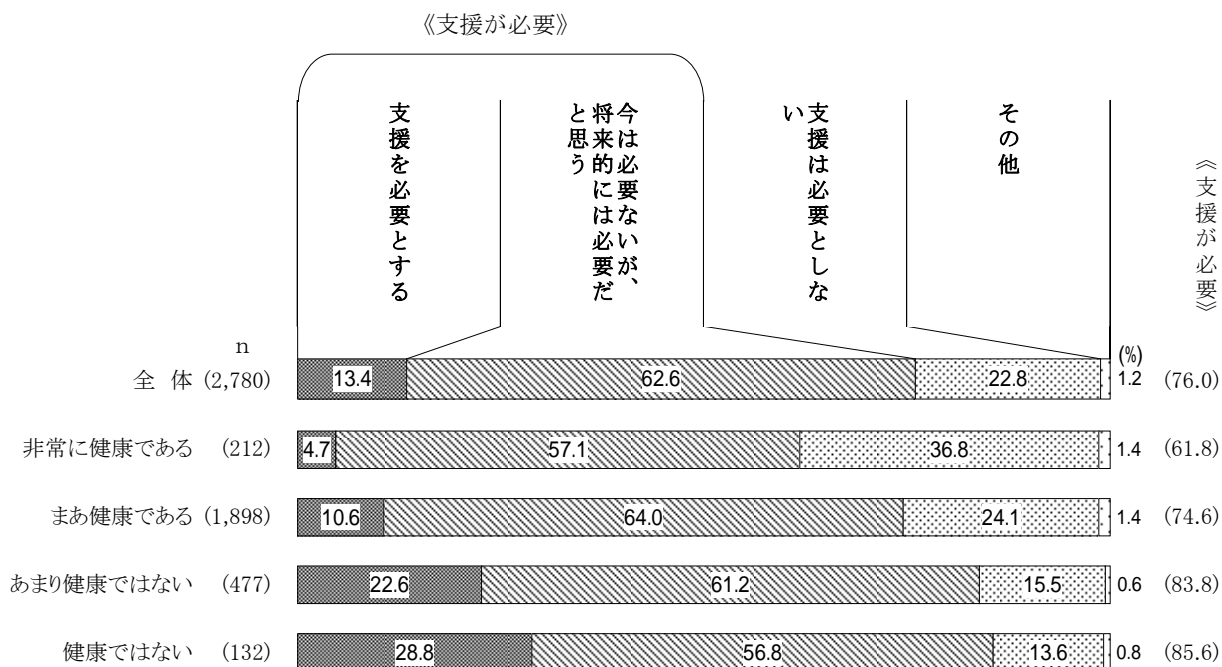
家族構成別にみると、《支援が必要》な層は、ひとり暮らしで83.3%と、他の家族構成に比べて多くなっている。

災害時の避難支援の必要性(家族構成別)



主体的健康感別にみると、《支援が必要》な層は、主体的健康感が悪くなるほど、その割合が増加する傾向がみられる。

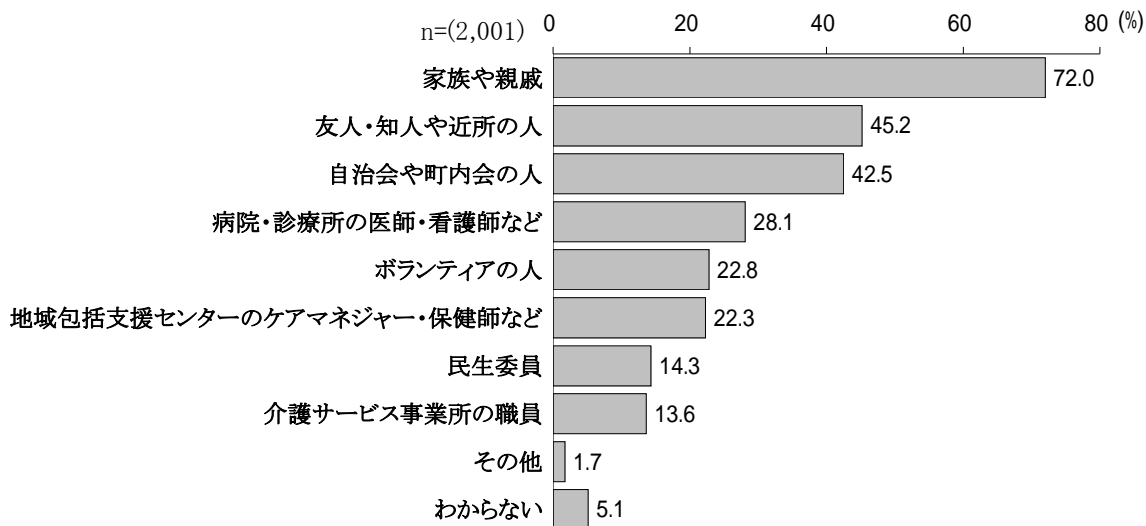
災害時の避難支援の必要性（主体的健康感別）



(2) 避難支援してもらいたい相手

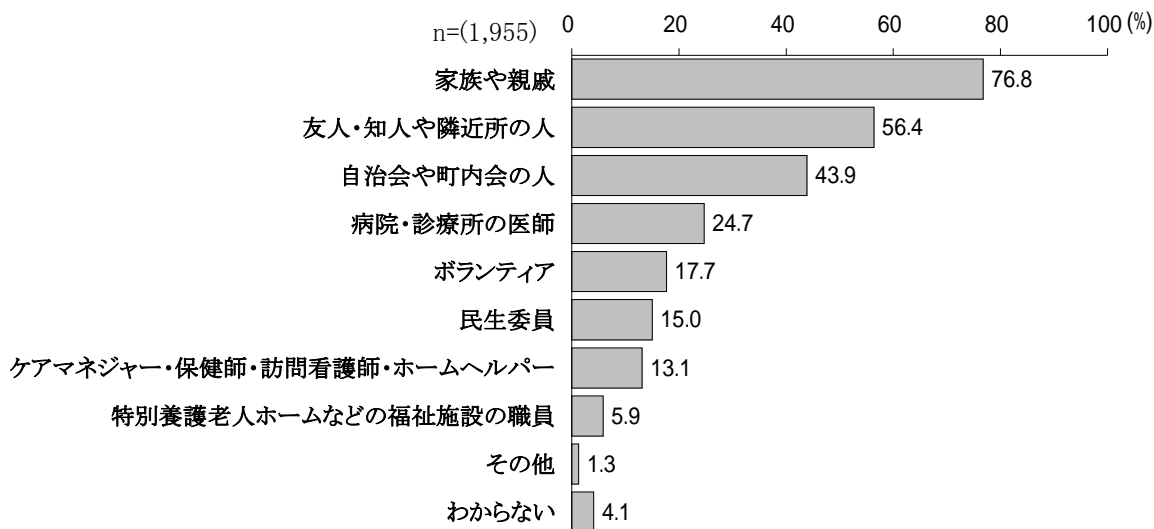
問42 - 1 《支援を必要とする方のみ（問42で「支援を必要とする」または「今は必要ないが、将来的には必要だと思う」と回答した方）お答えください》
 避難支援してもらいたい相手はどなたですか。（あてはまるものすべてに ）

避難支援先の希望は「家族や親戚」「友人・知人や近所の人」「自治会や町内会の人」の順



避難支援してもらいたい相手は、「家族や親戚」が72.0%で最も多く、以下、「友人・知人や近所の人」(45.2%)、「自治会や町内会の人」(42.5%)、「病院・診療所の医師・看護師など」(28.1%)と続いている。

【参考 前回調査(平成22年度)】

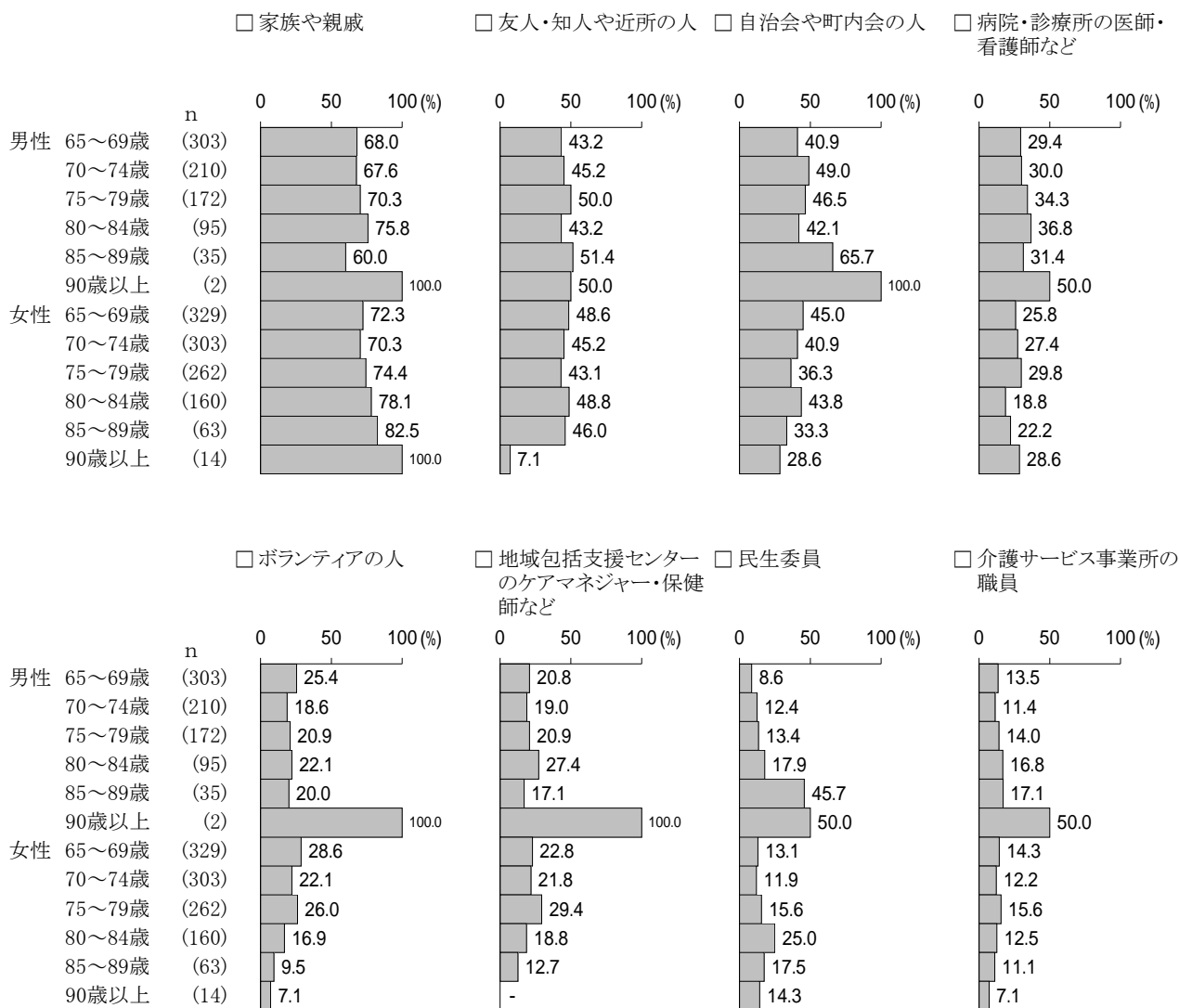


※「友人・知人や近所の人」は前回（平成22年度）では、「友人・知人や隣近所の人」

※「病院・診療所の医師・看護師など」は前回（平成22年度）では、「病院・診療所の医師」

性・年齢別にみると、「家族や親戚」は女性85～89歳で82.5%と最も多く各年齢とも女性のほうが多い。「友人・知人や近所の人」は男性75～79歳、男性85～89歳で5割台、「民生委員」は男性85～89歳で4割台と他の年齢より多くなっている。

避難支援してもらいたい相手（性・年齢別）



※「その他」「わからない」を除く

18. 自由記述

今後の高齢者保健福祉施策に対して、ご意見があれば、どのようなことでもかまいませんので、ご自由にお書きください。

今後の高齢者保健福祉施策に対して、833人からの回答があった。記載の多かった事項としては、サービス・生活支援について、高齢者保健福祉施策について、アンケートについて、介護保険施設整備についての順となっている。

各項目について、主な意見を示す。

項目	件数
サービス・生活支援について	132
高齢者保健福祉施策について	132
アンケートについて	128
介護保険施設整備について	105
介護保険制度について	98
将来の不安について	90
介護予防・健康づくりについて	88
行政に対する期待について	85
街づくりについて	76
介護保険料等について	72
自治会・町内会・民生委員について	54
広報・PRについて	54
ボランティア・社会参加について	52
相談体制について	49
ひとり暮らし高齢者について	39
医療体制について	36
住まいについて	32
交通費の補助について	27
高齢者の就労について	24
災害対策について	21
要介護認定について	21
業者・従業員について	19

※複数の記載内容があるため、合計の件数と回答者数は一致しない。

【サービス・生活支援について】・・・132件

サービス・生活支援を向上・充実させてほしい	44
現状では利用していない	17
過剰・不要と感じるサービスがある	13
公平にサービスを受けたい	13
周知・情報提供が必要	13
サービス・生活支援を利用している	11
介護サービスの将来に不安を感じる	9
家族等介護者への支援を増やしてほしい	9
料金・負担が大きい	8
健康や予防に関して支援をしてほしい	6
必要なサービスを受けられるのか不安を感じている	6
負担増は止むを得ない	4
どのようなサービスがあるかわからない	4
高齢者の介護参加や自立が必要である	2
介護支援を受けずに済ませたい	2
精神的な支援をしてほしい	2
手続きが複雑すぎる	1

【高齢者保健福祉施策について】・・・132件

在宅介護施策の充実が必要である	32
情報提供に力を入れてほしい	22
現状では特に意識していない	21
高齢化社会には必要である	14
制度を改善してほしい	14
健康管理を支援してほしい	12
経費を節減してほしい	10
自立を支援してほしい	9
高齢者保健福祉施策は充実している	8
経済的に支援をしてほしい	6
負担は少なくしてほしい	5
過度の福祉は不要である	3

【アンケートについて】・・・128件

今は元気なので時間がない、回答しづらい	35
アンケートを通じて勉強になった	31
アンケートに対する批判	28
調査内容がわからない	24
このようなアンケートはありがたい	10

第2章 調査結果の詳細

結果を公表してほしい	1
内容の控えがほしい	1

【介護保険施設整備について】・・・105件

特別養護老人ホームを増やしてほしい	35
介護保健施設を増やしてほしい	33
すぐに入所できる施設を増やしてほしい	25
安価な施設を増やしてほしい	17
施設についての情報がほしい	6
ショートステイを増やしてほしい	4
グループホームを増やしてほしい	2
施設入所の基準を見直してほしい	2
施設のサービスの質を上げてほしい	1

【介護保険制度について】・・・98件

介護保険制度の改善をしてほしい	40
介護保険制度の情報がほしい	19
現在は利用していない、意識していない	17
介護保険制度を公平に運用してほしい	11
支援が不十分である	8
利用者の意識を変える必要がある	8
なるべく利用したくない、自立したい	7
介護保険制度を利用しやすくしてほしい	6
介護保険制度の現状に満足している	5
介護保険制度の利用機会を増やしてほしい	4
サービスを充実してほしい	4
介護保険制度の見直しに反対である	2

【将来の不安について】・・・90件

将来についての不安	33
健康面・身体面の不安	22
経済的な不安	18
今後の高齢化社会に対する不安	8
施設入所に対する不安	7
介護に関する不安	7
一人になった時の不安	4
自分の家族に対する不安	3

【介護予防・健康づくりについて】・・・88件

個人の意識や取り組みが必要である	30
予防医療に重点を置いてほしい	16
地域の支援が必要である	11
運動施設等の整備を進めてほしい	10
支援を拡大してほしい	10
介護予防講座・講演会等を充実してほしい	8
運動施設等を利用している	6
関連施設や施策に対する情報がほしい	5
介護予防等あまり考えた事がない	3
家族の支えが必要である	1

【行政に関する期待について】・・・85件

市政の高齢者支援を充実してほしい	19
介護福祉制度を充実してほしい	14
不正と不公平に対処してほしい	11
市独自の政策を展開してほしい	11
経済的に支援してほしい	10
無駄遣いをなくしてほしい	10
情報提供をしてほしい	8
定期的に情報収集をしてほしい	5
災害対策をしてほしい	5
環境を整備してほしい	4

【街づくりについて】・・・76件

公共施設を整備してほしい	28
交通機関を整備してほしい	21
医療・福祉施設を拡充してほしい	14
交通費の支援がほしい	6
道路を整備してほしい	5
高齢者にやさしい街づくりを進めてほしい	4
バリアフリーを進めてほしい	2
商業施設を整備してほしい	1
犯罪のない街づくりをしてほしい	1

【介護保険料等について】・・・72件

経済的に負担が大きい	21
介護保険料が高い	20
介護保険料の使い道を改善してほしい	15

第2章 調査結果の詳細

介護保険料に不満を感じている	12
負担の増加は止むを得ない	8
介護保険料の負担は必要である	8
介護保険料は特に意識していない	2
情報がもっとほしい	2

【自治会・町内会・民生委員について】・・・54件

民生委員に対して不満がある	20
自治会・町内会活動を充実してほしい	12
自治会・町内会活動に不満がある	10
民生委員の活動が活発でない	5
自治会・町内会で意志疎通をしてほしい	3
民生委員の活動に期待、満足している	2
自治会・町内会・民生委員の活動は特に意識していない	2

【広報・PRについて】・・・54件

周知活動を徹底してほしい	44
パンフレット等の資料がほしい	7
パソコン等がないので情報を入手できない	3
事業者情報を周知してほしい	1
利用の仕方を教えてほしい	1

【ボランティア・社会参加について】・・・52件

高齢者のボランティア参加を進めてほしい	21
ボランティアに参加したい	8
誰でも自由に参加出来る活動を充実してほしい	5
参加する余裕がない、出来ない	5
ボランティア活動を行っている	5
ボランティアを必要としている	4
有償ボランティア事業の採用を進めてほしい	3
ボランティア活動への支援がほしい	2
ボランティアの負担が大きい	1

【相談体制について】・・・49件

相談窓口を充実してほしい	13
相談窓口についての情報提供をしてほしい	9
相談窓口を利用した経験がある	9
相談窓口を利用したい	7
どこに相談したらいいかわからない	5

相談窓口に対して不満がある	4
必要な時の相談窓口は把握している	3
訪問してほしい	2

【ひとり暮らし高齢者について】…39件

安否確認・見守り活動を充実してほしい	16
行政の援助を受けたい	7
ひとり暮らしをしている	7
近所の人等と交流を持ちたい	5
ひとり暮らしの将来に不安を感じている	4
ひとり暮らし高齢者に対して金銭面の援助をしてほしい	2
ひとり暮らし高齢者になってしまった時の不安	1
ひとり暮らし高齢者に対するケアを充実してほしい	1
支援に関する情報がほしい	1

【医療体制について】…36件

地域の医療支援を充実してほしい	9
尊厳死を認めてほしい	5
医療費の支援がほしい	4
緊急時の対策を充実してほしい	3
医師の対応に不満がある	3
医療費の無駄をなくしてほしい	3
すぐに入院できる病院を増やしてほしい	2
自宅で療養したい	2
難病の医療費の支援がほしい	1
医療福祉に頼らず生活したい	1
かかりつけ医が不足している	1
病院で入院生活を送りたい	1
相談窓口がほしい	1

【住まいについて】…32件

生活が忙しい	5
親族、親戚等と離れて暮している	4
金銭的な援助がほしい	4
行政の支援がほしい	4
近所づきあいが無い	3
エレベーターがなくて困っている	2
老人ホームに入りたい	2
住居環境が悪い	2

第2章 調査結果の詳細

ひとり暮らし、一人の時に不安がある	2
要介護認定者と同居している	1
外出はあまりしないで暮している	1
自宅で生活したい	1
外出したい	1

【交通費の補助について】・・・27件

交通費割引・補助を進めてほしい	18
交通費を無料にしてほしい	8
コミュニティバスをもっと使いやすくしてほしい	4
交通費は無料でもなくともよい	1

【高齢者の就労について】・・・24件

高齢者の就労の場を提供してほしい	13
現在、仕事をしている	9
働けなくなった時が不安である	2

【災害対策について】・・・21件

災害時の避難を支援してほしい	8
避難場所を設定してほしい	5
災害時の避難支援について情報がほしい	3
放送が聞こえない	2
災害時に足手まといになりたくない	2
災害時の近所の助け合いは見込めない	1
避難場所に不安がある	1

【要介護認定について】・・・21件

認定結果に対して不満がある	9
介護認定制度を改善してほしい	5
公平に認定してほしい	3
増加する認定者の受け入れ態勢に不安を感じる	3
認定の手順が煩雑に感じる	2
介護認定の見直しには反対である	2

【業者・従業員について】・・・19件

従業員の待遇を改善してほしい	5
従業員の育成と質の向上が必要	5
従業員の応対に満足している	3
従業員の応対に不満を感じている	3
営利的に感じる	3
事業者の情報がほしい	1

